

大秘發第一〇九號

北支那航空調査ノ件報告

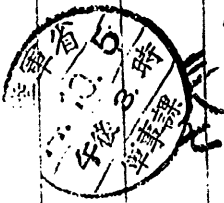
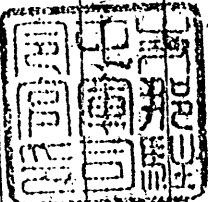
大正十四年九月十六日

陸軍大臣宇垣一成 殿

別冊北支那航空調査報告三部支那軍事調査報告例規ニ基キ及報告候也

別冊一冊
十月三日
陸軍省

陸軍省
陸軍部
陸軍省
陸軍部
陸軍省
陸軍部



陸軍省

0454



大正十四年八月末日調

北支那航空調査報告

支那駐屯軍司令部



目次

一般航空界ノ情况

第一、航空部隊

第二、航空機

第三、航空特種器材

第四、飛行場及著陸場

其一、南苑飛行場

其二、清河鎮飛行場

其三、保定飛行場

其四、鄭州飛行場

其五、天津飛行場

其六、不時著陸場及若干ノ工事ニヨリ利用シ得ル飛行場

第五、爆撃及防空

第六、教育

其一、南苑航空學校

一
四
五
八
一〇
一〇
一四
一四
一七
一九
二〇
二二
二六

其二、清河鎮航空工廠

其三、張家口航空練習所

其四、保定飛行隊

第七、航空資源及補給

其一、航空機製作及修理工場

其二、航空部品及消耗品倉庫

第八、航空地誌資料

其一、北京通州郵便飛行

其二、北京遊覽飛行

其三、北京天津間郵便連絡飛行

其四、北京北戴河間遊覽飛行

其五、鄭州洛陽間郵便飛行

其六、天津上海間郵便飛行計畫

其七、北京蘭州間航空線設置計畫

其八、西北航空線設置計畫

其九、國際航空驛設置

其十、日本海軍飛行機、北京訪問飛行

其十一、露國飛行機、北京上海訪問飛行

二三 二四 二六 二六 二六 二八 二九 二九 三二 三二 三四 三六 三七 三八 三九 四〇 四二 四三

第九 航空制度

- 其一、航空學校條例 四四
- 其二、航空工廠條例 四四
- 其三、航空署飛行人員飛行免許狀及勝任證書 五五
- 其四、京漢航空線管理局籌備處暫行簡章 五六
- 其五、國有航空線管理局編制通則 五七
- 其六、京滬航空線管理局編制章程 五八
- 其七、航空警察教練隊暫行編制 五九
- 其八、航空管理講習所簡章 六〇
- 其九、航空警察編制章程 六一
- 其十、航空署航站測候所簡章 六二
- 其十一、日本飛行機表支ニ関スル臨時辦法 六三
- 其十二、露國飛行機中國國境通過臨時辦法 六四

第十 外國勢力

附錄

各飛行場所在地ノ沿革

七一

七〇

六九

六八

六七

六六

六五

六四

六三

六二

六一

六〇

五九

五八

五七

五六

五五

五四

一般航空界ノ情況

歐洲戰ノ結果ニヨリ覺醒セラレタル支那航空界ハ世界ノ進運ニ落伍セサルヘキヲ期シ先ニ借款ニヨリ主トシテ英國ヨリ多數ノ飛行機ヲ購入シ外人ヲ傭聘シ航空諸制度ヲ改定シ膨大ナル計畫ヲ以テ航空界ノ刷新ヲ圖リ其外觀ニ表ハレタル規模制度條令等ハ相當ニ整頓セラレタリ而シテ航空省ハ航空ノ發達ハ國民全般ノ理解ヲ必要トスルノ主義ニ基キ常ニ之カ宣傳ニ力メ航空智識ノ普及ニ少ナカラサル苦心ヲ為シツツアルカ如ク郵便交通飛行等ハ時機ヲ得ル毎ニ其實施ヲ企圖シアリ

然レトモ中央財政ハ逐年窮乏シ航空界ニノミ獨

リ多額ノ費用ヲ投スル能ハス之ヲ數年前ニ比ス
 レハ諸般ノ規模ハ寧リ口著シク縮少セラレ航空署
 職員、工廠職工ノ減員、外人顧問ノ減少、格納庫
 ノ破損ノ儘ナルハ其一端ヲ物語ルモノナリ十二年
 趙玉珂ノ航空署長ニ就任シ航空界ノ改善ニ大
 ニ努力カセシカ其実績ヲ擧グルニ至ラスシテ傍
 二次奉直戦ハ開始セラレタリ此戦役ニヨリ戦場ニ
 参加ノ飛行機ノ全部ヲ奉軍ニ函獲セラレシモ戦
 後南苑飛行學校清河鎮工廠ニ於テハ引續キ飛
 行術ノ練習ヲ行ヒツツアリ本年五月日本海軍機
 ノ北京訪問次テ露國飛行機ノ来京ハ幾分ノ刺
 戟ヲ與ハタルナルヘリ目下日本ヘノ答禮飛行トシテ
 大型二機ヲ清河鎮工廠ニテ組立中ナリト

参考

十三年奉直戦ヨリ見タル北支那航空界ノ戦時能力

北支那ニ最大ノ軍権ヲ有スル吳佩孚カ第二次奉直戦ニ際シ編成シタル航空隊ハ蓋シ其最大能力ナルハシ
航空隊ニ関スル討逆軍命令及軍隊區分左ノ如シ

討逆軍命令ノ一部

航空隊第一第三隊ノ兩隊ハ滦州ニ飛機場ヲ設ク航空隊第二隊ノ飛機場ハ第三軍總司令選擇ス

航空隊ノ編成

航空司令 敖景文

航空付司令 趙雲鵬

航空第一隊長 鄧建中

大維梅 (大型「ツキイ」式) 二架

愛弗羅 (エプロ) 二架

小維梅 (小型「ツキイ」式) 三架

克的斯 (カーキス) 二架

牛時兒 (ニエーホル) 一架

航空第二隊々長 張画一

大維梅

小維梅

愛弗羅

克的斯

牛時兎

- 二 架
- 三 架
- 二 架
- 二 架
- 一 架

航空第三隊々長 教司令兼代

大維梅

小維梅

愛弗羅

克的斯

- 二 架
- 三 架
- 二 架
- 二 架

此命令ニヨリテ觀察スルニ同一方面ニ使用スル航空隊ニ各型式ヲ
 異ニスルモノヲ分割配屬スルハ其使用ヲ困難ナラシムルモノニシテ眞ニ
 航空隊ノ用法ヲ知ラサルモノナシタル編成ニシテ唯戰場ニ運搬シ
 テ直軍將卒ニ各種ノ飛行機ヲ有スルコトヲ示シタルニ止マルノ感
 アリ

而シテニューボール機 ウエーメー小型機 カーチス機ハ保定航空隊
 ヨリウエーメー大型機及エプロ機ハ清河鎮航空工廠ニ格納シア

リシヲ戦場ニ鉄道輸送シ滦州飛行場ニ十一機北戴河飛行
 場(同地赤土山東麓)ニ六機東塩務飛行場(秦皇島北方四吉
 米)ニ六機配属セラレタリ然レトモ此等ノ中ニハ既ニ老朽使用ニ堪
 ハサルモノモアリ随テ充分ノ活動力ナク常ニ奉軍飛行隊ニ壓迫
 セラレ僅ニ數回陣地附近ヲ飛翔セシニ止マリ敵線内ニ進入セシ
 ハ九月二十五日一機萬家屯附近冷水河左岸奉軍陣地ヲ領察
 シ爆彈ヲ投下セルコトアリシノミナリキ
 此ノ如ク航空隊トシテノ性能ヲ殆ント發揮シ能ハサリシハ飛行機
 數ノ不足ヨリ寧リ操縦者ニ適當ノ人ヲ得サルニ起因スルカ如シ
 蓋シ戦後南苑清河鎮ニ尚ホ相当使用シ得ル飛行機ノ残存ス
 ルニヨリ觀テモ其然ルヲ覺ス

第一航空部隊

航空部隊トシテハ從來保定及洛陽ニ各飛行隊ヲ有シ十三年奉直戦ニ際シテハ之ヲ動員シ山海関方面ニ出動セシメシカ直軍敗戦後ハ保定ニ在リシ残餘ノ飛行隊ハ國民軍第三軍孫岳其手ニ收メ洛陽飛行隊ハ一度洛陽ニ帰還セル吳佩孚ノ河南退去ニヨリ自然解散セリ

而シテ前者ハ國民軍第三軍ノ直隸ヨリ河南ニ移動シ次テ陝西ニ進入スルニ隨ヒ新郷・鄭州ト移動シ現在ニ於テハ其主力ハ洛陽ニ位置シアリ使用シ得ハキ機數ハ約二十ナルモ其編制詳カナラス

第二、航空機

北支那ニ於ケル航空機ノ所在地及員數附表第一
ノ如ク同航空機ノ性能附表第二ノ如ク

附表第一

北支那ニ於ケル航空機所在地及員數表

十四年八月調

所屬	所在地	種類						計	摘要
		大型	中型	小型	エプロ式	三ボルト式	カーボ式		
中央航空署	北京南苑航空學校 (航空練習所ト之稱ス)		二			一	二	一五	エプロ式十二機、 中使用シ得サルモ ノ六機ナリト云フ
中央航空署	清河鎮航空工廠		三				三	一〇	以上カエーエー式五、 及エプロ式三ノ合計 格納ニアリト云フ
國民軍 第三軍	鄭州飛行場		一		二			三	
國民軍 第三軍	洛陽飛行場		一			三		四	保定飛行隊此地 ニ移駐ス
合計		七	七	一八	二	三	四	四	四五

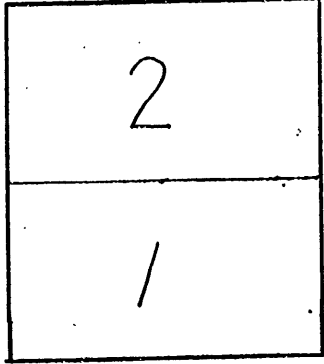

備考

一、奉直戰後天津東機務局西方復興莊ニ在リシ奉軍飛行機十五機ハ其後逐次奉天ニ還送セラレ十四年十一月十五日遂ニ全部ヲ引上ケタリ

二、十四年五月下旬佛國ヨリ飛行機材料八箱(十一機分)天津ヲ經テ北京航空署ニ到着セルモ六月中旬ニ至リ箱詰ノ儘奉天線ニヨリ奉天ニ向ヒ発送セラレタリ

三、馮玉祥ハ最近露國ヨリ大型四、小型六、計十機ヲ購入セリト云フ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7 年 8 月 8 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

北支那ニ於ケル航空機性能一覽表

名稱	型式	用途	武装	航續力	速力	上昇力	構造	弁動機	
								馬力	特種装置
大型 シムメー式	複葉 複葉 動機	平時 交通用 戰時 爆撃用 全機備用	武装 装置 有セス	最大 六時間 通常 四時間	一時間 一哩		長 四〇尺 翼長 六〇尺 兩翼 弁動 機各一個 乘客用椅 子九個 十一人乗	三六〇 二個有 機初 合計 七二〇 ス	七五 六八 二
小型 シムメー式	複葉 單弁 動機	戰時 偵察用 全直戰 十封度 彈四個 翼下 置爆 投下用	同右				弁動機 一個 二人乗	大型 三六〇 同型	六六 六六 二
エプロ式	同右	同右	同右				長 二〇尺 翼長 五〇尺 弁動機 各一 推進機 推進機前 方 二人乗		六六 六六 二
コロド式	同右	同右	同右				二人乗		一六 一六 一
ハンドレ パーシ式	複葉 複葉 動機	商業用					二十四人乗 内二名 縦考	七二〇	六 六 一
カーキス式		教練機					二人乗		八 八 一
ニボル式		戦闘用					一人乗	式 洋國	二 二 一
式不明 (駆逐用)	複葉 單弁 動機	駆逐用						一五〇	二 二 一
式不明	同右	同右						一八〇	不明 一
計									一七五 一六九 九

備考
一、ピツカース會社ヨリ購入シタルモノハ表面上商用ト稱シ交通部ト契約
實質ハ軍用ト認ムルヲ得ルシ
右ハ十年六月迄ニ到着セリ其一部ハ民國九年政變ノ際奉軍ノ手
ニ大正十一年仲秋節ニ於ケル北京駐屯部隊ノ觀兵式ニハ飛行機二台リ

第三、航空特種器材

一、自動車

1. 南苑航空学校

兼用自動車 一

2. 清河航空工廠

兼用自動車、附近ノ道路不良ノ為目

下使用シアラズ

二輪自動車目撃シタルモノニ台アリ

3. 洛陽

米國製六十馬力二人乃至四人兼、兼用自動車

五、六輛ト貨物自動車一輛ト有ス 元來保定督軍署

ニアリシモノナリ

二、計器

南苑航空学校ニ教育用トシテ若干備附ケラレタル由ナルモ種類員數所在其他一切不明ナリ

三、通信器材

清河工廠内北部空地ニ飛行機トノ通信ニ供スル小無線機ヲ設備ス(電柱ノ高サ目算約二〇米 中徑約一五センチ 中線ハ一線)

別ニ無線電信及電話室アリ 機械二個ヲ有ス 北京、保定、洛陽等ニハ陸上ニ無線電信建設セラレアルモ

果シテ航空機トノ通信ニ使用シ得ルヤ明カナラス

四、写真器材

清河航空工廠員ノ言ニ據ルハ南苑学校ニ於テ写真ニ関スル研究ノ實施シアリト嘗テ空中ヨリ見タル北京城内ト称スル写真ヲ新聞ニテ見タルコトアルモ果シテ支那人飛行家カ支那ノ写真機ニテ撮影セルモノナルヤ不明ナリ奉直戦争中呂黎ヨリ米人カ写真機ヲ携ヘテ直軍ノ飛行機ニ搭乗セシコトアリ其他航空写真ニ就テ見聞セル件ナシ

五、防空兵器

十一年奉直戦争中奉軍ハ山海関ニテ高射砲ヲ使用セリ談高射砲ハ口米口セシテ三十五口径ナリ自動車ニ積載運搬セリ
十三年奉直戦ノ開始マラルルヤ直軍ハ北京伊太利兵營ニアリシ二門ヲ購入シ又海軍砲ノ小ナルモノヲ離脱シテ之ヲ臨時高射ニ用ルル設備ヲナシ共ニ山海関停車場附近ニ用ヒタリ

六、其他

イ、探照燈二箇(伊國製) 保定飛行隊ニアリシカ十三年奉直戦ニ北戴河第一航空隊ニテ使用シ後奉軍ニ鹵獲セララル
ロ、機関銃(米國製ニシテ連續百発射シ得)十挺 戦前

吳佩孚ヨリ保定飛行隊ニ送付シ「ニーポール」戦闘機
 ニ挺ヲ装着シ北戴河第一航空隊ニ發送ス残部ハ目
 下洛陽ニ轉送セラレアルハシ
 ハ、飛行機投下用爆弾
 百八十封度爆弾（伊國製）
 八十封度爆弾（支那上海製）
 数量不明
 右保定航空隊ニアリシカ目下洛陽ニ運搬セラレアルハシ

第四、飛行場及著陸場

其一、南苑飛行場

一、飛行場ノ配置 別紙要圖ノ如シ

二、飛行場

一、幅員 東西約一〇〇〇米
南北約八〇〇米

二、滑走場 草地ニシテ平坦ナリ、第士師ノ練兵場ナリ

三、周圍地物ノ状態

南側 第十一師ノ兵營

西側 格納庫及學校ノ建物アリ

東側 北側 畑地ニ連接シ、蔽開平坦ナルモ間隔大ナル

並木ヲ其限界ニ有ス

三、附屬設備

一、格納庫

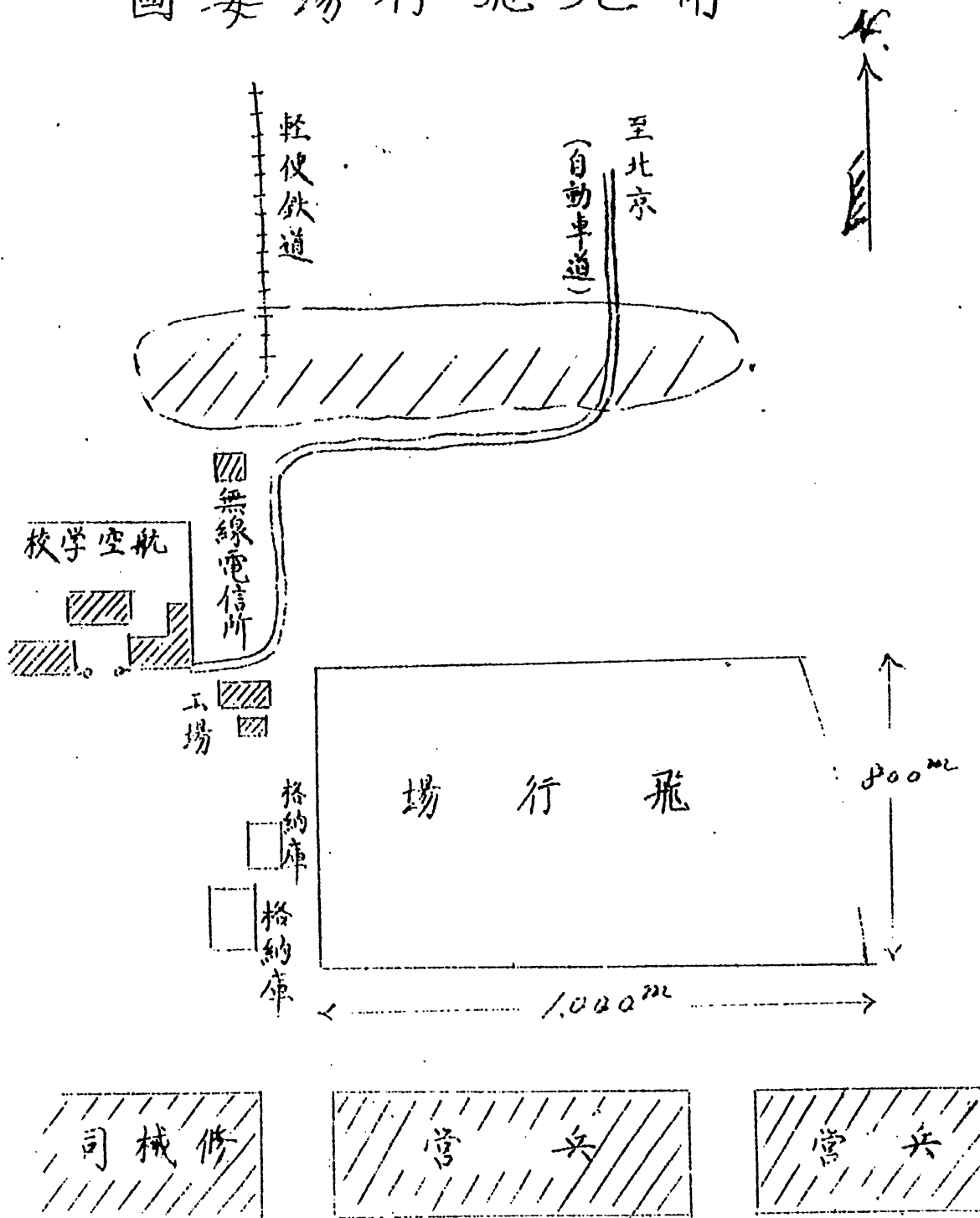
著陸場西側ニアリ、連接スルニ棟ヨリ成リ北部ノ分ハ
「ゴブ」式十三機ヲ、南部ノ分ハ「ウエー」大型一機及
小型三乃至四ヲ收容シ得

南部ノ分、屋根ハ布張りナルモ著シク破レ雨露
ニ對シ格納飛行機ヲ曝露ス

口、修理工場

幅約一五米、長サ約三〇米ノ小建物ニシテ小修理
ヲ為スヘ大修理ハ清河镇工廠ニ於テ行フ職工ハ六十
名ナリト云フモ当日實際就業シアル者ハ十數
名ニ過トス修理工場ニテハ已ニエブロ式四機ノ修
理ヲ了リ更ニエブロ式二機ノ修理中ナリ

南苑飛行場要圖



其二、清河鎮飛行場

一、飛行場ノ配置 別紙要図ノ如シ

二、飛行場

イ、幅員 東西一八〇〇米
北一〇〇〇米

ロ、周圍ノ地物

南北ハ畑地ニ連絡シ平坦ナリ、東側ハ格納庫及工
廠ノ建物(高さ約一五米)ヲ有シ、西側ハ鐵道線路及
停車場建物ヲ有ス

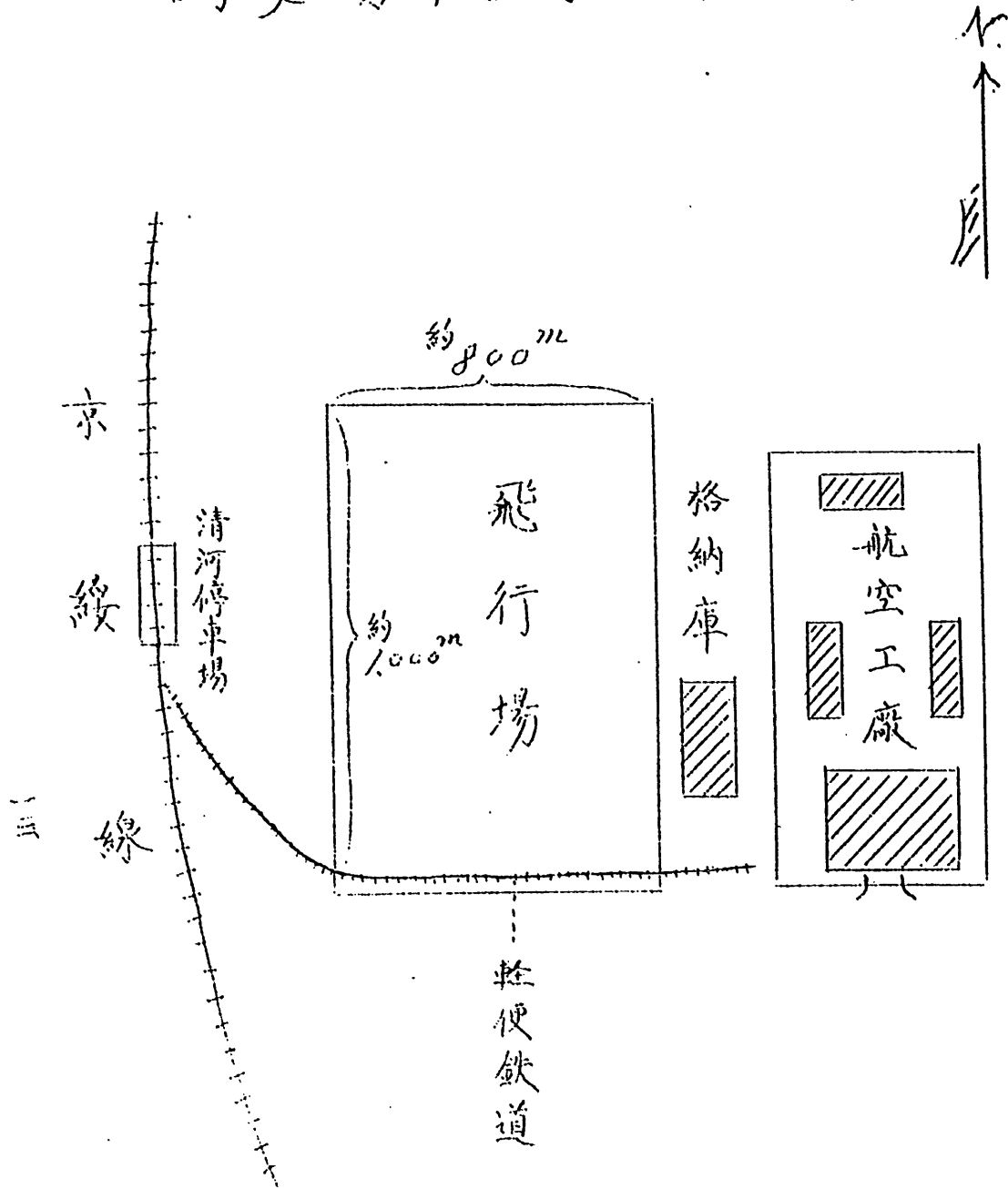
ハ、滑走地 草地ニシテ平坦ナリ

三、附屬設備

イ、格納庫

飛行機格納庫ハ四棟ヨリ成リ一棟ニハ大型ウエーメ
ー式二機及エブロー式二機、エブロー式又ハ小型ウエ
ーメー式ナラハ六機ヲ收容シ得

清河鎮著名陸場要圖



其三 保定飛行場

飛行場ハ市ノ東南方ニ當ル市外ニシテ約十萬坪ヲ有シ格納庫五棟アリ
飛行場トシテハ稍狹キ感アルモ場ノ形状ハ理想的ナリト云フ

其四、鄭州飛行場

一、飛行場ノ配置 別紙要図ノ如シ

二、飛行場

イ、幅員

東西 廣キ箇所四二〇米、狭キ箇所三五〇米
南北 約三八〇米

ロ、滑走場

草地ニシテ平坦ナリ
排水ノ設備ナキヲ以テ降雨後ニハ所々ニ浅キ水溜ヲ生スル
モ飛行ニハ支障ナシ

ハ、周圍地物ノ状態

東側 隴海平務所及住宅ハ平屋建ニシテ其周圍ノ

樹木ハ高サ十二米ヲ超エズ

西北側 馬店ト称スル小村落アリ戸数五、六十 槐樹多ク其

高サ約十五米

南側 畑地

西側 畑地、約六百米ヲ距テテ四個ノ煉瓦窯アリ

ニ、停車場ヨリノ交通路

馬車道ニシテ凹凸甚ク自動車ノ平滑ナル運轉ヲ為
シ得ス但シ自動車ニ改修ハ僅カニ千二百米ノ距離ナレハ容

易ナリ

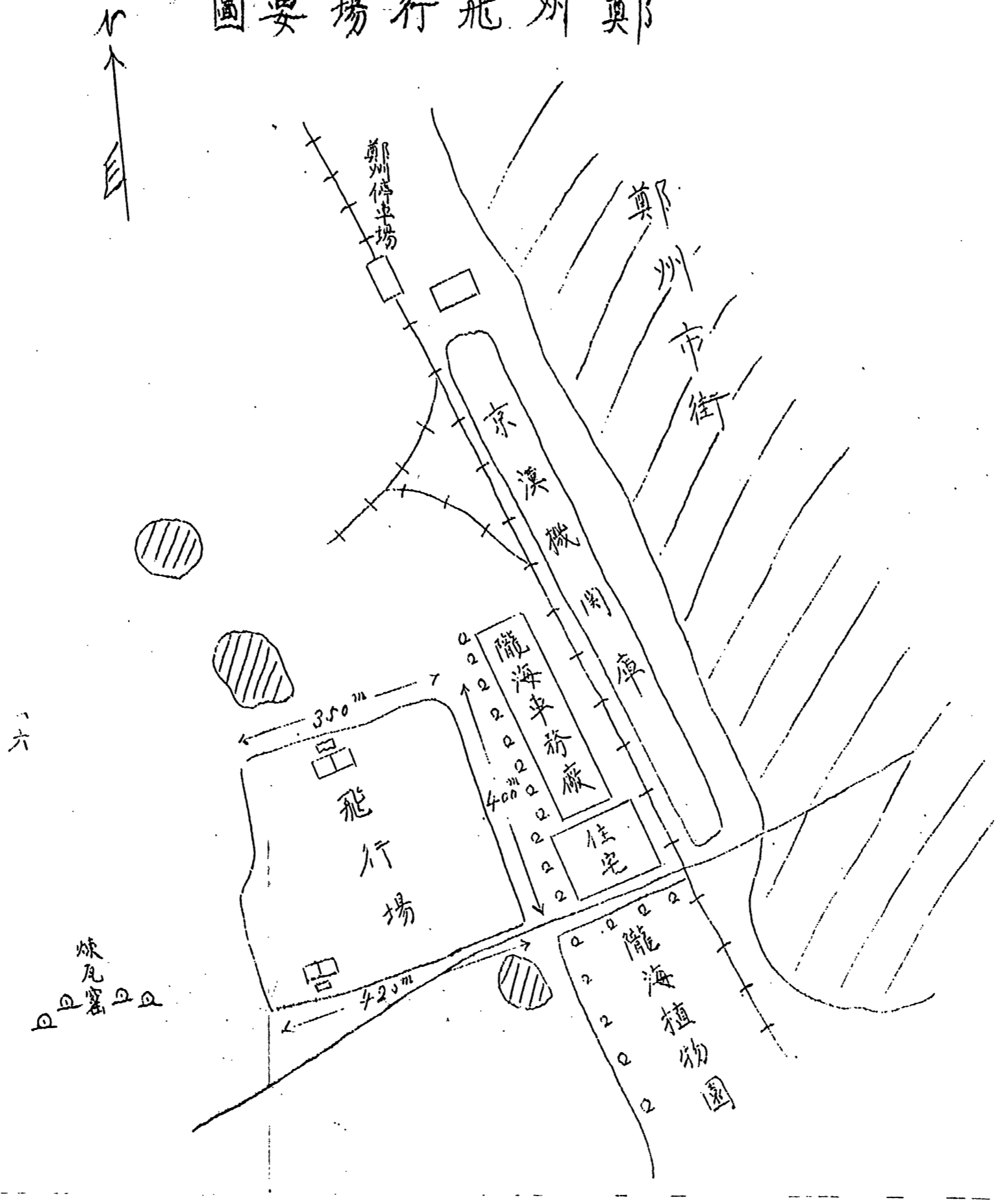
三、附属設備

イ、格納庫

格納庫ハアンペラニテ蓋ヒタル單簡ナルモノニシテ四個アリ場ノ北端ニ並列シテ二個アリ各間口十六米・奥行九米半・高サ七米アリ其背後ニ倉庫兼工場トモ称スハキアンペラ小屋アリ場ノ西南隅ニ二個アリ各間口十六米・奥行六米・高サ六米ニシテ其背後ニ小屋ヲ附属ス

0429

鄭州飛行場要圖



六

其五、天津飛行場

天津飛行場ハ十三年奉直戦直後ニ関内ニ進入
セル奉軍ノ新設使用セルモノナルカ間モナク撤去セリ

一、飛行場ノ配置 別紙要圖ノ如シ

二、飛行場

イ、幅員、 東西約五〇〇米
南北約一三〇〇米

ロ、滑走場、平坦ニシテ凹凸ナシ

ハ、周圍ノ状態、四周ニ飛行ノ障碍トナルヘキモノ殆トナシ

二、停車場トノ交通

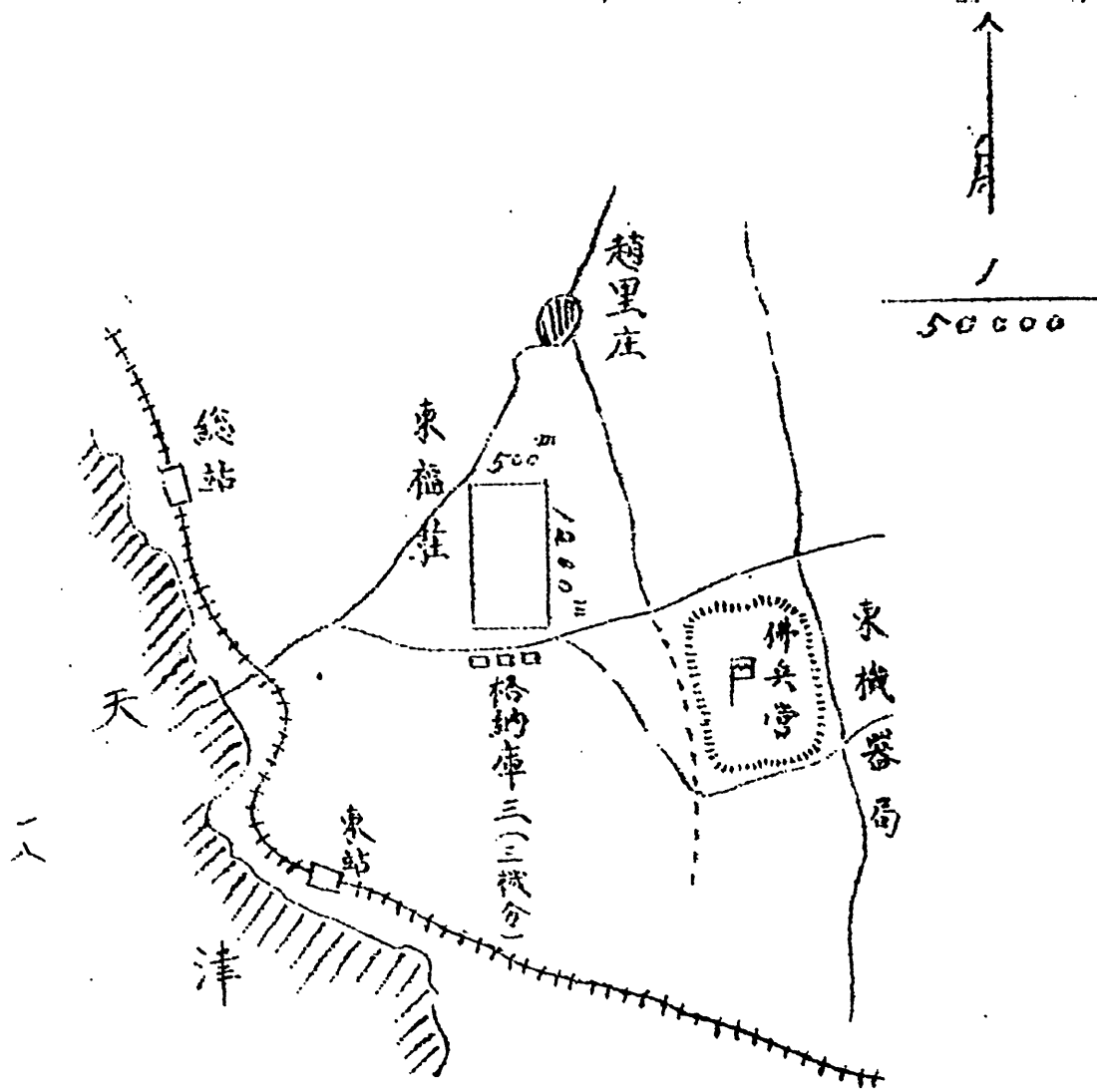
馬車ハ通シ得ルモ自動車ノ運行ニハ困難ナリ

三、附属設備

イ、格納庫

三機ヲ收容シ得ル格納庫ニ棟、一機ヲ收容シ得ル
格納庫四棟アリ

天津東側奉軍飛行場要場圖



其六、不時着陸場及若干ノ工事ニヨリ

利用シ得ハキ飛行場

京奉、京漢、津浦各鉄道沿線地帯ニ於テ十萬分地圖上草地ハ各季ヲ通シ不時着陸場ニ適シ又若干ノ改修ヲ加フレハ完全ナル飛行場ニ適スルモノ多シ

乾田及畑地ハ耕作物ノ種類ニ依リ異ナルモ大体ニ於テ耕作物繁茂期ハ特ニ大ナル除草及地均シ作業ヲ要ス高粱畑ニ於テ殊ニ然リ

濕地ハ夏季増水期ニ於テ泥濘トナルモ秋冬ノ二季ニ於テハ大体滑走ニ支障ナシ砂地ハ概ネ脆柔ニシテ不適當ナルモ芝生ノ砂地ハ飛行必スシテ不可能ニアラス

氣象ハ一般ニ靜穩ニシテ飛行ヲ妨ケスト雖春季
蒙古風ノ場合ニハ飛行困難ナルハシ

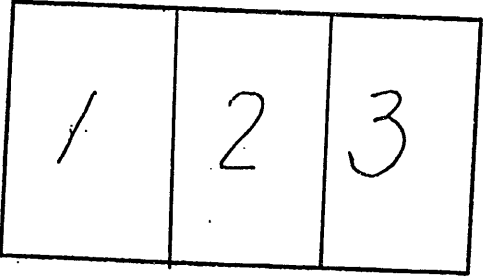

以上ノ概念ヲ基礎トシ圖上ニ於テ飛行場ヲ物色シ
テ現地ヲ踏査セハ大部分目的ニ適フハク其範圍
ヲ擴張スルニ從ヒ一層良好ナル飛行場ヲ多數ニ
求メ得ハキハ勿論ナルモ廣範圍ニ亘リテ現地ヲ
偵察スルコト能ハサルヲ以テ各鐵道沿線至近ノ範
圍内ニ於ケル適地ヲ列挙スルハ附表第一ノ如シ

(詳細ハ支那駐屯軍地理資源号外一飛行場調査
十二年一月)或ハ參謀本部飛行場調査書(十二年十月調査アリ)

第五、爆撃及防空

- 一、爆撃目標附表第四ノ如シ
- 支那ノ建築物ハ地震ニ對シ顧慮ヲ要セサルヲ以テ
 外觀宏壯ナルモノモ煉瓦、瓦、セメン等ニテ建造セラレ
 脆弱ニシテ鉄橋等特別ノ術工物ヲ除ク外一般ニ
 爆彈ニ對スル抵抗力小ナリ
- 二、防空ニ関シテハ平素何等ノ施設ナシ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7 年 8 月 8 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

爆撃目標一覽表

方面地名	所在	名称	形状	選定基準目標	對戰別	價値
山	南關内	縣衙門	一般民家ヨリ 大ニシテ境域 廣シ	石河、市街	支	概開庫等停車場 設備大ナリ
海	南關内	電報局	土壁ヲ以テ固 クシテ概ニ方形 ヲナス	長城、鐵道	英	
海	長城南側	英國兵營	煙突三、四本 アリ	長城、鐵道	佛	
海	小灣庄	佛國兵營	煙突、電柱	長城、鐵道	支	鐵道材料、製作ヲ不 可能ニス
關	停車場 西方二吉	石河鐵橋	長サ 約三百米	石河、鐵橋	支	海陸連絡ノ妨碍
秦	海岸突角	用漆殘橋	海中ニ突出セル 一條、水入後橋	海岸線、突角	支英	糸形上陸ノ妨碍及物 資移動ヲ不可能ニス
秦	日本海岸 右領地	周漆電所	一般民家ヨリ リ宏大ニシテ	日本海岸右領 地ノ隣接地ニテ	支英	船ノ給水ヲ断テ運 行ヲ不能ニス
皇	同右	開漆水道	赤白等ノ塗 料ヲ以テ粉 飾セラレ著 明ノ目標ヲ 為ス	日本無線ノ東 部	支英	
皇	同北	佛國兵營		佛	支	
皇	停車場南側	支那電報局		鐵道、支線電柱	支英	
皇	停車場南側	開漆電報局			支英	
皇	停車場南側	全電話局	白キ石油油槽 四五個アリ	鐵道支線ノ東 側外ニシテアリ	支米	
島	停車場 東方	米子石油庫	長サ六百八十五 米ノ構橋	京奉線及湯河	支	京奉線ノ國內ニ於テ ル最大鐵橋
灤	停車場 西方二吉	湯河鐵橋		灤河及鐵道	支	
灤	東側	灤河鐵橋		灤河鐵橋ノ西側	支	
灤	鐵橋西側	停車場	一般、民家ヨリ 宏大ニシテ各種 ノ塗料ヲ施シ 又圍壁ヲ有スル 等、特徴ヲ有ス	城内中央部	支	珠ニ水平、建昌、遼寧 方面トノ通信ヲ断絶ス
州	城内中央	縣衙門		全右	支	
州	左	電報局		全右	支	
州	全	電話局		全右	支	
州	停車場	停車場		全右	支	鐵道庫等設備大ナリ
唐	停車場南側	屬鐵工所		京奉線及其 炭坑、支線、 唐山市街、 亮甲山、唐山、 双鳳山(以上平 地ニ突出セル山) ノ關係位置	支英	
唐	電話局	電話局			支	
唐	米國兵營	米國兵營			支	
唐	開漆電所	開漆電所			支	
唐	開漆鐵務所	開漆鐵務所			支	
唐	啓洋公司	啓洋公司			支	
唐	各炭坑	各炭坑			支	
唐	動力所	動力所			支	
唐	芦台南方	運河鐵橋		京奉線、芦台	支	北支那ニ對スルセメント 供給ヲ断絶ス
唐	北塘	鐵橋		京奉線、北塘河	支	
唐	北塘	停車場			支	水陸、連絡ヲ妨グ
大沽	停車場南	開漆碼頭		京奉線及塘 沽停車場附 近ノ各支線	支英	
大沽	停車場南	開漆碼頭		白河口ノ灣曲	支英	海外ノ通信及無線通 信ヲ妨碍ス
大沽	停車場南	開漆碼頭		ト海岸、大沽	支	
大沽	停車場南	開漆碼頭		市街ノ關係	支	

第六 教育

教育ハ南苑、清河鎮及洛陽ニ於テ實施シアリ洛陽ニ在リテハ軍事教育ヲ主トシアルモ南苑及清河鎮ニ於テハ一般教育ヲ為シツツアリ

其一、南苑航空學校

南苑航空學校ハ航空署ニ隸屬シ學生ニ初等操縦術ノ外航空ニ関スル一切ノ學術即チ高等數學氣象、撮影等ノ教育ヲ為ス所ニシテ兼テ飛行機ノ小修理ヲ為ス

ノ、學校職員

目下校長金世中以下八名(内三名ハ英佛ニ留学歸來セシ者)ニシテ總テ支那人ナリ從前ハ英佛米各國人ヲ顧問トセシモ中央財政ノ窮乏ト當テ航空署長クリシ潘矩楹ノ外人排斥主義トニヨリ漸次之ヲ驅逐シ目下二名ノ英人アルニナリ(但シ條約上二名ノ英人技師ヲ招聘スハシトアルヲ以テ今尚存續ニシ)

シ居レルモ實際上ハ名義ノミニテ目下該英人ハ出勤シ教導
ハナシ居ラサルナリ

2. 志願者及現在學生ノ數並卒業者ノ景況

1. 志願者 一般志願者少カラサル如キモ多クハ武官(中

少尉ヲ主トシ稀ニ大尉)ヨリ採用ス 各省ヨリ採用シ試
験ハ初審及再審ノ二トシ初審ハ各省ニ於テ行ヒ再審
ハ學校ニ於テ行フ

2. 學生 目下八十名アリ年齡ハ十八歳乃至二十五歳ナリ

3. 卒業生 卒業生ハ約百二十名アリ其中更ニ高等ノ技

術練習ヲ希望スル者ハ清河鎮ニ至ル

尚奉天側ノ買收等ノ為北京附近ニアル者ハ漸次減少
シツツアリト云フ

3. 飛行機操縦者ノ技倆及飛行時間

學生ハ毎日午前午後各二時間ヲ飛行時間トシ各人約十五分
ヲ使用ス二十時間ヲ以テ卒業スルノ規定ナリ毎年其終リニ
於テ教官並上級生ノ同乘指導ノ下ニ野外實習ヲ施行スル
コト四回ヲ經クル後長距離ノ郵便飛行ヲ試行スルコトナリ
居レリ

卒業生ノ多クハ当地ニ在ラス且邊獨飛行シ得ル者少シ但
 本年五月日空海軍飛行校ノ北京訪問ノ際ニ歡迎ノ為テ南
 苑ニテ七八機飛行スル状態ヲ見ルニ其操縦法極メテ大胆ナ
 リ即チ離陸シテホク高度四五十米ニ達セサルニ急角度ノ
 方向ヲ変シ又練習ト称シテ着陸直前翼ヲ交互ニ傾ク寧
 ロ無謀ニ近シ宙返空中滑走其他各種ノ高等飛行術ヲ相
 当練熟シアルモノノ如シ

三

其二、清河鎮航空工廠

清河鎮航空工廠ハ航空署ニ隸屬シ目下主トシテ飛行機ノ格納ハ英國ヨリ購入シタル新飛行機ヲ分解格納ス修理及高等飛行術ノ練習ヲ為シアリ

1. 職員

職員ハ四十名ハ内支那人技師四名目下英國人技師二名アリ内一名ハ飛行術ノ教育ヲ担任シ他ノ一名ハ工場ノ監督指導ニ任ス大正九年設立當時ハ英人技師六名アリタルモ其後俸給不渡及前々航空署長潘矩楹カ外人排斥主義ヲ採リタル為漸次其數ヲ減シタルカ如シ

2. 航空操縦者ノ素質員數

現在清河鎮工廠ニアル航空操縦者ハ四十名ニシテ南苑航空學校ヲ卒業シタルモノニシテ主トシテ大型ツアエーメー式ノ操縦ヲ為シ併セテ中小型飛行機ノ高等操縦ヲ練習シツツアリ

3. 飛行機操縦者ノ技倆及飛行時間
練習ノ為特ニ期限ヲ定メス各人ノ隨意ニ任シアリ

毎日午前午後各一回（二時間宛）ヲ飛行時間トシ其間約
 十五分間位宛交互ニ練習ス平素練習ハ唯清河鎮附近
 ノ上空ヲ飛行スルニ止マルカ如シ長時間ノ飛行トシテハ大正
 十年六月末ヨリ北京濟南間ノ郵便飛行（十二年八月調北
 支那定期報告第七参照）ニシテ二時五十五分間飛行シ
 居レリ
 中小飛行機ニヨル高等飛行ハ之ヲ実施スルヲ得サリ
 シモ南苑航空学校長ノ言ニヨリ察スルニ宙返リ等ヲ為
 シ得ル者ハ数名ニ過キサカ如ク他ハ辛ウシテ單獨飛
 行ヲ為シ得ルニ過キス

其三、張家口航空教練所

馮玉祥ハ最近張家口ニ航空教練所ヲ創設シ外人
 教官（概シテ露國人）ヲ招聘シ青年學生ヲ收容シ
 飛行員ノ養成ヲ企圖シアリ

馮玉祥ハ露國ヨリ大型飛行機四、小型飛行機六ヲ購入シ尚
 飛行機製作技師四名、飛行教官二名ヲ招聘シ且支那人
 教官二十名ヲ張家口ニ招致シ近ノ飛行術ノ練習ヲ開始ス
 シト

其四 保定航空隊(現在ハ無クシテ洛陽ニ移駐セリ)

保定航空隊ハ十三年奉直戦ニ於ケル航空隊ノ基幹トナリシモノニシテ戦後其残餘ハ孫岳ノ國民軍第三軍ニ属シ同軍ノ河南移駐ト共ニ洛陽ニ移リ目下保定ニハ航空隊ナシ

保定航空隊ハ大正十三年二月ヨリ日本伊藤飛行場出身ノ民間飛行家安岡駒好(高知縣人一等飛行士ノ免状ヲ有スト云フ)ヲ教官トシテ招聘シ教育ニ従事セシメタリ
同氏ノ談ニヨレハ一年ニ三十五名ヲ養成シ二箇月ノ一期トシ一期間六七名ニ普通ノ飛行術ヲ教育シ特別課目トシテ夜間飛行、偵察飛行、機関銃ノ操法等ヲ教育スル計画ナリト、教官ハ支那人七名ニシテ内一名ハ外人ヨリ他ノ六名ハ支那人ヨリ教育ヲ受ケタルモノナリ
支那人ハ馬力大ナル飛行機ニハ好シテ搭乗スルモ馬力小ナル小型飛行機ニシテ上昇速度大ナルモノハ危険視シアリ安岡氏ハ特ニ小型飛行機ニ搭乗スル如ク依頼セラレタリト

第七、航空資源及補給

其一、航空機製作及修理工場

支那ニハ獨立シテ航空機ヲ製作スル處ナク唯組立及修理ヲ為シ得ル清河鎮工廠アルノミ南苑飛行學校附屬工場及保定航空隊（現在洛陽ニ移駐ス）附屬工場等ハ共ニ規模貧弱ニシテ僅ニ小修理ヲ為シ得ルノミナリキ

清河鎮工場ノ景況左ノ如シ

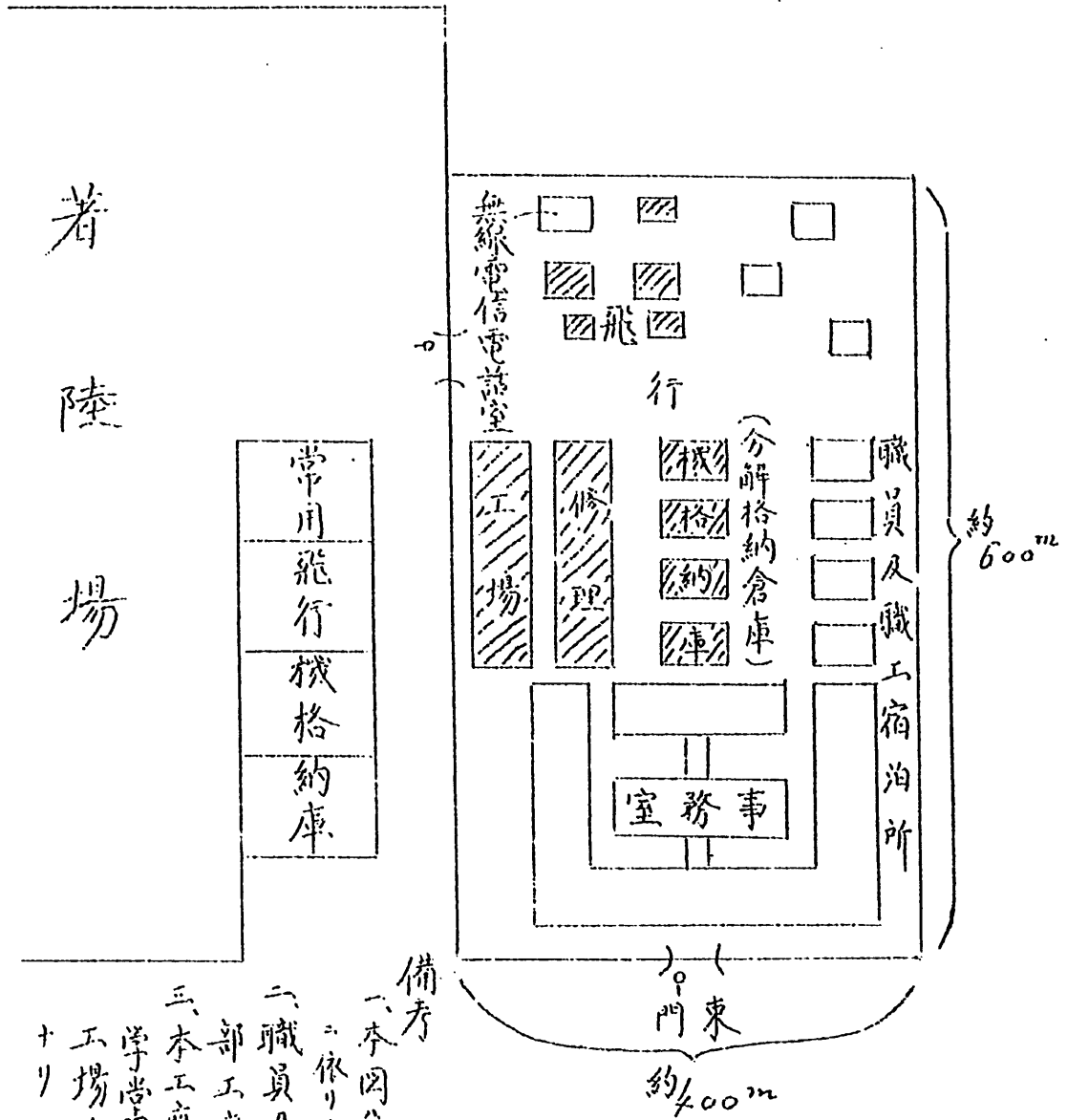
一、製造修理能力

發動機以外ノ部品ハ全部本工廠ニ於テ製作シ得大型ツエーモト式一機組立ノ為職工十餘人ヲ使用シ約一週間ヲ要ス

二、職工ノ數

現在職工百二十名ニシテ其中熟練ナル者三十名アリ而シテ所要ニ應シ臨時増減シツツアリト云フ

清河鎮航空工廠要圖



二七

備考

- 一、本圖ハ正確ナルヲ務メ
- ニ、依リタルモノニアラス
- 三、職員及職工等ハ全部工場ニ宿泊ス
- 四、本工場ハ元豫備
- 五、學堂ノ建物ニシテ工場ノ外ハ二階建ナリ

其二、航空部品及消耗品ノ補給

一、發動機及鋼鉄製部品ノ大部ハ英國（一部ハ露國）ヨリ補充シアリ

二、消耗品中揮發油ハ米國ヨリ補充シアリ

然レトモ最近山西省當局ハ最近石油生産ニ就キ大規模ノ計画ヲ為シアルヲ以テ其實現セラレタル曉ニ於テハ自給シ得ラルルカ如シ

参考

山西省石油精練業發展計画

本計画ハ十箇年ノ繼續事業トシ年々省金庫ヨリ三十萬元ヲ支出シ該経費及石油生産ニヨリ得ヘキ利益ヲ以テ十箇年間ニ四十四ノ石油精練所ヲ建設スルニアリ省當局ノ意見ニシテハ同省ハ毎年約一万四千ガロン、價格三百萬元ノ石油ヲ輸入シアリ又山西省内ハ廣大ナル頁岩沈澱物アレハ労働者ヲ有シ及運搬方法アレハ省内到ル處ニ石油精練所ヲ設置シ得

ハシト

各精練所ハ蒸溜所一、精油所一、及機械修理工場一ヨリ成
 リ之ニ石炭酸其他ノ副産物製造所ヲ附屬セシムルモノニシテ
 一精練所設置ニ要スル初年度経費ハ約二十万元ナリ而シ
 テ各精練所ニ於ケル一日ノ生産高ハ原油六噸即チ一年
 一千八百噸ノ作業日數ヲ三百日トシニシテ此量ヨリニ割即チ
 三百六十噸ノ燈油及略同量ノカソリン及機械油ヲ生産シ得
 ヘク残額ノ四割ヨリコレクターノ其他各種ノ副産物ヲ得之カ賣
 却ニヨリ第ニ年度ニ於テ約七十萬元ノ利益ヲ得逐年利
 益ノ増額ヲ見十年間ニ石油精練所ヲ四十回ニ達セシムハ
 ナ豫定ナリ(詳細ハ十四年支常報第四十三号ニテアリ)

第八 航空地誌資料

其一、北京濟南間郵便飛行

大正十年六月末ヨリ數回ニ亘リ北京濟南間ノ郵

便飛行ヲ實施セリ

1. 郵便飛行ヲ實施スルニ至レル動機

航空機並之カ操縦術ノ發達ヲ期スル為練習飛行ヲ兼テ
郵便物ヲ托送シ若シ之カ為成績良好ニシテ其收入ニヨリ
加ソリン代ニテモ收マレハ之ヲ續行シ五年後ニハ經濟的ニ有
利ニ成立セシメントスルニアリ

2. 計畫ニ參與セシモノ

計畫主任 何爾德 副主任 郭克興

顧問 徐祖善 厲汝燕 王鷲

計畫委員 顧水專等外五名

執行主任 陳紅 副主任 王鏞

3. 計畫ノ内容

1. 發送郵便物ノ種類

信書、端書、小包、賃金等京

二九

津間ノ規定ニ準ス

口 郵便局ト飛行場トノ連絡ニハ自動車ヲ用フ

ハ 飛行機ノ種類 「ガキツカースピミ」式（民國九年六月英

國製ニテ價格一萬磅坐席八個）

ニ 郵便物搭載方法及搭載限度 重量六百基瓦ヲ限度

トシ之ヲ油紙ニテ包ミ其外部ヲ麻製袋ニテ梱包シ操縦

者ノ後方ニ位置スル乗客用藤製椅子ノ下部空席

ニ搭載シ此外操縦者ニ名ト乗客八名ヲ便乗セシメ得

ル様設備シアリキ而シテ此郵便物ニ對シ何等ノ保

險ヲ附セサリシカ將來ハ航空署ト郵便局トノ契

約ニ照シテ保險ヲ附スル豫定ナリキ

ホ 北京—濟南間 直距離三百哩 飛行高度（最高度七千尺）

所要時間 第一回二時五十五分 第二回二時三十五分

ヘ 郵便飛行ノ回数 月水金（北京ヨリ）火木土（濟南ヨリ）

ト 旅客ハ行程ニヨリ納金ス（每一哩銀二十仙）

チ 郵便飛行ヲ為サントスル主要幹線左ノ如シ

京滬線 北京—天津—濟南—徐州—南京

京漢線 北京—保定—石家莊—鄭州—駐馬店—漢口

京哈線 北京—北戴河—錦州—奉天—長春—哈爾濱

京庫線 北京—張家口—滂江—烏蘭—托羅南—庫倫

京科線 庫倫—沙市—克魯—烏里程—蘇台—科布多

4. 郵便飛行實施ノ狀況

イ、試験飛行 六月二十六日 成功 (大正十年)

ロ、第一回實施 七月一日 成功

晴朗ニシテ氣壓七五九、一 湿度二三度 風向西南和風

ハ、飛行ニ使用セシ飛行機 大鵬 正鵠 舒雁

ニ、郵便托送ノ狀況

第一回ニ實施セシハ遊覽ヲ兼ね人員ヲ搭乗セリ(將來

ハ旅客ヲモ搭乗セシムル計画ナリ)而シテ通常葉書

四袋、小包四袋ノ輸送ヲ實施セリ

飛行郵便ニ托セントスルモノハ中國郵便局ニ至リ普通ノ葉

書又ハ切手ヲ求メ別ニ葉書ハ十五仙切手ハ三十仙ノ航

空切手ヲ買求メテ輸送ヲ依頼ス局ハ之ヲ自動車ニテ

飛行場ニ運搬シ飛行機ニ搭載ス目的地ニ到着スレハ

直ニ自動車ニテ郵便局ニ廻送シ北京—南苑間ハ米國

製自動車一名ニテ之ニ宛テ約三十分ヲ要シタリ此所ヨリ普

通ノ郵便配達ニヨリ配達セラル

ホ、第一回ノ狀況

飛行時間 北京—濟南間 二時五十五分

操縦者 英國人ハンシン 支那人曹明志

三〇

同業者

ワッツ (ロイテル新聞)

ホイッイン (米國聯通)

梁志和 (全國報界聯合會)

舒之流 (群報)

古野伊之助 (日本新聞記者)

ホルルト (航空署顧問英人)

黃鴻謙 (航空署總查科長)

航空署係人 英人一 支那人一

八、第二回ノ狀況

飛行所要時間

二時三十五分

其他不明

5. 航空驛

北京 南苑飛行場

濟南 商埠地ノ西役店西端

6. 飛行機保管ノ要領

英國式ノ孫用シ格納庫ヲ急造セリ其要領鐵筋ニ天
幕ヲ用ヒシモノ一 (縱約三十五米 横約四十米) 及半永久

以操縱者

的ノモノ六アリ（内ニハ縦約三十米、横約二十五米、二ハ縦約二十米、横約十五米ニシテ何レモ練習用飛行機ヲ格納シアリ他ノ二ハ構造不明）半永久的ノモノハ鐵筋ニシテ外圍ハ煉瓦ヲ以テシ屋根ハ亜鉛鍍ヲ用ヒアリ格納庫以外ノ建物ハ航空練習所（即學校）ト飛行機修理工場アリ工場ハ一部破損、修理工場ニシテ當時ハ旧式飛行機三台及自動車ニヲ加修シツツアリ。

十年十一月從業員練習中ノ者ハ合計四十五名ニシテ之等ハ約二箇年半ニテ卒業トシ此期間ニ於テ必ス空中ニ於テ必ス空中ニ於ケル實施飛行五十時間ヲ經過スルヲ要シ其修業成績良好ナル者ヲ選抜シ卒業者トナス當時支那人ハシテ單獨飛行シ得ル者約二十名アリ

北京濟南間飛行一回ノ所要經費ハ約一千弗ニシテ試驗飛行中ハ損失ノミニニテ益ナキモ爾後上海迄ノ飛行ヲ決行スレハ相當ノ利益ヲ得

ル見込ナリシト云フ

右ノ郵便飛行ハ引續キ續行ノ豫定ナリシモ五
 回實施セラレテ休止セリ表面ノ理由ハ降雨ノ為
 濟南飛行場ノ設備不完全ニシテ泥濘トナリ著陸
 不可能ト稱スルモ實際ハ經費不足ノ為ナリト
 尚十年末ニハ支那人ノ操縦者卒業スルヲ以テ
 之ヲ待テテ再々郵便飛行ヲ實施スル豫定ナリシモ
 實施スルニ至ラザリキ

其二、北京遊覽飛行

大正十一年十一月平和休戦紀念飛行ヲ舉行シ
 其際空中ヨリ遊覽飛行ノ廣告宣傳ビラヲ
 散布セリ其要旨左ノ如シサレト其實施ヲ見ス
 有耶無耶ニ終レリ

1. 京師飛行 毎週火木兩日午前九時半開始
 價格一人銀十五元

2. 長城飛行（八達嶺・南苑・十三陵間往復）毎週水
 曜日午前十時半開始一人銀三十元

3. 切符發賣所 北京飯店 通濟隆公司 南苑
 飛行場

其三、北京、天津間、郵便連絡飛行

大正十二年五月北京—天津間、郵便連絡飛行

ヲ實施セリ

1. 統轄指導機關

北京交通部航空署（長潘祖楹）ノ監督ヲ受ク

營業主任 米人 吳士敏、ホルムメン（京洋米國運轉公司及米

國運通銀行經理主任）

天津航空站長 超天豪

2. 飛行機

英國製「シエロー」式一各「舒雁号」（八百馬力、八人乗、推

進機二個ヲ有シ客室ハ兩側硝子張ニシテ八個ノ椅子、机

等ヲ設備シ尾部ニ便所ヲ設ク）

3. 操縦者 支那人二名（劉党克、胡百錫）

4. 飛行場

北京、南苑

天津、特別第一區（旧独界）外ノ民有地（田圃ニシテ凸凹ナシ）

面積百七十餘畝

大型飛行機ノ著陸及廻轉飛行等ヲ為シ得ル如ク之
ヲ西南方ニ擴張スヘク計畫中ナリシモ實施スルニ至
ラス

土質堅固ナラスシテ第一回ノ著陸ニ際シ兩翼ヲ破損セ
ル為改修ヲ加ハタリ

5. 郵便飛行ニ関スル規定ノ要旨

料金 一人 二十弗

書状(每五十瓦)十五仙

葉書一枚十五仙

往復葉書一枚十五仙

小包(一吉瓦)六十仙 (重量十吉瓦迄)

取扱所 市内六郵局

飛行日時 毎週二回(月金)午前午後二回

五月二十三日第一回飛行實施後概ネ一週一回乃至
二回實施シタルモ六月八日以後中止セリ其原因ハ
同日午後四時天津ヲ發シ北京ニ歸還ノ際楊村

二三

ニテ墜落シ操縦者輕傷(他ニ乗客ナシ)機体破
 壞シタル為郵便物ト共ニ列車ニテ北京ニ送ルコ
 トトナリ爾後多大ノ恐怖ヲ感シ為ニ一般乗客
 ノ便衆少クシテ收支相償ハサルト奉直再戰
 ノ謠言甚シキ折柄トテ地方人心ノ安定ヲ破
 ル傾向アリシニヨル

托送郵便物ノ數ハ毎日天津各郵便局ヨリ北京
 方面ニ運送ヲ依頼サルルモノニテモ二千餘件ニ
 達セルモ乗客ハ割合ニ少ク平均一日ノ往復者
 約十名ニ過キス時トシテハ皆無ノコトアリ最
 初ハ一日一回ノ往復ナリシカ六月四日頃ヨリ二回ト
 シ第一回ハ午前七時北京發午前九時天津
 發第二回ハ午後三時北京發午後四時天津發

0509

變更ノ豫定ナリシモ實施ニ至ラザリキ

三四

其四、北京北戴河間遊覽飛行

十二年八月十日ヨリ北京北戴河間遊覽飛行ヲ
 開始スハク決定シ大要左記要旨ノ如ク發表シタ
 ルニ遂ニ實施スルニ至ラサリキ蓋シ八月十日ハ已
 ニ北戴河ニ於ケル外人避暑期ノ過半ヲ經過シタル
 時期ナルヲ以テ收支經濟上ノ關係ヲ顧慮シタルニ
 ノノ如シ

1. 飛行回数

毎週一回往復

北京ヨリ 金曜日 午後三時
 北戴河ヨリ 月曜日 午前八時

2. 料金

- 手紙 二十瓦迄 一角五分
- 葉書 一角五分
- 往復葉書 三角
- 印刷物 五十瓦迄 一角五分
- 小包 類一社六 角
- 一社ヲ加フル毎ニ三角

人 片道四十元
往復七十元

本飛行ハ翌十三年夏再々計畫セラレ實施ヲ見ル

ニ至レリ

1. 飛行開始 八月一日

2. 飛行機ノ種類及操縦者

舒雁號(ウエー式) 乗客九名、操縦者二名計十一人兼、
操縦者米人トイフ、同乗者支那人一名

3. 航空路飛行區間

北京南苑航空站—京奉線ヲ沿ヒテ北戴河赤土山北側
草地廣場間

4. 飛行回数時間

每週一回往復 北京ヨリ 金曜日 午後三時
北戴河ヨリ 月曜日 午前七時

航空時間 北京ヨリ北戴河ニ時間トス

5. 料金

人 北京 片道四十元 往復八十元
天津 片道四十元 往復八十元 (北戴河附近上航)
空遊覽一人十五元

三五

6. 著陸場

手紙 普通料金ノ外ニ十五仙
葉書 普通料金ノ外ニ十五仙

著陸場ハ北戴河赤土山北側芝地ニ赤土山側ニ高サ約四米
長サ約二十米ノアンバラノ風避アルノミ

右飛行ハ八月一日以降 同月八日迄ニ一回往復シタルノ
ミニシテ其後飛行ヲ中止セリ

其五、鄭州洛陽間郵便飛行

國民第三軍第四師長兼航空署長何遂ハ河南鄭州ヲ起點トシテ新疆伊犁ニ到ル航空線ヲ計画中ナルカ其第一着手トシテ十四年五月一日ヨリ鄭州洛陽間ニ郵便飛行ヲ開始セリ
鄭州洛陽間郵便飛行ノ狀況
1. 發着地

鄭州、饒海線修育場左側（東西七百米、南北五百米）
洛陽、西宮左側

2. 使用飛行機

英國維梅（ビーム式）一、（從前北京南苑ニ在リシモノト同一アリ）

大型ニシテ翼長百三十呎、機高二十呎餘

汽用六、推進機二、搭乗十一人

英國維梅（小型）（二人乗ビーム式）二

右三個ノアンペラレ作リノ格納庫内ニ收容ス

3. 飛行回数及時間

五月一日ヨリ起リ毎週火金両日

鄭州發午前五時 洛陽發午前五時

矣所要時間 約一時間(實際、四十五分)

5. 料 金

人員 片道三元 往復三十五元

郵便 普通郵便料、外

信書 十封以内(一紙二封) 十五仙

葉書 十五仙

往復葉書 三十仙

小包 一書以内(一書二封) 六十仙

印刷物 五十瓦毎ニ 十五仙

6. 飛行監督

西北飛行隊長 葛世平

右ノ計画ニヨリ五月一日鄭州ヨリ飛行シ外人多
數搭乗セリ

其六、天津上海間郵便飛行計画

天津上海間ノ郵便飛行ハ十年七月一日ヨリ試験的ニ實施スヘク決定セラレタリ其計画左ノ如シ

1、飛行停車場

天津飛行停車場ハ北倉ニ設定シ飛行機二十餘台ヲ收容シ得ル如クシ且試験飛行ノ設備ヲ完全ニス

2、使用飛行機

合計四十名、英國最新式ノモノ

其大半ハ五月初旬迄ニ英國ヨリ上海ニ到着シタルヲ以テ滬寧、津浦兩鉄道ニヨリ天津ニ輸送ス

3、飛行郵便切手

飛行機ニヨリ輸送スル郵便物ニ貼用スル切手ハ十五仙、三十仙、四十五仙ニシテ切手面ニハ漢英兩字ニテ飛行郵便ト記シ七月一日ヨリ各地郵便局ニテ發賣スルコトナレリ

4、航空警察教練所

航空署ハ各飛行停車場ノ混雑ヲ防制シ其地方ノ治
 安ヲ維持スル為航空警察教練所ヲ設ケ巡警五百名
 ヲ募集シテ之カ養成ヲ開始ス
 右ノ飛行準備ハ一時活氣ヲ呈シタルモ經費其他
 ノ關係ニヨリ中止トナレリサレト英人カ支那ノ空
 中權獲得ニ懸々タル已ニ久シク十二年再ヒ京滬
 航空線ノ再現ヲ傳ヘラレシモ未タ實施ヲ見ス

其七. 北京蘭州間航空線設置計畫(天津旬報九号)
 潘航空署長ハ十年十一月頃駐京英國公使ノ勸
 告ニ依リ北京ト甘肅省蘭州間ニ航空線ヲ設
 置シ旅客及郵便物ノ輸送ヲ為スハノ國務院交
 通部等ト協議中ナリキ英公使カ右ノ如キ勸
 告ヲ為シタルハ英支飛機借款契約ヲ擴張シ
 テ支那ニ飛行機ヲ賣込ミ以テ支那ノ航空事業
 ヲ掌握シ一面益ミ支那ヲシテ航空交通ヲ擴張
 セシメ以テ將來北京・西藏及印度並川邊等
 トノ連絡ニ便セントスル目的ナリト云フ然ルニ十
 一年三月頃京蘭航空借款ノ成立説アリ(十
 一年三月三日旬報第七号)其真否明ナラサルモ當
 時ニ於ケル支那紙ノ所報大要左ノ如シ

航空署ハ北京蘭州間ノ航空ヲ行ヒ西北ノ交通ヲ便ナラシ
ムル計畫ヲ有スルモ經費ナクシテ其實現不可能ナリヨリ目下
英國ウィツカーズ會社ニ向ヒ三十万磅ノ借款交渉中ニシテ其
契約ノ内容左ノ如シト

1. 會社ヨリ飛行機大ニ台小十台ヲ交付ス

2. 飛行機運送ニ関スル損失ハ會社ハ賠償ノ責ヲ負ハス

3. 本飛行機借款ハ燕餘公債ヲ以テ抵當トス

4. 借款額三十万磅

5. 用途 五万磅ヲ京蘭航空線建築費 十九万磅ヲ材料

購買費 六万磅ハ該會社ヨリ航空署ノ費用トシテ每
月五千磅宛交付シ一年ニテ終了

其八、西北航空線設置計画

國民軍第三軍第四師長（兼航空署長）何遂ハ西北航空線ノ設置ヲ計画シ葛西平ニ航空司令部ヲ特設セシメ銳意航空ノ發展ヲ計リ其第一着手トシテ十四年五月鄭州洛陽間ニ郵便飛行ヲ開始シ更ニ飛行路ヲ陝西ニ延長スヘク葛隊長ヲ潼關ニ派シ尚航空學生四十名ヲ養成中ナリト

航空路設置豫定

鄭州—洛陽—陝州

陝州—西安—蘭州—伊犁

蘭州—包頭

西安—成都

航空線ノ延長ハ伊犁迄五千六百支里ヲ廿八時間ニテ連絡スル計画ニシテ開始ノ曉ニハ伊犁ヨリ露

領^アアンジジヤン^レヲ經テ歐洲ト連絡スルノミナラス從
 來五十餘日ヲ要シタル西北ノ地ト僅々二日ニテ連
 絡シ物資ノ輸送連絡郵便等大ナル便益ヲ得
 ハシト称シアリ

一、計畫

其九、國際航空驛設置（二二二）天津普通報（六号）

航空署ハ支那ノ國際航空驛カ未タ何等ノ設備
 ナク禁航區域モ未タ發表シアラサルカ故ニ國際
 航空條約ヲ批准スルニ先チ之ヲ解決スヘク該等
 備經費概數ヲ豫定シテ國務院ニ提出セリ之
 ニ據テハ伊太利及日本ノ飛行機ノ支那ニ入り
 タル線路ヲ参照シテ南ハ廣東省廣州ヨリ
 北ハ奉天省安東ニ至リ沿海岸ハ福州上海青
 島、天津、北戴河ノ各地方ヲ經過シテ全線一航
 空驛七個處ヲ建設スルコトトシ其一切ノ購地建
 築等ニ要スル經費ヲ約七十萬元ト見積ル
 其詳細見積高ハ左ノ如シ

一、購地ニ関スル事項

イ、地積

航空條例第九十四條、規定ニ依レハ陸地飛行場

面積ハ九万方米ニ二百二十餘畝一ヲ最少限トスルモ自由

ニ昇降スルニハ三百畝ヲ要ス國有航空驛土地收

用施行細則第二十五條ニヨレハ每畝、最高價格ヲ

八十元トスレハ一飛行場ニ要スル地積價格ハ二万四千元

ナリ

ロ、墳墓移轉費

飛行場地面内ニ於ケル墳墓ヲ每畝平

均二個處ト計算スレハ一飛行場地面三百畝ニ約六百

個處トス土地收用施行細則第二十五條ニヨレハ墳墓一

個處十三元ナレハ合計七千二百元ヲ要ス

ハ、補償費

飛行場地面ニアル青苗樹木家屋等ノ對シ

テハ規則ニ照シテ補償費ヲ給ス其額約五千元

二、建築ニ関スル事項

イ、飛行機格納庫

二列木造每列廣サ八十呎 深サ十四呎四

万六千元 若シ鋼質ヲ用フレハ一列ニテ約十四万円ヲ要ス

ロ、飛行場

每畝ノ工賃五元トシ每場約五百畝トスレハ二千

五百元ヲ要ス

八、油庫一、廣サ十三呎深サ十六呎 一千元

六、測候所一、一千元

木、修械所一、廣サ三十呎深サ五丁呎 三千元

ハ、辦公室一、廣サ五十呎深サ六十呎 五千元

3、無線電信台及測候所儀器ニ関スル事項

イ、無線電信台建築費二萬元、機械購入費六萬元

但シ飛行場附近ニ若シ無線電信台アレハ之ヲ利用シ

テ經費ヲ省ク測候所内ニハ一受信機ヲ附設ス其

機械購入及据付等ノ費用ハ毎處約五百元

ロ、測候所儀器 購入費約一千元

毎月航空驛購地建築合計九万六千二百元

(若シ鋼質格納庫トスレハ十五万二千元)

二、制定

支那政府ハ十一年六月巴里ニ開催セラレタル國際航空
聯合會ニ代表ヲ派遣參與セシメ航空修約ニ調

四一

印スル所アリタルカ最近閣議ノ結果前航空署長
 潘矩楹ノ建議ニ基キ之ヲ批准スルニ決シ禁航區
 域ノ奔布ト同時ニ上海天津北戴河安東廣
 東福建ノ七個所ニ國際航空聲著陸場ヲ設
 置スルコトトナレリ

此建設費合計七十萬元ヲ要シ政府ハ明年早
 々工事ニ着手スヘク既ニ委員ヲ派シテ測量
 セシメツツアリ

因ニ潘矩楹建議ノ要領左ノ如シ

巴里媾和會議ニ於テハ各國領空確保保障ノ見地ヨリ航空條約
 ノ締結ヲ見我國モ亦顧余權ニヨリ調印セラレタリ本年六月
 本署ヨリ該聯合會議ニ派遣シタル航空委員泰國庸ノ電
 報ニヨレハ現ニ該條約ニ批准シタルモノハ日本ヲ也加ヘテ十四
 個國達セリ支那モ之ヲ批准スルヤ否ヤ速ニ決答サレタシト
 中達シ来レルニ依リ本署ハ各部署ノ代表會議ヲ開催シ

詳細討議セリ凡ソ積弱ノ國カ列強ト條約ヲ締結スル
 ニ当リ最モ留意スヘキハ其條約ニヨリテ平等ノ待遇ヲ得
 シコトニ努ムルコト是ナリ然ルニ支那ノ外交ハ從來一トシテ
 人後ニ落テサルハ無シ而シテ今此航空條約ヲ利用セハ各國ト
 同等ノ權利ヲ享有スヘク宜シク速ニ批准サルヘキモノナリ然レト
 モ之ニハ外國飛行機ノ支那ニ航來セシ場合ヲ考慮シ特定ノ
 航路及經過地点ヲ豫メ決定シ置カサルハカラス
 航空路及發着場配置ニ就テハ一昨年伊太利飛行家ノ航來
 アリ昨年又日本飛行機ノ飛來アリ本署ハ其航空路ヲ參
 考トシテ國際飛行路ヲ豫定セルカ之ニ依レハ南ハ廣州北ハ
 安東中部沿海地方ハ福州、上海、青島、天津、北戴河ノ
 各地ヲ連接スルモノナリ

其十、日本海軍飛行機ノ北京訪問

日本海軍飛行機ハ北京訪問ヲナスヘク十四年五月二十五日横須賀出發大村ヲ經テ二十六日夕平壤ニ到着二十七日安東縣ヨリ支那國境内ニ入り遼東半島ヲ横斷シ北京ヘ向テ途次豪雨ニ過ヒ錦州ニ着陸シ天候ノ恢復ヲ待チ二十九日出發京奉線ニ沿ヒテ飛行シ同日北京南苑ニ到着支那官憲ノ熱誠ナル歡迎ヲ受ク六月一日南苑ヲ發シ前經路ヲ日本ニ帰還セリ

其十一 露國飛行機ノ北京訪問

支那成シ得シハ日本ヲモ訪問スハク十四年六月十日
歐露ヲ出發セシ露國飛行機六機ハ先ツ外蒙庫
倫ニ入り七月十三日北京南苑飛行場ニ到着セリ

1. 支那境内航空路

庫倫一烏得一張家口一北京南苑

2. 北京到着飛行機 四機

(V.L.J. Smele) 式 金屬製單葉 四人乘 (駆逐機ニ屬ス) 二機
(D.H. DeHavilland) 式複葉 二人乘 (普通商用機) 二機

3. 支那境内飛行ノ狀況

七月九日午前庫倫發 砂漠上ヲ飛行ニ暴風雨ニ會シ一
機ハ機体ニ故障ヲ生シ烏得一去ルニ百米ノ地点ニ不時着
陸シ他ハ烏得一到着翌日午前八時五機ハ烏得一發シ二
機ハ張北縣東門外(張家口北方百二十支里)ニ他ノ三機ハ同縣
廟灘(張家口北方九十支里)ニ着陸シ西北督辦署察哈爾

四五

都統署ノ歡迎ヲ受リ十三日共ニ出發北京ニ飛來ス但シ
一機ハ離陸ニ際シ發動機ニ故障ヲ生シ飛行不能ナレリ

第九、航空制度

其一、航空學校條例（五年十月十二日）

第一章 總綱

第一條 航空學校ハ陸海軍航空人材ヲ養成シ並航空機製

造學術ヲ研究スル所トス

第二條 航空學校ハ參謀本部ニ隸屬ス

第三條 航空學校ハ駕駛學員班ヲ常設ス其教育綱領ハ附表第

一ニ準シテ施行シ並工廠ヲ附設シ廠内ニ技工ヲ設ケ工作事宜

ニ任ス

第四條 航空學校ニ左記各員ヲ設ケ

校長 教育長 副官 兵學教官 専門教習

普通教習 修輯員 學長 廠長 廠副 技士

技工班長 軍需 軍醫 書記及其他雇員

各職員ノ階級及員數ハ附表第二ニ詳ナリ

各職員ノ俸給ハ附表第三ニ詳ナリ

第五條 學員ハ在校修學期限ヲ一年卒業ト定メ尋常高等

二期ニ分チテ教授ス但シ其他ノ關係ニヨリ時期ヲ延長或ハ短

縮スルモ可ナリ

第六條 航空學校ノ辦事細則及一切ノ行フハ其事宜ハ均シク校長條例ニ按照シテ詳細擬定シ總長ニ呈請シテ批准ノ上施行ス

第七條 本條例ハ參謀本部ヲ經テ大總統ニ呈請シ批准ノ後校長切實ニ遵行シ若シ修正ヲ行フハ其處アレハ每一學期後ニ校長ヨリ理由ヲ聲叙シ總長ニ呈請シテ核辦ス

第二章 職員

第八條 校長ハ參謀本部ニ直隸シ全校事務ヲ管理ス

第九條 教育長ハ校長ノ命ヲ承ケ全校ノ教育事務ヲ管理シ一切ノ功課ヲ整訂シ並ニ學術進歩ノ責ニ任ル

第十條 校副官ハ校長ノ命ヲ受ケ機要又贖經費ヲ管理シ校内一切ノ庶務ヲ管理ス

第十一條 各教習ハ教育長ノ命ヲ受ケ教育綱領ニ按照シ課程ヲ編纂シ學術ヲ教授シ校規ヲ維持シ並ニ成績ヲ考驗シ隨時登記シテ教育長ニ彙呈シ校長ノ督導ニ備フ

第十二條 學長ハ教育長ノ命ヲ承ケ學員ノ學風紀ヲ管理シ學員ノ品行學術ヲ查考シ並ニ校副官ヲ輔同シ教育ニ關スル一切ノ庶務ヲ管理ス

第十三條 修輯員ハ教育長ノ命ヲ承ケ專ラ各種課程ノ校正ヲ

司リ管理ノ責ニ任ス

第十四條 廠長ハ校長ノ命ヲ承ケ教育長ニ商承シ工廠ノ工
作ヲ管理シ並技工ノ成績及廠内經費ヲ考案スルノ責ニ任ス

施ス

第十五條 廠副ハ廠長ノ命ヲ承ケ技工ヲ教授シ及一切事宜ヲ實
施ス

第十六條 技工班長ハ廠長廠副ノ命ヲ承ケ技工ノ工亦ヲ督率
シ廠規ヲ維持シ並技工ノ勤惰ヲ考査シ長官ニ呈報檢辦
スルノ責アリ

第十七條 軍需ハ校長ノ命ヲ承ケ副官ニ商承シ專ラ款項
ノ出納款目ノ清整及承造報銷事宜ヲ司ル

第十八條 軍醫ハ校長ノ命ヲ承ケ專ラ治療及衛生事宜ヲ
司ル

第十九條 書記ハ校長ノ命ヲ承ケ文牘書類ヲ管理シ並錄
事ヲ督飭シテ簿書スルノ責アリ

第二十條 稽査ハ校長ノ命ヲ承ケ副官ヲ補助シ全校内務ヲ稽査ス

第三章 學員技工ノ額數及資格

第二十一條 航空學校學員定額ヲ五十名ニ限リ鐵木技工

定額ヲ八十名トス但シ航空ノ情況ニヨリ之ヲ増減スルコト

ヲ得

第二十二條 航空學校學員ハ陸海軍各機関及各軍隊艦隊ヨ

リ曾テ陸海軍學校ヲ卒業シ年齡二十歳以上三十歳以下

ニ在リ兵學ノ新學具ニ根基アリ志向堅定暗略優異視力精

明肺量宏大ニシテ試験ニ合格シタル者ヲ選抜シテ之ニ充ツ

第二十三條 鐵木技工ハ陸海軍各兵工廠或ハ他種工廠内ヨリ

粗文字ニ通シ略科學ヲ解シ能ク他種機噐ヲ製造シ及機噐上

ノ本質品ヲ配置スルモノヲ選抜シテ之ニ充ツ

第四章 校規

第二十四條 航空學校人員ハ均シク本校規則及兵種臨時校令ヲ

遵守シ違フコトアルヲ得ス

第二十五條 航空學校人員ハ均シク校長ヨリ隨時考査シ満一

学期毎ニ勤惰ヲ參謀本部ニ呈報ス其任ニ勝ムルコト

能ハス及職務ヲ擴張スル員ハ參謀本部ニ呈請シ覆核

辨理スヘシ

第二十六條 校長教育長ヲ除キ其餘ノ職員ハ均シク輪番日直シ

校内ニ住宿シ一切事務ヲ辨理スヘシ擅ニ職守ヲ離ルルコトヲ

得ス例暇ハ時ト雖亦此ニ照シテ辨理ス

第二七條 航空學員ハ均シク輪番日直ニ校定日直規則ヲ恪守シ一切事務ヲ辨理スハシ

第二八條 航空學校各職員ハ例暇ヲ除ク外故ナク請暇スルコトヲ得ス病或ハ事ニ因リ請暇スルトキハ一週間以内ニ在リテハ校長ニ校定ヲ請ヘハ可ナルモ一週間以上ニ在リテハ參謀本部ノ校定ヲ請フハシ

第二九條 航空學校學員技工ハ例暇ヲ除ク外故ナクシテ請暇スルコトヲ得ス確ニ特別事故ニ因リテ請暇スルトキハ詳情ヲ校長ニ具呈シ校長ハ校定シテ假期ヲ酌給シ月ヲ按シテ參謀本部ニ彙呈スハシ

第三十條 凡ソ一月期滿後ハ校長ヨリ前月ノ各職員學員技工等ノ請暇表ヲ參謀本部ニ呈送スハシ

第三十一條 學員左記各項ノ一ニ違犯シタル者ハ直ニ退スハシ

一、學術久缺シ卒業ノ望トナシ者

二、軍紀ヲ紊亂シ屢ニ戒ムルモ悛メサル者

三、品行端トラス本分ヲ失フ者

四、久シク病ミテ課ヲ曠クシ勞苦ニ耐ハサル者

五、試験ニ落第シタル者

以上各項ハ臨時校長ヨリ教育長教習廠長学長班長等ヲ招集シテ會議決定ス但シ二四五各項ニ因リ点退スル者ハ學費ノ返納ヲ免シ原領書籍軍服等ノミヲ納メシム
 二三兩項ニ因リ点退スル者ハ原領書籍軍服等ヲ返納スルヲ除ク外在校學費及所領手當ヲ追約セシム
 第三十三條 常暇ハ日曜日ヲ除ク外放假期日左ノ如シ

- 一、國慶日 二日
- 二、春夏秋冬節日 各一日
- 三、年暇 七日（元旦前後各三日）
- 四、天氣炎熱或ハ隆冬ノ際學科ヲ教授シ或ハ飛行ヲ練習スル能ハサル時ハ酌量シテ内堂或ハ飛行ヲ停止ス但シ停課ハ一週間以上ナルトキハ參謀本部ニ呈シ覆核辦理スルシ

第五章 待遇

第三十三條 學員入校後ハ有ル原職ノ俸給ハ仍常ニ照シテ支給シ其原職ハ直屬長官ヨリ以テ派シテ代理或ハ署理セシム

第三十四條 學員入校後不職推升ノ時ニ遇ハハ仍常ニ照シテ推升ス但シ暫ク就職セシメス
 第三十五條 學員及技工等ノ校内ニ於テ用フヘト書籍文具及

機器材料等レシ校内ノ備給ニ帰ス

第三十六條 學員及技工等校内ニ於ケル伙食軍裝ハ均シク校内ノ備給ニ帰ス

第三十七條 凡ソ甄別ヲ經テ校ニ留マル學員ハ均シク校ヨリ手当ヲ配給ス

第三十八條 技工ハ概テ三等九級ニ分テ月按シテ給料ヲ照給ス 附表第五ニ詳ナリ

第三十九條 凡ソ學員職務内ニ於テ飛行危險ニシテ身故ヲ致シ或ハ重傷ヲ受ケタルトキハ卒業學員待遇條例ニ載スル所ノ撫恤法ニ照シテ辨理ス

第四十條 學員卒業及技工待遇辨法ハ別ニ規定ス

第六章 課程

第四十一條 航空學校學員ハ能ク飛行機ヲ駕駛シ並能ク飛行機上ニ在リテ兵器ヲ使用スルヲ主トシ鉄木技工ハ能ク工作ヲ實現行ムルヲ以テ主トス

第四十二條 航空學校學員ノ招取ハ入学期約一箇月前ニ於テ學術兩科課程豫定表ヲ編訂シ參謀本部ニ呈シ

核定ノ上施行スルニシテ
第四十三條 一学期満ツル毎ニ校長ヨリ全学期教育實施統計

表ヲ及毎週間内ニ前週間日課実施統計表ヲ夫々参

謀本部ニ呈送備查スヘシ

第四十四條 凡ソ飛行ニ関スル教練ハ毎日之ヲ行フ若シ天氣

或ハ機器ノ關係ニ因リ実施シ難キトキハ教育長ヨリ改メ
テ学科教授或ハ工廠実習ニ改ムルニ可ナリ

第七章 試験

第四十五條 學員ノ試験ハ入学試験甄別試験尋常卒業業

試験 高等卒業業試験ノ四種ニ分ツ

第四十六條 學員募集期ニ達スレハ豫メ参謀本部ヨリ定額ニ

按照シテ(第三章第二十二條ニ詳ナリ)陸海軍部ニ通牒シ各

軍事機関ニ通知シテ合格軍官ヲ調集シ該員ノ志願者ハ

軍醫ノ診断書ヲ取具シテ部ニ咨シ試験ニ合格シタル者ハ其

入校修業ヲ准ス

第四十七條 凡ソ取録ヲ終タル修業學員入校満二箇月後甄別

試験ヲ挙行シ校長ヨリ期ヲ定メ教育長教習ヲ督同シテ

試験シ以テ去留ヲ定ム

第四十八條 學員入校満六箇月後校長ヨリ尋常卒業業試験期日

ヲ酌定シ並下記試験規定ヲ按シ試験規則ヲ詳擬シ参

謀本部ニ派員莅校ヲ呈請シ會同シテ學術兩科ヲ試験ス

學術試験ハ教授課目ト航空トノ關係ノ重輕ヲ按シ点

數ノ倍数ヲ規定スルコトヲ得

術科試験ハ飛行ニ重キヲ置キ其試験ハ場面統行ノ字飛行直線飛行ノ三種ニ規定ス

試験畢レハ校長ハ教育長及各教習等ヲ督同シテ學術兩科ノ成績点数數ヲ評定シ品行点数數ヲ參ハテ成績表ヲ調製シ甲乙名次ニ區別シテ參謀本部ニ呈送シ校閱後大統領ニ轉呈シテ期ヲ定メ員ヲ派シ校ニ蒞ミテ監視シ尋常卒業證書ヲ頒發ス

第四十九條 凡ソ尋常卒業學員校ニ留マリ高等ヲ繼續練習シタル者ハ滿六箇月後高等卒業試験ヲ奉行ス飛行試験辦法ヲ除ク外餘ハ均シク尋常卒業試験手續ヲ按シテ辦理ス飛行試験ニ關スル規定ハ高度飛行直線飛行三角形長途飛行空中偵察及兵器使用ノ各種トス

第八章 經費

第五十條 學校ノ經費ハ經常臨時ノ兩門ニ分ツ凡ソ作給予當給料馬糧被服材料機油及一切消耗雜費等ハ均シク經常支出ニ第四表ニ詳ナリ凡ソ校廠修建器械購備飛行機製造圖書購買費等ハ均シク臨時支出トシ所要數目ヲ毎年豫算ニ規定スハシ

第五十一條 前條經常臨時支出ハ校長ヨリ毎月章ヲ按シテ

參謀本部ニ發給シテ呈請ス

第五十二條 各種經費ハ每年冬季以前ニ次年度用費教目豫

算ヲ總長ニ呈請シ核准ノ上辦理スヘシ

第五十三條 各種用費ハ學校ヨリ月ヲ按シテ支出計算書ヲ造

送シ年未毎ニ全年收支各種總冊ヲ造送スヘシ

第五十四條 員司ノ俸給ハ一、二、三等ニ分テ兩年ソ崗スル毎ニ校

長ヨリ其成績ノ優異ナル者ヲ核シ參謀本部ニ呈請シテ

一等ヲ核升シ以テ第一等ニ至リテ止ム

第五十五條 各軍事機關ヨリ調充スル教職各員ハ仍原俸ヲ

領スルヲ除ク外別ニ學校ヨリ手當ヲ酌加ス

第五十六條 校長以下各員司ノ俸給手當ノ支給ハ月末ヲ以テ期

トシ軍需ヨリ定數ニ按照シテ簿冊ニ記シ司事ヲ派シ

テ分途送交シ記名捺印ヲ以テ據ト為ス弁シ畢レハ軍

需ニ返送シ副官ニ轉送シテ察閱ス

第五十七條 學員及技工ノ俸給給料ハ軍需ヨリ實數ニ查照シ

テ學長ニ交シ班長ハ名ヲ按シテ分弁ス均シク記名捺印ヲ

以テ據ト為ス唯差弁及夫役等ハ軍需ヨリ實數ニ查照シ

テ校副官ニ交シ點名弁放ス

第五十八條 凡ソ工廠ニ用フヘキ材料費用ハ先ツ校長廠長ヲ
 督同シテ詳細核定シタル後經手人ヨリ先ツ廠長ニ送附テ
 校對ニ校長ニ轉呈シテ察核ノ上辦理スハシ
 第五十九條 本條例ハ批准ヲ奉シタル日ヨリ施行ス

附表第一

航空學校駕駛學員班教育科目表

學科	術科
航空學理	飛行實施學
機器學理	飛行機、保存、修理法
氣象學	發動機、安卸保存及修理法
無線電學	空中兵器使用法(機關銃、拳銃)
尋常電學	炸彈拋擲法
航空戰術	無線電使用法
航空、歷史及其進步	航空地圖用法
航站、組織法	羅針盤使用及方向認定法
飛行機隊、組織法	砲兵射擊監視
戰術學	軍隊演習監視
基本戰術	艦隊演習監視
圖上戰術	偵察法
兵棋	報告法
兵要地理	空中寫真法
炸毀工事學	
兵器學	
地形學	
國畫學	
軍制學	
海軍軍事學	
外國語學	

附記

五〇

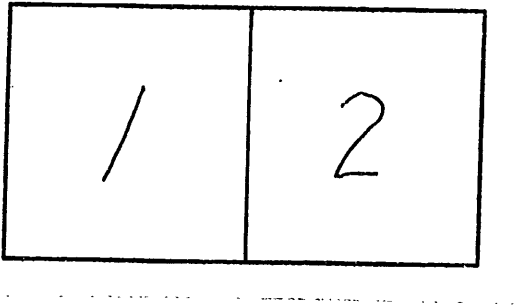

附記

附表第二

航空學校人員系統表

校長		少將或 上校	區別
教育長		中校	少校上尉及 同級文佐官
庶務處	警備處	本處	同級文佐官
廠長 (一)	正修輯 學長 (二)	一等軍需 一等軍醫 一等書記 稽查 (一)	副官 (一)
廠副長 (一)	普通教習 (二)	二等軍需 二等軍醫 二等書記 (一)	中少尉及 同級文佐官
技士 (二)	副修輯 (一)	二等軍醫 航空司事 (四)	少尉及 同級文佐官
廠司事 (一)	寫真員 (一)	校司事 (三)	准尉上官
技士班長 (一)	一等錄事 (一)	二等軍需 (一)	中下士
二等錄事 (一)	繪圖員 (一)	醫務管理員 (一)	上等兵
司庫 (一)	印刷員 (一)	升目 (一)	及雜役
	印刷夫 (三)	司藥 (一)	二等兵
		護兵 (六)	
		差弁 (四)	
		廠丁 (六)	
		雜役 (三)	
		航站 夫役 (四)	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7 年 8 月 8 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

附表第三

航空學校編制薪餉豫定表

職守	年別	員數	每月月薪	共計月薪	每月年薪	共計年薪
校長	一年	1	400	400	4,800	4,800
教育長	一年	1	260	260	3,120	3,120
副官	一年	1	130	130	1,560	1,560
廠長	三年	1	130	130	1,560	1,560
專門教習	一百乃至二百	4	180	720	2,160	8,640
兵學教習	一百乃至二百	2	125	250	1,500	3,000
普通教習	一百乃至二百	2	125	250	1,500	3,000
學長	一年	2	80	160	960	1,920
西醫	一年	1	200	200	2,400	2,400
一等軍醫	一年	1	70	70	840	840
正修科	一年	1	70	70	840	840
廠副	一年	1	70	70	840	840
一等書記	一年	1	60	60	720	720
警查	一年	1	50	50	600	600
技工班長	一年	1	50	50	600	600
外國技士	一年	2	350	700	8,400	8,400
二等軍醫	一年	1	300	300	3,600	3,600
二等軍需	一年	1	400	400	4,800	4,800
二等書記	一年	1	400	400	4,800	4,800
副編輯	一年	1	400	400	4,800	4,800
司事	一年	3	100	300	3,600	3,600
航站司事	一年	4	100	400	4,800	4,800
繪圖員	一年	1	350	350	4,200	4,200
錄事	一年	7	140	980	11,760	11,760
醫院管理	一年	1	200	200	2,400	2,400
寫真員	一年	1	200	200	2,400	2,400
繪圖生	一年	1	180	180	2,160	2,160
學員	一年	50	50	2,500	30,000	30,000
技工	一年	80	200	16,000	192,000	192,000
弁目	一年	1	100	100	1,200	1,200
司藥	一年	1	100	100	1,200	1,200
印刷目	一年	1	160	160	1,920	1,920
印刷夫	一年	3	360	1,080	12,960	12,960
差弁	一年	4	360	1,440	17,280	17,280
司庫	一年	2	100	200	2,400	2,400
看護兵	一年	2	100	200	2,400	2,400
號兵	一年	2	100	200	2,400	2,400
護兵	一年	6	100	600	7,200	7,200
雜役	一年	32	100	3,200	38,400	38,400
航站廠丁	一年	6	100	600	7,200	7,200

記	附	總計	航站夫役	航站廠丁	雜役	護兵	看護兵	司庫	差弁	印刷目	印刷目	司藥	弁目	技工	學員	繪圖生	寫真員	醫院管理	録事	繪圖員	航站司事	司事	副修輯	二等書記	二等軍需	二等軍醫	外國技士	技工班長	警查	一等書記	廠副	正診科	一等軍需	西醫	學長	普通教習	兵學教習	專門教習	廠長	副官	教育長
一、技工、俸給給料ハ平均計算ニ依ル其等級別法ハ附表第五ニ詳シ	一、凡ノ服務滿二年者ハ初給俸給ニ照シテ計算ス 二、凡ノ服務滿二年者ハ均シク二級俸給ニ照シテ計算ス	二五九	四	六	三二	六	二	二	四	三	一	一	一	八〇	五〇	一	一	一	七	一	四	三	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二	二	四	一	一	一
		二八二	六	七	六	七	八	八	九	一六	一六	一六	一六	二四	一〇	一八	二〇	二〇	二〇	三五	三〇	三〇	四〇	四〇	四〇	三二	三五	五〇	五〇	六〇	七〇	七〇	七〇	七〇	二〇	八〇	一五	一五	一八	一三	二六
		七〇	二四	四二	八九	四二	一六	一八	三六	一六	一六	一六	一六	一九	五〇	一八	二〇	二〇	二〇	二五	二二	二二	四〇	四〇	四〇	三二	七〇	五〇	五〇	六〇	七〇	七〇	七〇	二〇	一六	二五	二五	七二	一三	二六	
		三三一	七二	八四	七二	八四	九六	一〇八	一〇八	一九二	一九二	一九二	一九二	二八八	一六〇	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	四二〇	三六〇	四二〇	四二〇	四二〇	三八四	四二〇	六〇〇	六〇〇	七二〇	八四〇	八四〇	八四〇	二四〇	九六〇	一五〇	一五〇	二一六〇	一五六〇	一五六〇	三一二〇	
		八五〇	二八八	五〇四	三〇四	五〇四	一九二	二一六	四三二	一九二	一九二	一九二	一九二	二六〇	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	四二〇	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四	一四四

五二

附表第四

航空学校經常費豫定表

種類	經費		備考
	每月經費	全年經費	
飛行演習費	二〇〇	二四〇〇	
馬乾	六四	七六八	
醫藥	一二〇	一四四〇	
郵電	二〇	二四〇	
學員技工服裝		五二〇	共百三十人每人四十元
弁兵夫役服裝		一、二八〇	共六十四人每人二十元
工廠材料	二、〇〇〇	二四、〇〇〇	
文具紙張	一、二〇	一、四四〇	
印刷材料	八〇	九六〇	
學員技工伙食	七八〇	九、三六〇	駕駛學員五十人 技工八十人 共計百三十人 伙食每月每人六元
茶水	三五	四二〇	
薪炭	一五〇	一、八〇〇	
油燭	五〇	六〇〇	
機油	一、〇〇〇	一二、〇〇〇	
工程	一〇〇	一、二〇〇	
學校雜費	一〇〇	一、二〇〇	
寫真材料	三〇	三六〇	
航站辦公費	六〇	七二〇	四處
旅費	一〇〇	一、二〇〇	
總計		六六、五八八	

附表第五

航空學校技工薪餉等級一覽表

等 級	月支薪餉數
一等一級	三二
一等二級	三〇
一等三級	二八
二等一級	二四
二等二級	二二
二等三級	二〇
三等一級	一六
三等二級	一四
三等三級	一二

凡技工ノ進等進級ハ校定細則ニ查照シ校令ヲ以テ之ヲ行フ

其二、航空工廠條例 (十二年一月二十二日公布)

第一條 航空工廠ハ航空署ニ直隸シ一切ノ航空器械材料ノ修造保管ヲ掌管シ並航空専門技術ノ人材ヲ養成ス

第二條 航空工廠ニ左記各股ヲ置ク
一、總務股 文牘庶務會計醫務及他股ニ屬セラル事項ヲ掌ル

二、工務股 航空機械ノ材料ノ修理裝配及製造鉄木工作各廠處ノ事項ヲ掌ル

三、保管股 航空機械材料ノ存貯保管收發事項ヲ掌ル
第三條 航空工廠ハ左ノ職員ヲ置ク

- 廠長 一人
- 主任 三人
- 技術員 四人
- 工務員 八人
- 辦事員 十二人
- 醫官 一人

第四條 廠長ハ署長ノ命ヲ承ケテ全廠ノ事務ヲ掌理ス
第五條 主任ハ廠長ノ命ヲ承ケテ各股事務ヲ分掌ス

第六條 技術員工務員ハ長官ノ命ヲ承ケテ技術上ノ事務ヲ掌理ス

第七條 辦事員ハ長官ノ命ヲ承ケテ文牘庶務會計簿目查及材料ノ收發等ノ事務ヲ掌理ス

第八條 醫官ハ長官ノ命ヲ承ケテ一功ノ醫業及衛生事務ヲ掌理ス

第九條 航空工廠ハ事務上ノ助理ノ為ニ書記司車ノ附設スルコトヲ得其員數ハ事務ノ繁簡ヲ視テ隨時呈請核定ス但シ多クトスニ十八人ヲ逾スルコトヲ得ス

第十條 航空工廠ノ技術員ノ情状ヲ視テ隨時呈請核定ス

第十一條 航空工廠ハ運搬及工作助理ノ為ニ在ルコトヲ得

第十二條 航空工廠ノ各種規則ハ別ニ之ノ定ム

第十三條 本條例ハ呈准ノ日ヨリ施行ス

其三 航空署飛行人員ニ飛行免許狀

及勝任證書授與暫行規則

第一條 凡ソ飛行人員ニ駕駛執照（飛行免許狀）及勝任證書ヲ授与スルニ均シク本規則ニ依リ之ヲ行フ

第二條 凡ソ能ク單獨ニ某種飛行機ヲ操縦シ並左記各種ノ試験ヲ經テ合格セルモノニハ某種飛行機操縦執照ヲ給予スレコトヲ得但シ未タ航空卒業證書ヲ得サル者ハ此例ニテラス

一、飛行スレコト十回以上ニ至リ起落均シク安穩ナルモノ

二、飛行時間合計五時間以上ニアルモノ

飛行免許狀ハ附圖甲ノ如シ（附圖ハ原文ニ附シテラス）

第三條 凡ソ能ク單獨ニ某種飛行機ヲ操縦シ飛行免許狀ヲ得タル後復左記各種ノ試験ヲ經テ及第セル者ニハ某種飛行機勝任證書ヲ給予スレコトヲ得

一、遠航飛行ノ距離三百公里以外（或ハ京津保各距離

間ノ往復飛行）ニ於テ飛行スレコト十五回以上ニ在リテ兩

處ノ起落均シク安穩ナルモノ

二、航空保安規則ノ規定ニ照ラシテ試験ニ及第セル者

勝任證書附圖乙ノ如シ(同上)

第四條 勝任證書ハ授与、日ヨリ起リ一年期內ニ在リテ之ヲ適用シ期過ノル翌日航空署ニ呈送シテ註消シ續試ノ

及第ヲ候テ更ニ續授与ヲ為ス

勝任證書ノ有効期滿ツルモ該管長官ノ考核ヲ經成績優良ニシテ確ニ能ク繼續シテ任ニ勝ユル者ト認ムルハ試験ヲ免シ航空署ニ申請シテ續リテ勝任證書ヲ授与スルコト

ヲ得

第五條 凡ソ勝任證書ヲ領有スル人員ハ永遠ニ領スル所ノ證書ヲ携帶シ以テ隨時ノ検査ニ備フ、シ並航空ニ関スル所ノ一切法令ヲ遵守スルハシ

第六條 勝任證書ハ唯運輸航空線ニ適用スルモ別種航空機、別項職務或ハ同種航空機ノ別項職務ニ適用ス

第七條 飛行操縦免許狀及勝任證書ハ均シク他人ニ轉借シ或ハ添註塗改スルコトヲ得ス

第八條 飛行操縦免許狀及勝任證書遺失ノ場合ニハ證書ヲ領スル人ヨリ航空署ニ取調ヘ授與スルコトヲ申請シ並遺失ノ緣由ヲ報シ廢ト為スコトヲ聲明スルハシ

第九條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

其四 京漢航空線管理局籌備處暫

行簡章

十一年十二月三十日公布セラレタル京漢航空線管理局籌備處暫行簡章左ノ如シ

第一條 京漢航空線管理局籌備處ハ航空署ニ直隸シ
專ラ京漢航空線ノ一切事宜ヲ掌ル

第二條 京漢航空線管理局籌備處ニ左記各股ヲ設ケ京漢航空線管理局編制專章第四條乃至第六條ニ列スル事項ヲ分掌ス

總務股 航務股 工務股

第三條 京漢航空線管理局籌備處ニ左ノ職員ヲ置ク
處長一人 主任三人 辦事員十人

第四條 處長ハ航空署長ノ命ヲ承リテ本處ノ一切事務ヲ管理シ
所屬職員ヲ監督ス

第五條 主任ハ處長ノ命ヲ承リテ本處事務ヲ掌理ス

第六條 辦事員ハ長官ノ命ヲ承リテ各項事務ヲ分管ス

第七條 京漢航空線管理局籌備處ハ各項進行事項ヲ討論スル
為評議會ヲ設立スルトヲ得其規則ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 京漢航空線管理局籌備處ハ各航空站事宜ヲ執行
 スル為署員ノ請派シテ辦理スルコトヲ得
 第九條 京漢航空線管理局籌備處ハ事務上ノ助理、為催
 員ヲ酌用スルコトヲ得其數多クトモ十二人ノ逾ユルコトヲ得ス
 第十條 京漢航空線管理局籌備處辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム
 第十一條 本簡章ハ公布ノ日ヨリ施行ス

其五、國有航空線管理局編制通則

(十年五月十九日公布)

第一條 國有航空線ニ管理局ヲ置キ航空署ニ直隸ス

各局ノ名称及其線路ハ各該局ニ於テ專章ヲ編制シテ之ヲ定ム
第二條 管理局ハ全線ノ運輸、修築、營業、會計及所屬航空驛備用ノ飛行場ヲ掌理ス

航空ノ延長或ハ枝線ノ増設ハ該管理局之ヲ兼理ス

第三條 管理局ニ左記各課ヲ置キ第二條ノ事項ヲ分掌ス

總務課 航務課 工務課 會計課

前項各課ハ各該局ノ情況ニ依リ酌量シテ併設シ或ハ該局其他ノ職員ヲ以テ之ヲ兼理セシムルコトヲ得

第四條 管理局ニ左記職員ヲ置ク其員額ハ各該局ニ於テ專章ヲ編成シテ之ヲ定ム

局長 課長 課員 醫務員 其他雇員

第五條 管理局所轄ノ航空駅ハ備用ノ飛行場ヲ除ク外設備

ノ繁簡ニ依リ三等ニ分チ左記職員ヲ置クコトヲ得其員額ハ附表ヲ以テ之ヲ定ム

駅長 副駅長 飛行員 技士 電務員 測候員

其他雇員

第六條 局長ハ航空署ヨリ派充シ長官ノ命ヲ承ケテ全線ノ事務及各航空駅備用ノ飛行場ヲ管理シ並所屬各職員ヲ指揮監督セシム

第七條 課長、駅長、副駅長、飛行員ハ航空署ヨリ派充シ上官ノ命ヲ承ケテ事務ヲ分掌セシム

第八條 課員、技士、醫務員、電務員、測候員等ハ局長ヨリ呈請委派シテ事務ヲ分任セシム

第九條 各種雇員ハ局長ヨリ委派シテ事務ヲ分掌セシム但シ航空署ニ呈請シテ核准スルヲ要ス

第十條 管理局所轄各航空駅ノ飛行機及航空員ノ數ハ航空署ヨリ訂定シ該局長ニ責成シテ管理セシム

第十一條 各職員ノ俸給等級章程ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 本通則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

附表

航空驛等級員額表

職務等級	一等		二等		三等	
	員額	備註	員額	備註	員額	備註
驛長	1		1		1	
副驛長	1		1		1	
技士	1		1		1	
電務員	1		1		1	
測候員	1		1		1	
技工長	1		1		1	
技工	5		1		6	
司事	2		1		1	
司書	2		1		1	
司庫	1		1		1	
夫役	2		2		1	
飛行場ニ技工ニ名夫役三名ヲ設ク						

其六、京滬航空線管理局編制章程

(十年五月十九日公布)

第一條 京滬航空線管理局ハ航空署ニ直隸シ北京ヨリ上海

ニ空中航路及其支線ヲ管轄ス

第二條 京滬航空線管理局ハ國有航空線管理局通則第二

條ニ記スル事項ヲ掌理シ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人

課長 一人

課員 多クトモ十人ヲ超ユルコトヲ得ス

職務員 多クトモ四人ヲ超ユルコトヲ得ス

雇員 多クトモ十二人ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 京滬航空線管理局ハ國有航空線管理局編制通則

第三條ニ依リ左記各課ヲ設ク

總務課 航務課 工務課

第四條 總務課ハ左ノ事務ヲ掌管ス

一 文牘ノ撰擬 國防典守事項

二 員司ノ進退考績事項

三 駅場警衛及醫務事項

四 豫算法算及統計調製事項

五 款項調拵收支及帳簿事項

六、客貨票、替換事項

七、印刷及其他各課ニ属セラル事項

第五條 航務課ハ左ノ事務ヲ掌管ス

一、營業運輸及客貨招徠事項

二、電報電話測候事項

三、航空機調度事項

四、客貨票、証書核計事項

五、各駅ノ業務監督事項

第六條 工務課ハ左ノ事務ヲ掌管ス

一、航空機ノ裝配、審檢、修理、補充事項

二、材料ノ收弁保管事項

三、附屬機関ノ工務監督事項

工務課ハ航空機及機件ノ修理配裝事務ノ為ニ濟南、南

京、上海ニ修機所ヲ設クルコトヲ得

第七條 京滬航空線管理局所轄ノ航空各駅ハ本駅一切ノ事項

ヲ掌ル備用飛行場ヲ除ク外等ヲ列スルコト左ノ如シ

北京 一等 濟南 二等

天津 二等 徐州 三等

六〇

南京 一等
 上海 一等
 第八條 京滬航空線管理局辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム
 第九條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

其七 航站警察教練隊ノ暫行編制

(十年五月十日公布)

第一條 航站警察教練隊ニ航空管理講習所ヲ附設シ定額

ヲ百六十名トシ必要ナル學術ヲ授ケ卒業後ハ本省南苑

清河及京滬線各駅ニ分發服務セシム

第二條 航站警察教練隊ニ左ノ員額ヲ置ク

總隊長 一人 教官 若干人

隊長 四人 副隊長 四人

司事 二人 書記 三人

第三條 總隊長ハ所長ノ命ヲ承ケ本隊一切ノ事務ヲ管理ス

第四條 教官ハ課程教授ヲ專司ス

第五條 隊長ハ長官ノ命ヲ承ケテ教練ヲ專司シ並隊務ヲ整

理シ副隊長之ヲ補助ス

第六條 司事、書記ハ文件ノ收發及一切ノ庶務ノ淨寫ヲ管理ス

第七條 航站警察教練ノ課程規則及管理規則ハ別ニ之ヲ定

第八條 本編制ハ公布ノ日ヨリ施行ス

其八 航空管理講習所簡章

十年五月十日公布

第一條 本所ハ航空管理人員ヲ備備スルヲ以テ宗旨ト為ス

第二條 本所ノ事務ハ總テ所長ニシテ總裁シ左ノ職員ヲ設ク

所長 一人 技務主任 一人

教官 若干人 事務員 二人

書記 三人

以上ノ各員ハ書記ヲ除ク外均シク署員兼充シ別ニ俸給セス

第三條 本所ハ三箇月ヲ以テ卒業期限ト為ス

第四條 本所ノ學員定額ヲ三十名トシ左記ノ人員ハ署長ノ特許ヲ經テ均シク入所肄業スルコトヲ得

- 一、学校教練所業人員
- 二、本所職員
- 三、其他ノ志願人員

第五條 學員ノ卒業試験合格者ハ航空署ヨリ卒業證書ヲ發給ス

第六條 卒業成績最優ナル者ハ本署及各管理局ニ酌派シ夫ハ

服務セシム

第七條 本所ニ傍聴席ヲ設ケ署員ノ職務重要ニシテ入所講習ス

ルコト能ハサル者ハ臨時入所聴講スルコトヲ得

第八條 本所ノ課程及辦事細則ハ別ニ之ヲ訂ス

0990

第九條 本簡章ハ公布ノ日ヨリ施行ス

六二

其九 航空警察編制章程 (十年八月二十日公布)

第一章 總則

第一條 航空署ハ本署及各附屬機関ヲ警衛スル為航空警

察ヲ設置スルコトヲ得

第二條 航空警察ハ航空署ニ直隸スル各附屬機関ニ派遣

セラレテ服務スル航空警察ハ各該機関長官之ヲ直接指揮管理

スルコトヲ得

第三條 航空署及各附屬機関ニ設ケル一隊教及人員ハ事務

繁簡ヲ視テ之ヲ分配ス

第二章 編制

第四條 航空警察ノ職員長警ノ名称左ノ如シ

一、勤務督察長

二、隊長

三、副隊長

四、班長

五、書記

六、警察

航空警察隊ノ編制ハ附表第一以テ之ヲ定ム

第五條 勤務督察長、副隊長ハ航空署ヨリ派充シ書記ハ隊長ヨリ航空署ニ呈准シテ後之ヲ派充ス

第三章 職務権限

第六條 勤務督察長ハ航空署長ノ命ヲ承ケテ各隊ノ勤務ヲ督察ス

第七條 隊長ハ長官ノ命ヲ承ケテ本隊一切ノ事務ヲ管理ス
第八條 副隊長ハ長官ノ命ヲ承ケテ本隊一切ノ事務ヲ代理ス

但シ分遣ノ場合ニハ隊長ノ職務ヲ執行スルコトヲ得

第九條 班長ハ長官ノ命ヲ承ケテ警察ヲ指揮或ハ命令シ警察上ノ一切事務ヲ實行ス

第十條 書記ハ長官ノ命ヲ承ケテ簿書事務ヲ辦理ス

第四章 俸給服制

第十一條 航空警察職員長警ノ俸給公費ハ附末第三ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 職員長警ノ服制ハ内務部頒行ノ警察服制ノ準用ス但シ航空服制ノ附章及附章ノ加級シテ區別ヲ示ス

服制ノ等級ハ附末第三ニ依リ之ヲ定ム

第五章 附則

第十三條 各附屬機関ノ警察服務ニ関スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

附表第一

航空警察隊編制表

職別	人員		隊及四班合計
	隊員	班員	
隊長	一		一
副隊長	一		一
班長		一	一
書記	一		一
一等警察		二	二
二等警察		三	三
三等警察		四	四
炊事夫	四		四
合計	七	一〇	一七

備考 前記長警等、人員ハ一隊ノ数トス

附表第二

航空警察俸給表

職別	俸給	公費
隊長	六〇	一〇
副隊長	四〇	
班長	一六	
書記	一六	
一等警察	一〇	
二等警察	九	
三等警察	八	
炊事夫	六	

備考
 一、勤務督察長ハ署員兼充シ別ニ俸給ヲ給セス故ニ本表ニ記入セズ
 二、副隊長單獨ニ分駐スル場合ハ毎員ニ公費十元ヲ加フ

附表第三

航空警察服制等級表

職別	服制等級
隊長	警察服制第六條第三款第一級制服
副隊長	警察服制第六條第一款第一級制服
班長	警察服制第七條第二款第二級制服
書記	警察服制第七條第二款第二級制服
一、二、三等警察	警察服制第八條第三款第三級制服

其十、航空署航站測候所簡章

(十年六月五日公布)

第一條 航空署ハ氣象ノ狀況觀測及氣象ノ消息傳遞ニ為各

航站ノ距離及氣候ノ關係ヲ酌量シテ測候所ヲ各航站ニ設ク

ルコトヲ得

第二條 測候所ヲ某航站ニ設クルトキハ某航站測候所ト名ス

第三條 測候所ハ航空署ニ隸屬シ並各航站站長ノ指揮ヲ受ク

第四條 每所ニ正副測候員一人ヲ置ク

第五條 測候員ハ航空署ニ試験ノ上採用セル氣象練習生ヲ由

中央觀象台ニ於テ練習セシメ證書ヲ受領セル人員中ニ充テテ選

派ス

第六條 正測候員ハ觀測及報告事項ヲ掌理ス

第七條 所内一切ノ庶務及簿書事件ハ正測候員兼辦ス

第八條 副測候員ハ所内一切ノ事務ヲ代理ス

第九條 每所ニ左記ノ各機械ヲ置ク

氣壓表 最高時計表

最高溫度表 最低溫度表

湿度表 雨量計

風向計 風力表

測雲儀 測透明度版

湿度氣壓日記表
 但シ應用上ノ緩急ハ因リ酌量増減スルコトヲ得
 第六條 本簡章ハ公布ノ日ヨリ施行ス

其十一、日本飛行機米支ニ関スル臨時辦法
(十四年五月)

- 一、今四日奉飛行機ノ米支ハ駐支日本公使ヨリ期ニ先ク正式ニ通告シ支那政府ノ特許ヲ經タル後飛行ノ入境シ得ルモノトス
- 二、此種學術練習飛行機ハ既ニ日本公使ヨリ運用トナサス又他ノ用トナササルコトヲ聲明シタルモノトス但支那境内各地昇降地点ニ在リテハ支那政府派員ノ検査ヲ受クヘシ
- 三、日本公使ハ左記事項(既ニ規定ノ各項ヲ除ク)ヲ調査ノ上送付スヘシ
 - 甲、飛行目的(既ニ學術練習飛行トセリ)
 - 乙、入境及出境(入境地点ハ既ニ安東ト定ム)
 - 丙、飛行線路(既ニ朝鮮ヨリ安東、錦州、山海關ヲ經テ北京南苑ニ至ルコトニ決セリ)
 - 丁、出奔及到着並支那内地ニ在リテ停留スル各期日
 - 戊、飛行員及其他航務人員ノ人数及姓名
 - 己、飛行機ノ型、数、標識、發動機ノ種類及馬力

其十二、露國飛行機中國國境通過臨時

辦法（十四年七月三日）

一、此回露國飛行機、來支ハ先ツ駐支露國大使ヨリ中國政府ニ正式通告シ其許可ヲ受ケ入境スルコトヲ行ヘノ並政府派遣員ノ検査ヲ受クハシ

二、露國大使ハ左列事項（已ニ規定ノ各項ヲ除クノ外）ヲ記入送付シ審査ヲ受クハシ

甲、飛行目的（已ニ試験飛行ト決定セリ）

乙、詳細ナル飛行線路及中國國內ニテノ停留時日

丙、出發及中國各地到着時日

丁、飛行士及其他航務人員ノ人数及姓名

戊、飛行機ノ型、數、標識、發動機、種類及馬力

三、露國飛行機ヲ中國國內ニ於ケル線路ハ中國政府之ヲ檢定シ該飛行機ハ該指定線ヲ飛行シ他處ヲ飛行スルコトヲ得ス

又指定線以外ノ土地ヲ自由ニ昇降スルコトヲ得ス該線路ノ兩側ハ二十哩トス

四、此回ノ露國飛行機ノ來支ハ中央政府ハ黑龍江省、滿洲

- 里ヲ以テ入境地ト指定シ（公境地同シ）滿洲里ヨリ鉄道線
 路ヲ沿ク長春ヲ經尚欽道線終路ニ沿ク北京ニ到ルヘシ後再々
 上海ニ赴クハシ滿洲里長春上海等ノ指定ニ於テ勝手ニ臨
 時飛行機昇降場設定スルコトヲ許可ス然レトモ右ハ今回
 ノミ提供スルモノナリ北京ニ於テハ南苑航空學校飛行場ヲ昇
 降場トス但シ北京到着ノ際北京城上空ヲ飛行スル場合ハ先
 ツ中國政府ニ通知許可ヲ受クヘシ上海到着ノ時ハ吳淞砲
 台ハ軍事上ノ關係アレハ該砲台ノ周圍五哩ノ上空ヲ飛行ス
 ルヲ禁止ス
- 五、禁制品馬具器ヲ携帶シ無線電信機ヲ備ヘ並貨物ヲ
 輸送スルコトヲ得ス
- 六、人家稠密ノ地方ハ人命財産ニ危險ヲ及ボス虞アレハ
 一千呎以下ヲ飛行スルコトヲ得ス又天空ヨリ物品散布スルヲ
 得ス
- 七、此回露國飛行機ハ中國國內飛行ノ時其携帶ノ記明書及
 日記ハ必ス検査ノ為備ヘ置クヘシ又空中一切ノ規則ヲ遵守スヘシ
- 八、以上ノ辦法ハ此回露國飛行機入境ノミニ適用スル一時的ノ臨時
 辦法ニシテ中國ト示ク批准セル航空條約ト關係トシ

第十、外國勢力

航空界ト外國關係

元來英國カ支那政府ニ對シ航空ノ鼓吹ヲ為セル當初ノ目的ハ歐洲戰後廢品トナルル自國製ノ飛行機ヲ支那政府ニ賣付ケ且漸次自國ノ勢力ヲ支那空中界ニ扶殖スルニアリタリ尚伊佛兩國モ亦之ニ參加ノ希望アルモホタ具體的ニハ進捗ニアラス航空署カ英高ビツカース會社ヨリ購入セル飛行機ハ數回ニ分送シ現在ハ全部到着ニアリ然ルニ駐支英國公使ヨリ再三其代金支拂ヲ請求スルモ支那政府ハホタ支拂ハサルニ依リ遂ニ英公使ハ支那政府ニ對シ航空署ヲ英支共同商業航空署ニ改ムハク要求セルモ支那政府ハ主權ニ障礙アルヲ

理由トシ拒絶セリ而シテ英公使ハ其共同飛行ノ目的ヲ達シ能ハスト認ムルヤ直ニ強硬態度ニ出テ英國ヨリ購入セル飛行機ノ全價格ノ即時支拂ヲ要求セシヲ以テ支那政府ハ航空署トシカ善後策ニ就キ協議中第二次奉直戦開始セラレ直軍敗戦ス役執政トナリシ後モ亦支拂ヲ為ス能ハス從來主トシテ英國ヨリ供給ヲ受ケタル航空資源モ近時殆ント杜絶ノ状況ニアリ然ルニ十四年五月下旬佛國ヨリ飛行機材料八箱(十一機分)北京航空署ニ到着セリ支那ハ今後再々航空資源ヲ佛國ヨリ仰カントスルニ非サルナキカ

附録

各飛行場所在地ノ沿革

其一、南苑航空學校

同校ハ民國二年參謀本部ニヨリ創設セラレタ
ルモノナルカ其後航空署組織セラレテ丁募韓氏
同署長トナルヤ同校ハ改メテ航空教練所トシテ
航空署ノ管轄トナリ爾來六箇年間ヲ經過セリ
然ルニ航空署長潘矩楹ハ同所ノ規模甚小ニシ
テ到底新時代ニ順應セサルモノトナシ航空教
練所ヲ再ニ航空學校ニ復活セリ

其二、清河鎮飛機廠

英支飛行機借款ニ因ル英國人技師ト豫テ南苑
航空署ニ傭聘セラレアル佛國人技師トハ各其技

術ト自國飛行機ノ優劣トヲ論争シ動モスレハ
 互ニ職工或ハ學生等ヲ擁シテ衝突スル虞アリシ
 為駐支英國公使ハ談技師等ノ此種行動ヲ
 以テ英支飛行機借款ヲ妨碍スルモノナリトナシ
 時ノ航空署長丁錦ヲ説得シテ航空事業ノ發
 展上南苑航空分署ヲ清河鎮ニ建設スルノ必
 要アル旨ノ主張セシメ併ヤテ談建設費三百方
 元ノ附帶借款ノ丁錦ト秘密ニ締結シ以テ英佛
 技師ノ衝突ヲ避クルコトニ努メ一面英支飛行
 機借款ヲ擴張シ自國製飛行機ト自國人技師ト
 ニ依リテ支那ノ制空權ヲ掌握スヘク企テタリ支那
 亦亦素ヨリ航空事業ノ向上ニ腐心シ居レル折柄
 ナレハ直ニ丁錦ノ主張ヲ容レ九年八月一日清河

鎮元陸軍豫備學堂ニ航空分署ヲ設立シ其事業ヲ開始スルニ至レリ

其三、保定飛行隊（目下無シ其主力ハ洛陽ニ移駐ス）保定飛行隊ハ十一年奉直戰ノ當時南苑ヨリ四台ヲ當地ニ備附ケタルヲ創始トシ其効果良好ナリシヲ以テ曹錕ハ軍事上大ニ必要ナルモノトシテ戰後飛行隊ヲ設立スルコトニ決シ直隸陸軍飛行隊ト命名シ英米式ノ飛行機ヲ輸入シ專ラ訓練ニ努メタルカ曹錕大統領トナリテ後ハ該飛行隊ヲ北京航空司令部ノ直轄ト為シ編成ヲ改正セントシツツアリ

4450

平



大正十四年八月末日調

乃
17.

北支那航空調査報告

支那駐屯軍司令部

爆

支那調査班

目次

一般航空界ノ情况

第一 航空部隊

第二 航空機

第三 航空特種器材

第四 飛行場及著陸場

其一 南苑飛行場

其二 清河鎮飛行場

其三 保定飛行場

其四 鄭州飛行場

其五 天津飛行場

其六 不特著陸場及若干工事ヨリ利用シ得ル飛行場

第五 爆撃及防空

第六 教育

其一 南苑航空學校

一

四

五

八

一

一

一

一

一

二

二

二

- 其二 清河鎮航空工廠
- 其三 張家口航空練習所
- 其四 保定飛行隊

第七 航空資源及補給

- 其一 航空機製作及修理工場
- 其二 航空部品及消耗品供給

第八 航空地誌資料

- 其一 北京、濟南間郵便飛行
- 其二 北京遊覽飛行
- 其三 北京、天津間郵便連絡飛行
- 其四 北京、北戴河間遊覽飛行
- 其五 鄭州、洛陽間郵便飛行
- 其六 天津、上海間郵便飛行計畫
- 其七 北京、蘭州間航空線設置計畫
- 其八 西北航空線設置計畫
- 其九 國際航空驛設置
- 其十 日本海軍飛行機、北京訪問飛行
- 其十一 露國飛行機、北京、上海訪問飛行

二三
二四
二五
二六
二八
二九
三二
三二
三四
三六
三七
三八
三九
四〇
四二
四三

第九 航空制度

- 其一 航空學校條例 四四
- 其二 航空工廠條例 四四
- 其三 航空署飛行人員飛行免許狀及勝任證書
授與暫行規則 五五
- 其四 京漢航空線管理局籌備處暫行簡章 五六
- 其五 國有航空線管理局編制通則 五七
- 其六 京滬航空線管理局編制章程 五八
- 其七 航空警察教練隊暫行編制 五九
- 其八 航空管理講習所簡章 六一
- 其九 航空警察編制章程 六二
- 其十 航空署航站測候所簡章 六三
- 其十一 日本飛行機業支關スル臨時辦法 六四
- 其十二 露國飛行機中國國境通過臨時辦法 六五

第十 外國勢力

附錄

各飛行場所所在地ノ沿革

七一

七〇

六九

六八

六七

六六

六五

六四

六三

六二

六一

六〇

五九

五八

五七

五六

五五

五四

一般航空界ノ情況

歐洲戰ノ結果ニヨリ覺醒セラレタル支那航空界ハ世界ノ進運ニ落伍セサルヘキヲ期シ先ニ借款ニヨリ主トシテ英國ヨリ多數ノ飛行機ヲ購入シ外人ヲ傭聘シ航空諸制度ヲ改定シ膨大ナル計畫ヲ以テ航空界ノ刷新ヲ圖リ其外觀ニ表ハレタル規模制度條令等ハ相當ニ整頓セラレタリ而シテ航空省ハ航空ノ發達ハ國民全般ノ理解ヲ必要トスルノ主義ニ基キ常ニ之カ宣傳ニカメ航空智識ノ普及ニ少ナカラサル苦心ヲ為シツツアルカ如ク郵便交通飛行等ハ時機ヲ得ル毎ニ其實施ヲ企圖シアリ

然レトモ中央財政ハ逐年窮乏シ航空界ニノミ獨

リ多額ノ費用ヲ投スル能ハス之ヲ数年前ニ比ス
 レハ諸般ノ規模ハ寧リ口著シク縮少セラレ航空署
 職員、工廠職工ノ減員、外人顧問ノ減少、格納庫
 ノ破損ノ儘ナルハ其一端ヲ物語ルモノナリ十二年
 趙玉珂ノ航空署長ニ就任シ航空界ノ改善ニ大
 ニ努力セシカ其実績ヲ擧グルニ至ラスシテ傷
 二次奉直戦ハ開始セラレタリ此戦役ニヨリ戦場ニ
 参加ノ飛行機ノ全部ヲ奉軍ニ函獲セラレシモ戦
 後南苑飛行學校清河鎮工廠ニ於テハ引續キ飛
 行術ノ練習ヲ行ヒツツアリ本年五月日本海軍機
 ノ北京訪問次テ露國飛行機ノ来京ハ幾分ノ利
 戦ヲ興ハタルナルヘク目下日本ヘノ答禮飛行トシテ
 大型二機ヲ清河鎮工廠ニテ組立中ナリト

参考

十三年奉直戦ヨリ見タル北支那航空界ノ戦時能力

北支那ニ最大ノ軍権ヲ有スル吳佩孚力第ニ次奉直戦・際ニ編成シタル航空隊ハ蓋シ其最大能力ナルヘシ
航空隊ニ関スル討逆軍命令及軍隊區分左ノ如シ

討逆軍命令ノ一部

航空第一隊三隊ノ兩隊ハ滦州ニ飛機場ヲ設ク航空第二隊ノ飛機場ハ第三軍總司令選擇ス

航空隊ノ編成

航空司令 教景文

航空付司令 趙雲鵬

航空第一隊長 鄧建中

大維梅 (大型ツキイ式) 二架

愛弗羅 (五ブ) 二架

小維梅 (小型ツキイ式) 三架

克的斯 (カーチス) 二架

牛時兒 (ニーポール) 一架

航空第二隊々長 張画一

大維梅 二架

小維梅 三架

愛弗羅 二架

克的斯 二架

牛腩鬼 一架

航空第三隊々長 教司令兼代

太維梅 二架

小維梅 三架

愛弗羅 二架

克的斯 二架

此命令ニヨリテ觀察スルニ同一方面ニ使用スル航空隊ニ各型式ヲ
異ニスルモノヲ分割配屬スルハ其使用ヲ困難ナラシムルモノニシテ眞ニ
航空隊ノ用法ヲ知ラサルモノノナシタル縮成ニシテ唯戰場ニ運搬シ
テ直軍將卒ニ各種ノ飛行機ヲ有スルコトヲ示シタルニ止マルノ感
アリ

而シテニューボール機 ウエーメー小型機 カーチス機ハ保定航空隊
ヨリ ウエーメー大型機及エプロ機ハ清河鎮航空工廠ニ格納シア

リシヲ戦場ニ鉄道輸送シ滦州飛行場ニ十一機北戴河飛行
 場(同地赤土山東麓)ニ六機東塩務飛行場(秦皇島北方四吉
 米)ニ六機配属セラレタリ然レトモ此等ノ中ニハ既ニ老朽使用堪
 ハサルモノアリ随テ充分ノ活動力ナク常ニ奉軍飛行隊ニ壓迫
 セラレ僅ニ數回陣地附近ヲ飛翔セシニ止マリ敵線内ニ進入セシ
 ハ九月二十五日一機萬家屯附近冷水河左岸奉軍陣地ヲ偵察
 シ爆彈ヲ投下セルコトアリシノミナリキ
 此ノ如ク航空隊トシテノ性能ヲ殆ント弁彈ニ罷ハサリシハ飛行機
 數ノ不足ヨリ寧ロ操縦者ニ適當ノ人ヲ得サルニ起因スルカ如シ
 蓋シ戦後南苑清河鎮ニ尚ホ相当使用シ得ル飛行機ノ残存ス
 ルニヨリ觀テモ其然ルヲ覺ユ

第一航空部隊

航空部隊トシテハ從來保定及洛陽ニ各飛行隊ヲ有シ十三年奉直戦ニ際シテハ之ヲ動員シ山海関方面ニ出勤セシメシカ直軍敗戦後ハ保定ニ在リシ残餘ノ飛行隊ハ國民軍第三軍孫岳其手ニ收メ洛陽飛行隊ハ一度洛陽ニ帰還セル吳佩孚ノ河南退去ニヨリ自然解散セリ

而シテ前者ハ國民軍第三軍ノ直隸ヨリ河南ニ移駐シ次テ陝西ニ進入スルニ隨ヒ新郷・鄭州ト移動シ現在ニ於テハ其主力ハ洛陽ニ位置シアリ使用シ得ハキ機數ハ約二十ナルモ其編制詳カナラス

第二、航空機

北支那ニ於ケル航空機ノ所在地及員數附表第一
ノ如ク同航空機ノ性能附表第二ノ如ク

公

附表第一

北支那ニ於ケル航空機所在地及員數表

十四年八月調

所屬	所在地	種類						計	摘要
		大型	小型	エプロ式	三ボルト式	カーナス式	ハドレバ式		
中央航空署	北京南苑航空學校 (航空練習所トモ称ス)	二	一	一	二		一	一五	エプロ式十二機、 中使用シ得サルモ ノ六機ナリト云フ
國民軍	鄭州飛行場	一	二					一	以上「エー」式五、 及「エプロ」式三、 格納ニアリト云フ
國民軍	洛陽飛行場	一		三	二	三	四	一七	保定飛行隊此地 ニ移駐ス
合計		七	七	一八	二	三	四	四五	


備考

一、奉直戰後天津東機器局西方復興莊ニ在リシ奉軍飛行機十五機ハ其後逐次奉天ニ還送セラレ十四年一月十五日遂ニ全部ヲ引上ケタリ

二、十四年五月下旬佛國ヨリ飛行機材料八箱(十一機分)天津ヲ經テ北京航空署ニ到着セルモ六月中旬ニ至リ箱詰ノ儘京奉線ニヨリ奉天ニ向ヒ発送セラレタリ

三、馮玉祥ハ最近露國ヨリ大型四、小型六、計十機ヲ購入セリト云フ

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	<table border="1" data-bbox="715 398 1038 757"><tr><td data-bbox="722 405 1031 577">2</td></tr><tr><td data-bbox="722 577 1031 750">1</td></tr></table>	2	1
2			
1			
分割撮影した理由	A 3判以上のため		
<p data-bbox="272 1160 1310 1323">上記のとおり分割撮影したことを証明する</p> <p data-bbox="352 1469 927 1547">7 年 8 月 8 日</p> <p data-bbox="536 1659 826 1720">主務者又は</p> <p data-bbox="536 1821 826 1881">撮影立会者</p> <p data-bbox="903 1787 1422 1899">坂根嘉和 </p>			

備考	計	式不明	式不明 (駆逐用)	二ボルト式	カーチス式	ハンドレ ペーシ式	コロドニ式	エプロ式	小型 動機	
一、ピツカース會社ヨリ購入シタルモノハ表面上商用ト称シ交通部トノ契約ニ據ルモノナレトモ其 實質ハ軍用ト認ムルヲ得ハシ 右ハ十年六月迄ニ到着セリ其一部ハ民國九年政変ノ際奉軍ノ手ニ帰ス 二、大正十一年仲秋節ニ於ケル北京駐屯部隊ノ觀兵式ニハ飛行機二台ヲ参加セシメタリ		同右	複葉 單弁 動機	戦闘用	教練機	複葉 複弁 動機	教練用	同右 同右 同右	十打度爆 彈四個ソコ 翼下ニ設 置シ爆彈 投下用ト ス	
			駆逐用			商業用				
					一人乗	二人乗	二十四人乗 内二名ハ操 縦者	二人乗	長二〇尺 翼長三〇尺 脊動機各一 推進機前 方二人乗	二人乗 同一型 式
					佛國 式					
			一八〇	一五〇	一三〇	九〇	七二〇	七〇〇 八〇〇	一三〇	
		不明		二	二	八 民國九年	六	一六 一六	六六 六六 二二	
		一七五 一七九 九八	一	二	二	八	六	一六 一六	同右 仙内三ハ 英國 福公司	
		伊國	英國 福公司		英國 カーチス 會社	英國 福公司	佛國		配屬セラレシカ 戦、結果會部奉 軍ニ函復セラレ	
						老朽機ニシテ奉 直戦ニハ使用セズ 保定ニ回機南苑 ニ二機アリ				
				又非限定航空隊 ニテ機体材料ハ 日本ノモノヲ用ヒ技 師洪雲中(日本 航空研究協會生) 製作ス						

七

0589

北支那ニ於ケル航空機性能一覽表

十四年八月調

0590

名稱	型式	用途	武装	航續力	速力	上昇力	構造	發動機		型式	馬力	裝備	購買數	到着數	組立數	賣込者	摘要
								型式	馬力								
カチキス式		教練機					二人乗				九		八	八	英國 カチキス 會社	又詳決定航空隊 ニテ機材材料ハ	
ハンドレ ペーシ式	複葉 複葉 動機	商業用					二十四人乗 内二名操縦者				七二		六	六	六	英國 福公司	老朽機ニシテ奉 直戰ニハ使用セズ 保定ニ四機南苑 ニ二機アリ
コロドシ式		教練用					二人乗				七		一六	一六	一六	英國	
エプロシ式	同右	同右	同右				長二〇尺 翼長三〇尺 脊動機各一 推進機前方 二人乗				一三		六六	六六	二二	同右 英國 福公司	
空メー式 小型	複葉 單葉 動機	平時 戰時 偵察用 偵察機 十打度爆 彈四個ヲ兩 翼下ニ設 置シ爆彈 投下用ナリ	同右				二人乗				三六			二	同右	十三年奉直戰ニ 北冀河及昌黎ノ 航空隊ニ四機宛 配屬セラレシカ 戰ノ結果全部奉 軍ニ没得セラル	
空メー式 大型	複葉 複葉 動機	平時 交通用 戰時 爆撃用 至機使也	武装 装置ヲ 有セズ	最大 六時間 通常 四時間	一時 一哩		長四〇尺 翼長六〇尺 向翼脊動 機各一個 乘客用所 子九個 十一人乗				三六	無線 二個有 合計 七二	七五	六八	二	英國 「ロウカス」	交通部・予ニテ商 業用ノ名義ニテ二 十台ヲ二百萬元ヲ 以テ一部ハ北京北 河間ノ邊陸飛行ニ使 用セシ其他ハ八〇封 皮機機下者ヲ設 置シ爆撃機トセリ

第三、航空特種器材

一、自動車

1. 南苑航空学校 兼用自動車 一

2. 清河航空工廠 兼用自動車、附近ノ道路不良ノ為目

下使用シアラズ 二輪自動車目撃シタルモノニ台アリ

3. 洛陽

米國製六十馬力二人乃至四人兼用自動車

五六輛ト貨物自動車一輛ト有ス 元來保定督軍署

ニアリシモノナリ

二、計器

南苑航空学校ニ教育用トシテ若干備附ケラレル由ナルモ種類員數所在其他一切不明ナリ

三、通信器材

清河工廠内北部空地ニ飛行機トノ通信ニ供スル小無線機ヲ設備ス(電柱ノ高サ目算約二〇米 中徑約一五冊米 中線ハ一線)

別ニ無線電信及電話室アリ機械二個ヲ有ス 北京、保定、洛陽等ニハ陸上ニ無線電信建設セラレアルモ

四、寫真器材
 果シテ航空機トノ通信ニ使用シ得ルヤ明カナラス

清河航空工廠員ノ言ニ據レハ南苑學校ニ於テ寫真ニ関スル研究ヲ實施シアリト嘗テ空中ヨリ見タル北京城内ト称スル寫真ヲ新聞ニテ見タルコトアルモ果シテ支那人飛行家カ支那ノ寫真機ニテ撮影セルモノナルヤ不明ナリ奉直戰爭中昌黎ヨリ米人カ寫真機ヲ携ヘテ直軍ノ飛行機ニ搭乘セシコトアリ其他航空寫真ニ就テ見聞セル件ナシ

五、防空兵器

十一年奉直戰爭中奉軍ハ山海関ニテ高射砲ヲ使用セリ該高射砲ハロ米ロセニシテ三十五口径ナリ自動車ニ積載運搬セリ

十三年奉直戰ノ開始セララルル中直軍ハ北京伊太利兵營ニアリシ二門ヲ購入シ又海軍砲ノ小ナルモノヲ離脱シテ之ヲ臨時高射ニ用フル設備ヲナシ共ニ山海関停車場附近ニ用ヒタリ

六、其他

イ、探照燈二箇(伊國製) 保定飛行隊ニテアリシカ十三年奉直戰ニ北戴河第一航空隊ニテ使用シ後奉軍ニ鹵獲セララル
 ロ、機関銃(米國製ニシテ連續百發射シ得) 十挺、戰前

吳佩孚ヨリ保定飛行隊ニ送付シ「ニーポール」戦闘機ニ
ニ挺ヲ装着シ北戴河第一航空隊ニ發送ス残部ハ目
下洛陽ニ轉送セラレアルハシ

ハ、飛行機投下用爆弾

百八十封度爆弾（伊國製）

數量不明

八十封度爆弾（支那上海製）

右保定航空隊ニアリシカ目下洛陽ニ運搬セラレアルハシ

第四、飛行場及著陸場

其一、南苑飛行場

一、飛行場ノ配置 別紙要圖ノ如シ

二、飛行場

一、幅員

東西約一〇〇〇米
南北約八〇〇米

二、滑走場 草地ニシテ平坦ナリ、第十一師ノ練兵場ナリ

三、周圍地物ノ状態

南側 第十一師ノ兵營

西側 格納庫及學校ノ建物アリ

東側、北側 畑地ニ連接シ、蔽削平坦ナルモ間隔大ナル

並木ヲ其限界ニ有ス

三、附屬設備

一、格納庫

著陸場西側ニアリ、連接スルニ棟ヨリ成リ、北部ノ分ハ

エプロン式十三機ヲ、南部ノ分ハ「ウエーメー」大型一機及

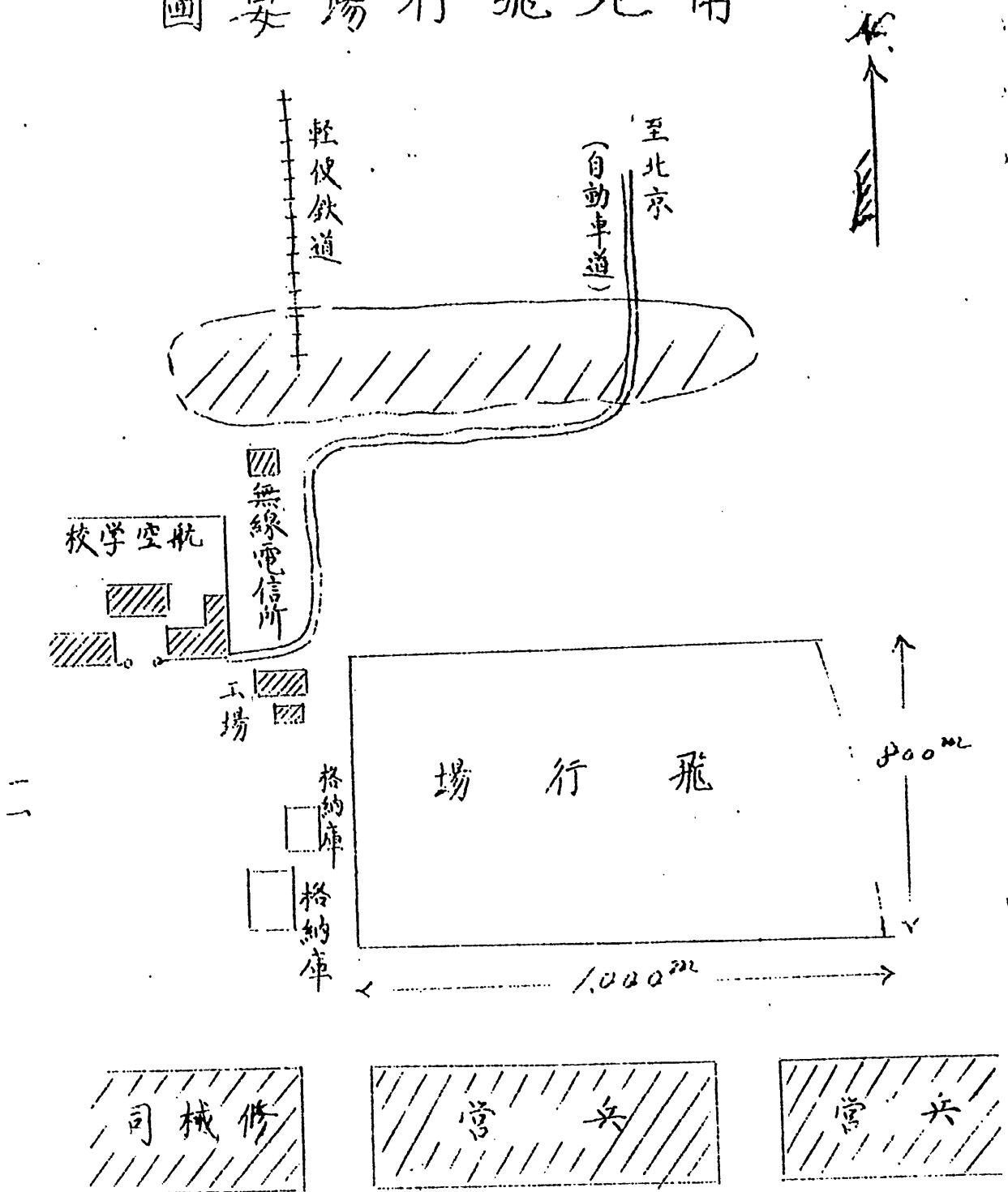
小型三乃至四ヲ收容シ得

南部ノ分、屋根ハ布張リナルモ著シク破レ雨露
ニ對シ格納飛行機ヲ曝露ス
北部ノ分ハ完全ナリ

修理工場

幅約一五米、長サ約三〇米ノ小建物ニシテ小修理
ヲ為スヘ大修理ハ清河鎮工廠ニ於テ行フ職工ハ六十
名ナリト云フモ当日實際就業シアリタル者ハ十數
名ニ過ラス修理工場ニテハ已ニエブロ式四機ノ修
理ヲ了リ更ニエブロ式二機ノ修理中ナリ

南苑飛行場要圖



其二、清河鎮飛行場

一、飛行場ノ配置 別紙要図ノ如シ

二、飛行場

イ、幅員 東西八〇〇米 東北一〇〇〇米

ロ、周圍ノ地物

南北ハ畑地ニ連絡シ平坦ナリ、東側ハ格納庫及工
廠ノ建物(高さ約一五米)ヲ有シ、西側ハ鐵道線路及
停車場建物ヲ有ス

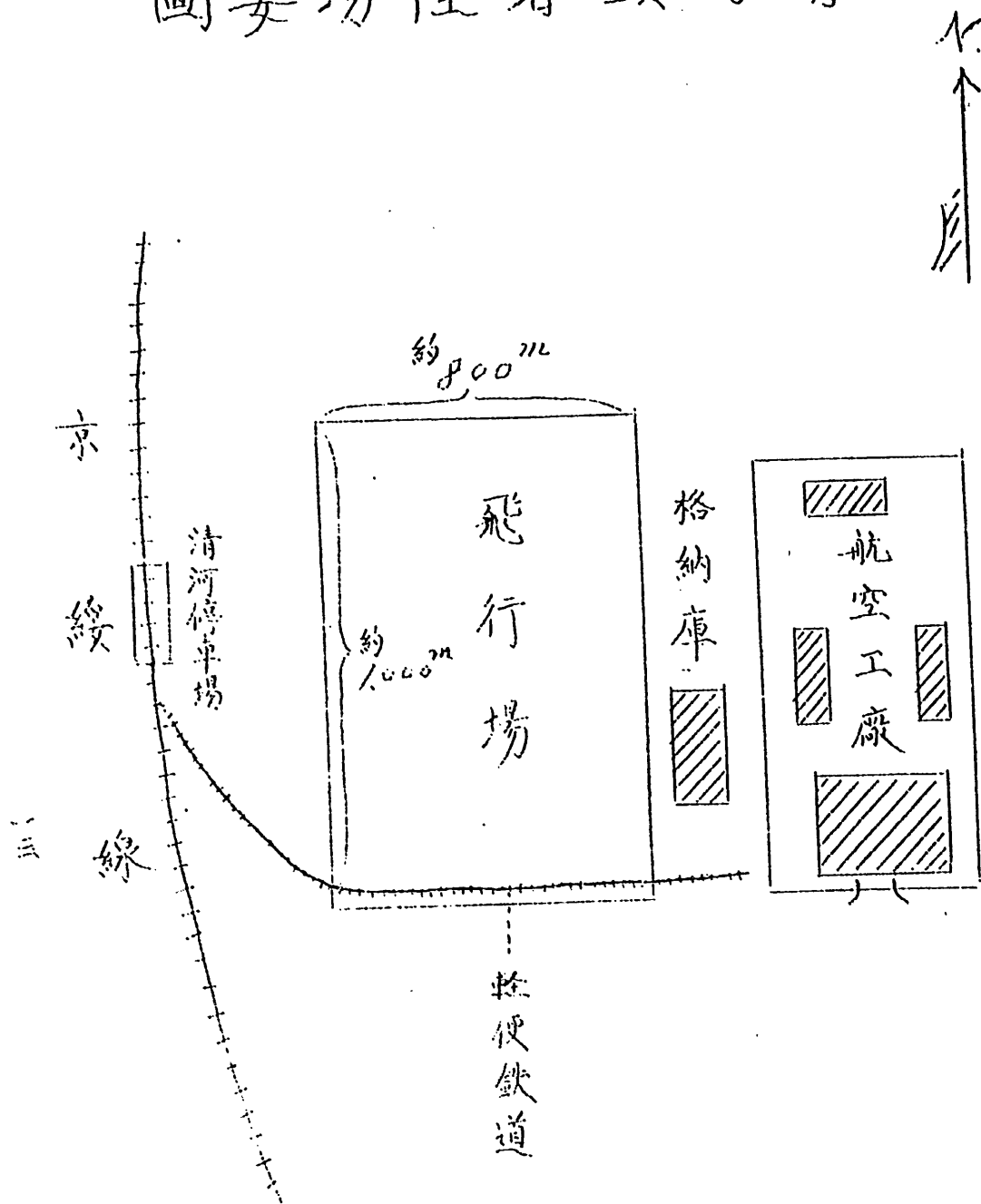
ハ、滑走地 草地ニシテ平坦ナリ

三、附屬設備

イ、格納庫

飛行機格納庫ハ四棟ヲ成リ一棟ニハ大型ウエーム
式二機及エプロン式二機、エプロン式又ハ小型ウエ
ーム式ナラハ六機ヲ收容シ得

清河鎮著陸場要圖



其三 保定飛行場

飛行場ハ市ノ東南方ニ當ル市外ニシテ約十萬坪ヲ有シ格納庫五棟アリ
 飛行場トシテハ稍狭キ感アルモ場ノ形状ハ理想的ナリト云フ

其四 鄭州飛行場

一、飛行場ノ配置 別紙要図ノ如シ

二、飛行場

イ、幅員

東西 廣キ箇所四二〇米、狭キ箇所三五〇米
南北 約三八〇米

ロ、滑走場

草地ニシテ平坦ナリ

排水ノ設備ナキヲ以テ降雨後ニハ所々ニ淺キ水溜ヲ生スル
モ飛行ニハ支障ナシ

ハ、周圍地物ノ状態

東側 隴海平務所及住宅ハ平屋建ニシテ其周圍ノ

樹木ハ高サ十二米ヲ超エス

西北側 馬店ヲ称スル小村落アリ戸数五六十槐樹多ク其

高サ約十五米

南側 畑地

西側 畑地、約六百米ヲ距テテ四個ノ煉瓦窯アリ

ニ、停車場ヨリノ交通路

馬車道ニシテ凹凸甚ク自動車ノ平滑ナル運轉ヲ為
シ得ス但シ自動車ニ改修ハ僅カニ千二百米ノ距離ナレハ容

三、附属設備

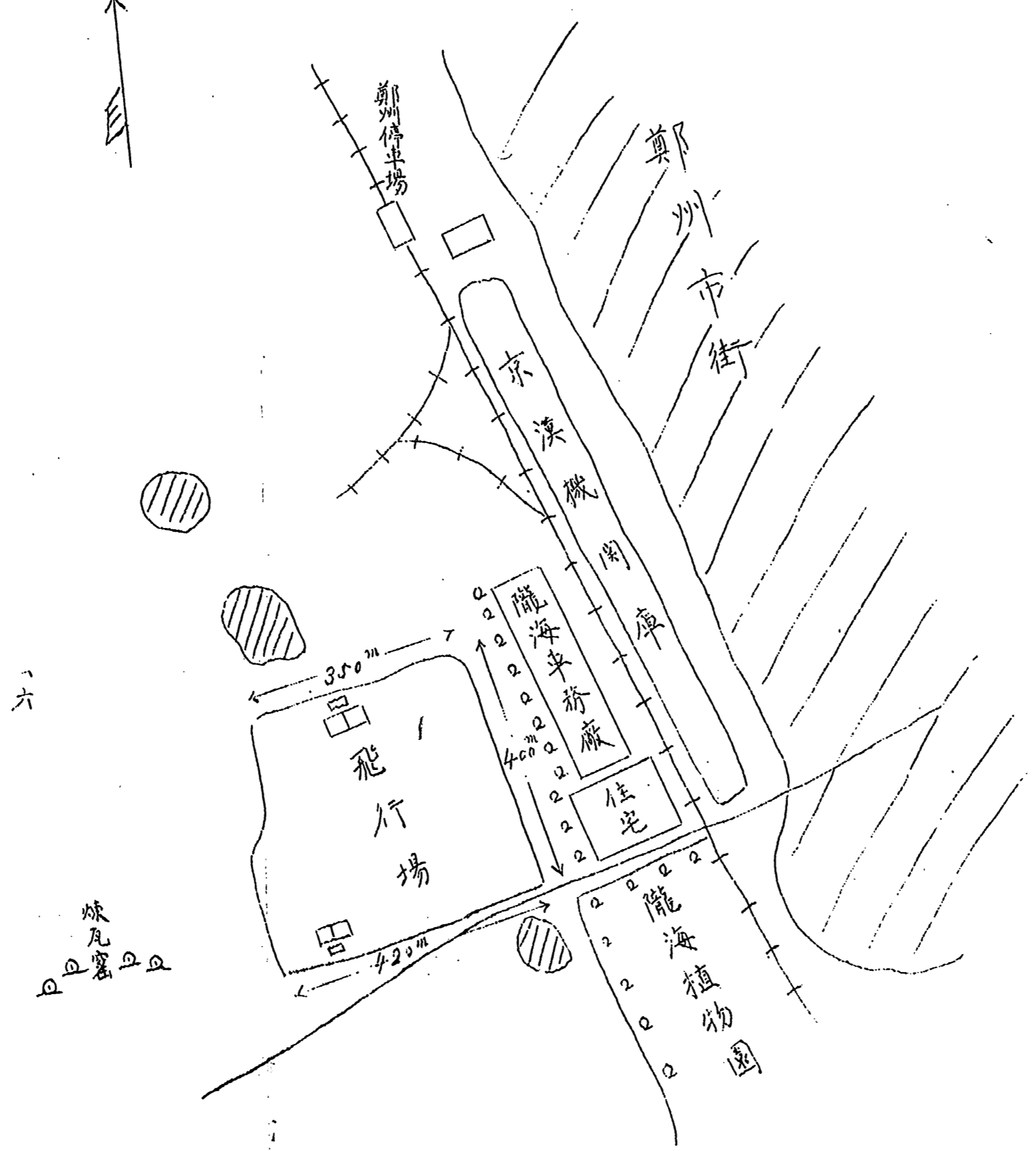
易ナリ

イ、格納庫

格納庫ハアンペラニテ蓋ビタル單筒ナルモノニシテ四個アリ場ノ北端ニ並列シテ二個アリ各間口十六米・奥行九米半・高サ七米アリ其背後ニ倉庫兼工場トモ称スヘキアンペラ小屋アリ場ノ西南隅ニ二個アリ各間口十六米・奥行六米・高サ六米ニシテ其背後ニ小屋ヲ附属ス

2090

鄭州飛行場要圖



六

其五、天津飛行場

天津飛行場ハ十三年奉直戦直後ニ関内ニ進入
セル奉軍ノ新設使用セルモノナルカ間モナク撤去セリ

一、飛行場ノ配置 別紙要圖ノ如シ

二、飛行場

一、幅員

東西約五〇〇米
南北約一三〇〇米

二、滑走場

平坦ニシテ凹凸ナシ

三、周圍ノ状態

四周ニ飛行ノ障碍トナルヘキモノ殆トナシ

四、停車場トノ交通

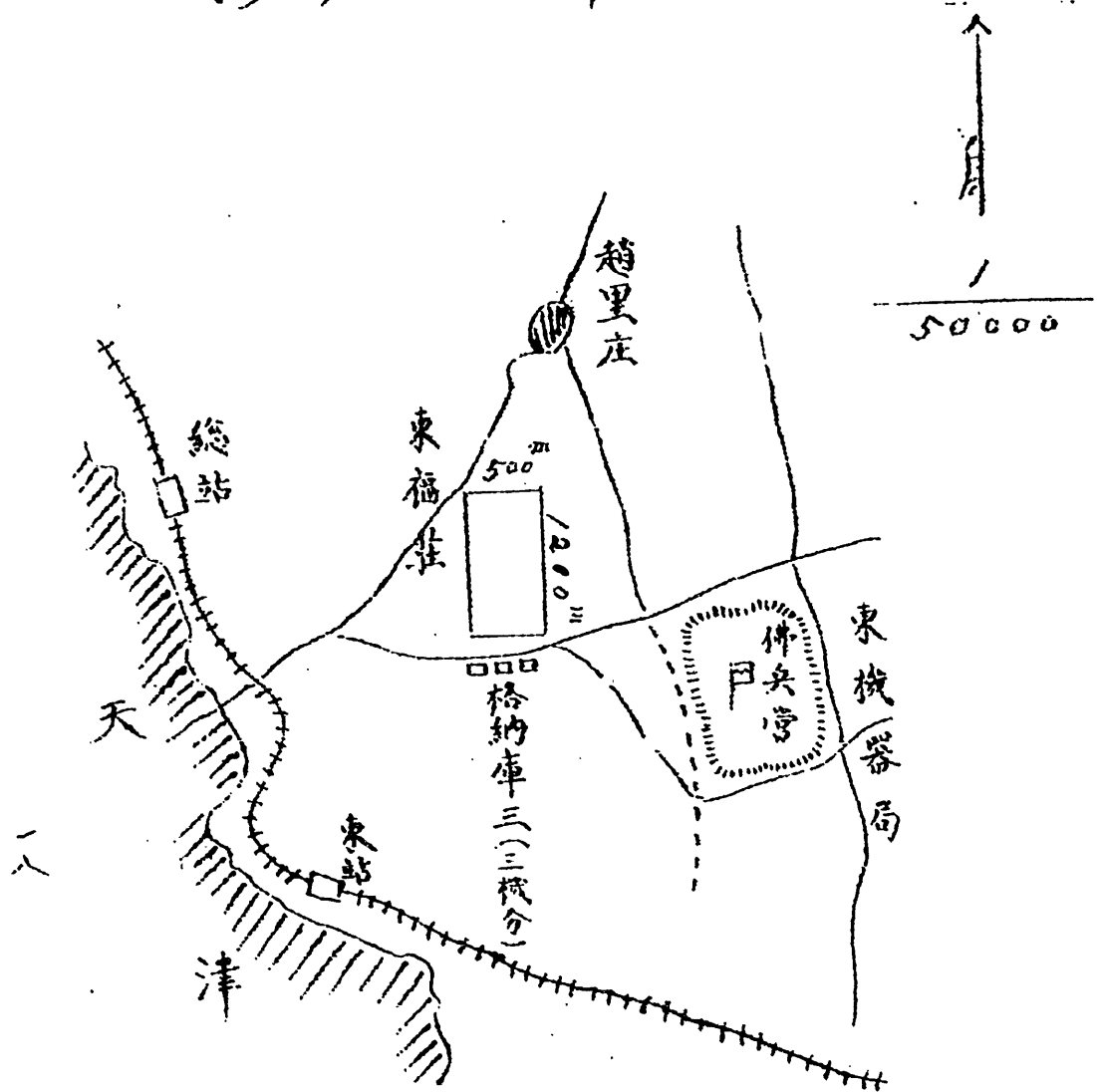
馬車ハ通シ得ルモ自動車ノ運行ニハ困難ナリ

三、附属設備

一、格納庫

三機ヲ收容シ得ル格納庫二棟、一機ヲ收容シ得ル
格納庫四棟アリ

天津東側奉軍飛行場要場圖



其六、不時着陸場及若干ノ工事ニヨリ

利用シ得ヘキ飛行場

京奉、京漢、津浦各鉄道沿線地帯ニ於テ十萬分地圖上草地ハ各季ヲ通シ不時着陸場ニ適シ又若干ノ改修ヲ加フレハ完全ナル飛行場ニ適スルモノ多シ

乾田及畑地ハ耕作物ノ種類ニ依リ異ナルモ大体ニ於テ耕作物繁茂期ハ特ニ大ナル除草及地均シ作業ヲ要ス高粱畑ニ於テ殊ニ然リ

濕地ハ夏季増水期ニ於テ泥濘トナルモ秋冬ノ二季ニ於テハ大体滑走ニ支障ナシ砂地ハ概不脆柔ニシテ不適當ナルモ芝生ノ砂地ハ飛行必スシテ不可能ニアラス

氣象ハ一般ニ靜穩ニシテ飛行ヲ妨ケスト雖春季
蒙古風ノ場合ニハ飛行困難ナルヘシ

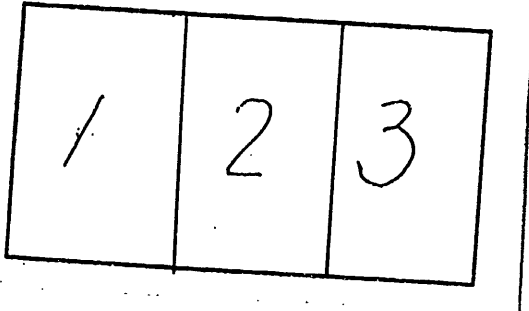

以上ノ概念ヲ基礎トシ圖上ニ於テ飛行場ヲ物色シ
テ現地ヲ踏査セハ大部分目的ニ適フヘク其範圍
ヲ擴張スルニ從ヒ一層良好ナル飛行場ヲ多數ニ
求メ得ヘキハ勿論ナルモ廣範圍ニ亘リテ現地ヲ
偵察スルコト能ハサルヲ以テ各鐵道沿線至近ノ範
圍内ニ於ケル適地ヲ列挙スルハ附表第三ノ如シ

(詳細ハ支那駐屯軍地理資源号外一飛行場調査
十二年一月)或ハ參謀本部飛行場調査書(十二年十月調ヒアリ)

第五、爆撃及防空

- 一、爆撃目標附表第四ノ如シ
- 支那ノ建築物ハ地震ニ對シ顧慮ヲ要セサルヲ以テ
 外觀宏壯ナルモノモ煉瓦、瓦、セメン等ニテ建造セラレ
 脆弱ニシテ鉄橋等特別ノ術工物ヲ除ク外一般ニ
 爆撃ニ對スル抵抗力小ナリ
- 二、防空ニ関シテハ平素何等ノ施設ナシ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7年8月8日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

爆撃目標一覽表

方面地名	所在	名称	形状	位置	對戰	價値
山	山海關	停車場	一般民家ヨリ	鐵道、長城	支	機關庫等停車場設備大ナリ
海	南関内	縣衙門	一般民家ヨリ	石河、市街	支	
海	長城南側	英國兵營	土壁ヲ以テ固	長城、鐵道、海岸	英	
海	小灣庄	佛國兵營	土壁ヲ以テ固	長城、鐵道	佛	
関	南側	停車場附屬鐵工廠	煙突三、四本アリ	煙突、停車場	支	鐵道材料、製作ヲ不可能ニス
関	西方二吉	石河鐵橋	長サ約三百米	石河、鐵橋	支	海陸連絡、妨碍
秦	海岸突角	用漆棧橋	海中ニ突出セル橋、水久積橋	鐵道、岐分点	支	衆物上陸、妨碍及物資、移動ヲ不可能ニス
秦	日本領地	開漆水道	一般民家ヨリ	日本無線、東	支	船、給水、薪才運
秦	日本兵營南	英國兵營	赤白等ノ塗料ヲ以テ粉飾セラレ著明ノ目標ヲ為ス	鐵道、支線、電柱	支	
皇	同北	佛國兵營		鐵道、支線、電柱	支	
皇	停車場南側	支那電報局		鐵道、支線、電柱	支	
島	東方	米子石油庫	白子石油油槽四五個アリ	鐵道、支線、東	支	京奉線、關内ニ於テル最大鐵橋
島	西方二吉	湯河鐵橋	長サ六百八十五米、構橋	京奉線及湯河	支	
灤	東側	停車場	一般、民家ヨリ	灤河鐵橋、西側	支	
灤	城內中央	縣衙門	宏大ニシテ各種塗料ヲ施シ又圍壁ヲ有スル等、特徴ヲ有ス	城內中央部	支	殊ニ水平、連島、遼寧方面トノ通信ノ斷絶ス
州	全	電報局		全	支	機關庫等設備大ナリ
唐	停車場南側	停車場		京奉線及其炭坑、支線	支	
唐	屬鐵工廠	電報局		唐山市街	支	
唐	電話局	電話局		亮甲山、唐山	支	
唐	米國兵營	米國兵營		双鳳山(以上平地ニ突出セル山)	支	
唐	開漆電所	開漆電所		同作位置	支	
唐	開漆鐵務所	開漆鐵務所			支	
唐	啓洋公司	啓洋公司			支	
唐	各炭坑	各炭坑			支	
唐	動力所	動力所			支	
唐	運河鐵橋	運河鐵橋		京奉線、芦台	支	北支那ニ對スルセメント供給ヲ斷絶ス
唐	北塘河	北塘河		京奉線、北塘河	支	
大沽及塘	停車場南	開漆碼頭		京奉線及塘沽停車場附屬、各支線	支	水陸連絡ヲ妨
大沽及塘	方七百米	亞細亞石油		白河口、灣曲	支	
大沽及塘	南二吉	會社		市街トノ關係	支	海外ニ通信及無線通信ヲ妨不入
大沽及塘	東方一吉	無線電信所			支	
大沽及塘	北側	永利製酸			支	
大沽及塘	北側	永利製酸			支	
大沽及塘	北側	久大製塩			支	

第六 教育

教育ハ南苑、清河鎮及洛陽ニ於テ實施シアリ洛陽ニ在リテハ軍事教育ヲ主トシアルモ南苑及清河鎮ニ於テハ一般教育ヲ為シツツアリ

其一、南苑航空學校

南苑航空學校ハ航空署ニ隸屬シ學生ハ初等操縦術ノ外航空ニ関スル一切ノ學、術即チ高等數學、氣象、撮影等ノ教育ヲ為ス所ニシテ兼テ飛行機ノ小修理ヲ為ス

ノ、學校職員

目下校長金世中以下八名（内三名ハ英佛ニ留学歸來セシ者）ニシテ總テ支那人ナリ從前ハ英佛米各國人ヲ顧問トセシモ中央財政ノ窮乏ト當テ航空署長クリシ潘矩楹ノ外人排斥主義トニヨリ漸次之ヲ驅逐シ目下二名ノ英人アルノミナリ（但シ條約上ニ名ノ英人技師ヲ招聘スハシトアルヲ以テ今尚存續

三二

シ居レルニ實際上一ハ名歳ノミニテ目下該英人ハ出勤シ教導
ハナシ居ラサルナリ

2. 志願者及現在學生ノ數並卒業者ノ景況

1. 志願者 一般志願者少カクサル如キモ多クハ武官(中

少尉ヲ主トシ稀ニ大尉)ヨリ採用ス 各省ヨリ採用シ試

験ハ初審及再審ノ二トシ初審ハ各省ニ於テ行ヒ再審

ハ學校ニ於テ行フ

2. 學生 目下八十名アリ年齡ハ十八歳乃至二十五歳ナリ

3. 卒業生 卒業生ハ約百二十名アリ其中更ニ高等ノ技

術練習ヲ希望スル者ハ清河鎮ニ至ル

尚奉天側ノ買収等ノ為北京附近ニアル者ハ漸次減少

シツツアリト云フ

3. 飛行機操縦者ノ技術及飛行時間

學生ハ毎日午前午後各二時間ヲ飛行時間トシ各人約十五分

ヲ使用ス二十時間ヲ以テ卒業スルノ規定ナリ毎年其終リニ

於テ教官並上級生ノ同乘指導ノ下ニ野外實習ヲ施行スル

コト四回ヲ經クル後長距離ノ郵便飛行ヲ試行スルコトナリ

居レリ

卒業生ノ多クハ当地ニ在ラス且單獨飛行シ得ル者少シ但
 本年五月日本海軍飛行校ノ北京訪問ノ際ニ歡迎ノ為南
 苑ニテ七八機飛行スル状態ヲ見ルニ其操縦法極メテ大胆ナ
 リ即チ離陸シテ未メ高度四五十米ニ達セサルニ急角度ノ
 方向ヲ変シ又練習ト称シテ着陸直前翼ヲ交互ニ傾ク寧
 口無謀ニ近シ宙返空中滑走其他各種ノ高等飛行術ニ相
 当練熟シアルモノノ如シ

其二、清河鎮航空工廠

清河鎮航空工廠ハ航空署ニ隸屬シ目下主トシテ飛行機ノ格納（英國ヨリ購入シタル新飛行機ヲ分解格納ス）修理及高等飛行術ノ練習ヲ為シアリ

1. 職員

職員ハ四十名（内支那人技師四名）目下英國人技師二名アリ内一名ハ飛行術ノ教育ヲ担任シ他ノ一名ハ工場ノ監督指導ヲ任ス大正九年設立當時ハ英人技師六名アリタルモ其後俸給不渡及前々航空署長潘矩楹カ外人排斥主義ヲ採リタル為漸次其數ヲ減シタルカ如シ

2. 航空操縦者ノ素質員數

現在清河鎮工廠ニアル航空操縦者ハ四十名ニシテ南苑航空學校ヲ卒業シタルモノニシテ主トシテ大型ウエーメー式ノ操縦ヲ為シ併セテ中小型飛行機ノ高等操縦ヲ練習シツツアリ

3. 飛行機操縦者ノ技倆及飛行時間
練習ノ為特ニ期限ヲ定メス各人ノ隨意ニ任シアリ

毎日午前午後各一回（二時間宛）ヲ飛行時間トシ其間約
 十五分間位宛交互ニ練習ス平素練習ハ唯清河鎮附近
 ノ上空ヲ飛行スルニ止マルカ如シ長時間ノ飛行トシテハ正
 十年六月末ヨリ北京濟南間ノ郵便飛行（十二年八月調北
 支那定期報告第七参照）ニシテ二時五十五分間飛行シ
 居レリ
 中小飛行機ニヨル高等飛行ハ之ヲ実施スルヲ得サリ
 シモ南苑航空学校長ノ一言ニヨリ察スルニ宙返リ等ヲ為
 シ得ル者ハ數名ニ過キサカ如ク他ハ辛ウシテ單獨飛
 行ヲ為シ得ルニ過キス

其三、張家口航空教練所

馮玉祥ハ最近張家口ニ航空教練所ヲ創設シ外人
 教官ハ概シテ露國人ニシテ招聘シ青年學生ヲ收容シ
 飛行員ノ養成ヲ企圖シアリ

馮玉祥ハ露國ヨリ大型飛行機四、小型飛行機六ノ購入ニ尚
 飛行機製作技師四名、飛行教官二名ヲ招聘シ又外人
 教官二十名ヲ張家口ニ招致シ近ク飛行術ノ練習ヲ開始スハ
 シト

其四 保定航空隊(現在ハ無クシテ洛陽ニ移駐ス)

保定航空隊ハ十三年奉直戦ニ於ケル航空隊ノ基
幹トナリシモノニシテ戦後其残餘ハ孫岳ノ國民軍第
三軍ニ屬シ同軍ノ河南移駐ト共ニ洛陽ニ移リ目

下保定ニハ航空隊ナシ

保定航空隊ハ大正十三年二月ヨリ日本伊藤飛行場出身
ノ民間飛行家安岡駒好(高知縣人一等飛行士ノ免状ヲ有スト
去フ)ヲ教官トシテ招聘シ教育ニ従事セシメタリ
同氏ノ談ニヨレハ一年ニ三十五名ヲ養成シ二箇月ヲ一期トシ
一期間六七名ニ普通ノ飛行術ヲ教育シ特別課目トシテ夜
間飛行、偵察飛行、機関銃ノ操法等ヲ教育スル計画ナリト、
教官ハ支那人七名ニシテ内一名ハ外人ヨリ他ノ六名ハ支那人ヨ
リ教育ヲ受ケタルモノナリ
支那人ハ馬力大ナル飛行機ニハ好シテ搭乘スルモ馬力小ナル
小型飛行機ニシテ上昇速度大ナルモノハ危険視シアリ安
岡氏ハ特ニ小型飛行機ニ搭乘スル如ク依頼セラレタリト

第七、航空資源及補給

其一、航空機製作及修理工場

支那ニハ獨立シテ航空機ヲ製作スル處ナク唯組立及修理ヲ為シ得ル清河鎮工廠アルノミ南苑飛行學校附屬工場及保定航空隊（現在洛陽ニ移駐ス）附屬工場等ハ共ニ規模貧弱ニシテ僅ニ小修理ヲ為シ得ルノミナリキ

清河鎮工場ノ景況左ノ如シ

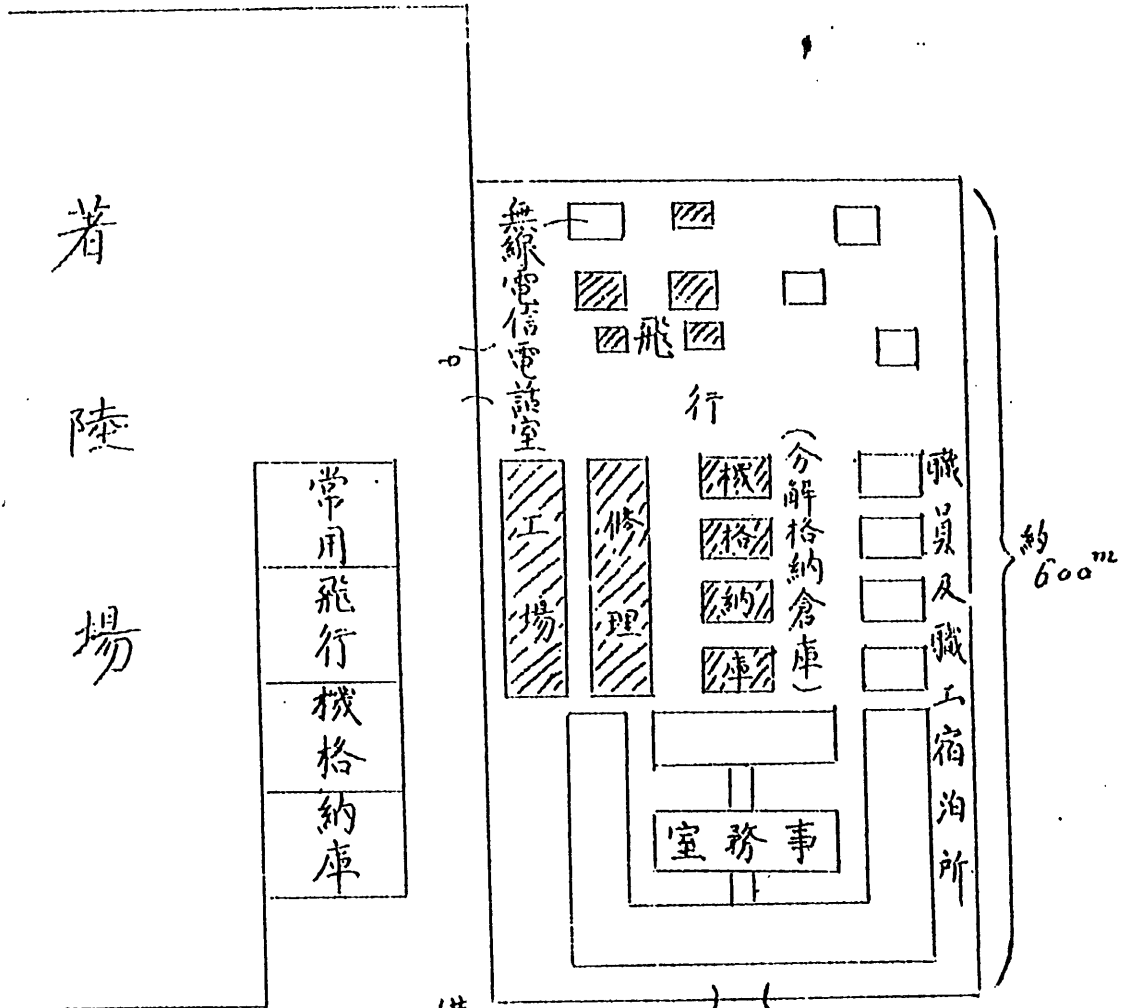
一、製造修理能力

發動機以外ノ部品ハ全部本工廠ニ於テ製作シ得大型ツエーノ式一機組立ノ為職工十餘人ヲ使用シ約一週間ヲ要ス

二、職工ノ數

現在職工百二十名ニシテ其中熟練ナル者三十名アリ而シテ所要ニ應シ臨時増減シツツアリト云フ

清河鎮航空工廠要圖



- 備考
- 一、本圖ハ正確ナル務尺ニ依リタルモノニアラス
 - 二、職員及職工等ハ全部工場ニ宿泊ス
 - 三、本工場ハ元豫備學堂ノ建物ニシテ工場ノ外ハ二階建ナリ

著陸場

常用飛行機格納庫

無線電信電話室

飛行機

行

分解格納倉庫

職員及職工宿泊所

工場

修理

機格納庫

事務室

東門

約400m

約600m

其二、航空部品及消耗品ノ補給

一、發動機及鋼鉄製部品ノ大部ハ英國（一部ハ露國）ヨリ補充シアリ

二、消耗品中揮發油ハ米國ヨリ補充シアリ

然レトモ最近山西省當局ハ最近石油生産ニ就キ大規模ノ計畫ヲ為シアルヲ以テ其實現セラレタル曉ニ於テハ自給シ得ラルルカ如シ

参考

山西省石油精練業發展計畫

本計畫ハ十箇年ノ繼續事業トシ年々省金庫ヨリ三十萬元ヲ支出シ該經費及石油生産ニヨリ得ヘキ利益ヲ以テ十箇年間ニ四十四ノ石油精練所ヲ建設スルニアリ省當局ノ意見ニヨルハ同省ハ毎年約一万四千ガロン、價格三百萬元ノ石油ヲ輸入シアリ又山西省内ハ廣大ナル頁岩沈澱物アレハ労働者有シ及運搬方法アレハ省内到ル處ニ石油精練所ヲ設置シ得

ハシト
 各精練所ハ蒸溜所一、精油所一、及機械修理工場一ヨリ成
 リ之ニ石炭酸其他ノ副産物製造所ヲ附屬セシムルモノニシテ
 一精練所設置ニ要スル初年度経費ハ約二十萬元ナリ而シ
 テ各精練所ニ於ケル一日ノ生産高ハ原油六噸即チ一年
 一千八百噸(作業日數ヲ三百日トシ)ニシテ此量ヨリ二割即チ
 三百六十噸ノ燈油及略同量ノガソリン及機械油ヲ生産シ得
 ハク残額ノ四割ヨリコールドル^ル其他各種ノ副産物ヲ得之カ賣
 却ニヨリ第ニ年度ニ於テ約七十萬元ノ利益ヲ得逐年利
 益ノ増額ヲ見十年間ニ石油精練所ヲ四十四ニ達セシムハ
 キ豫定ナリ(詳細ハ十四年支常報第四十三号ニアリ)

第八 航空地誌資料

其一、北京濟南間郵便飛行

大正十年六月末ヨリ數回ニ亘リ北京濟南間ノ郵便飛行ヲ實施セリ

1. 郵便飛行ヲ實施スルニ至レル動機

航空機並之カ操縦術ノ發達ヲ期スル為練習飛行ヲ兼テ郵便物ヲ托送シ若シ之カ為成績良好ニシテ其收入ニヨリ加ソリニ代ニテモ收マレハ之ヲ續行シ五年後ニハ經濟的ニ有利ニ成立セシメントスルニアリ

2. 計畫ニ參與セシモノ

計畫主任 何爾德 副主任 郭克興

顧問 徐祖善 厲汝燕 王鷲

計畫委員 顧水專等外五名

執行主任 陳 紅 副主任 王 鏞

3. 計畫ノ内容

1. 發送郵便物ノ種類

信書、端書、小包、賃金等

二九

津間ノ規定ニ準ス

口 郵便局ト飛行場トノ連絡ニハ自動車ヲ用フ

ハ 飛行機ノ種類 ヲキツカースピード式(民國九年六月英

國製ニテ價格一萬磅坐席八個)

ニ 郵便物搭載方法及搭載限度 重量六百基瓦ヲ限度

トシ之ヲ油紙ニテ包ミ其外部ヲ麻製袋ニテ梱包シ摺

者ノ後方ニ位置スル乗客用籐製椅子ノ下部空席

ニ搭載シ此外操縦者ニ名ト乗客八名ノ便兼セシメ得

ル様設備シアリキ而シテ此郵便物ニ對シ何等ノ保

險ヲ附セサリシカ將來ハ航空署ト郵便局トノ契

約ニ照シテ保險ヲ附スル豫定ナリキ

ホ 北京―濟南間 直距離三百哩 飛行高度(最高度七千尺)

所要時間 第一回二時五十五分 第二回二時三十五分

ハ 郵便飛行ノ回数 月水金(北京ヨリ) 火木土(濟南ヨリ)

ト 旅客ハ行程ニヨリ納金ス(每一哩銀二十仙)

チ 郵便飛行ヲ為サントスル主要幹線左ノ如シ

京滬線 北京―天津―濟南―徐州―南京

京漢線 北京―保定―石家莊―鄭州―駐馬店―漢口

京哈線 北京―北戴河―錦州―奉天―長春―哈爾濱

京庫線 北京―張家口―瀋江―烏蘭―托羅南―庫倫

4. 郵便飛行實施ノ狀況

京科線 庫倫—沙市—克古—烏里程—蘇台—科布多

一、試験飛行 六月二十六日 成功 (大正十年)

二、第一回實施 七月一日 成功

晴朗ニシテ氣壓七五九— 溫度二三度 風向西南和風

三、飛行ニ使用セシ飛行機 大鵬 正鵠 舒雁

四、郵便托送ノ狀況

第一回ニ實施セシハ遊覽ヲ兼ネ人具ヲ搭乗セリ(將來

ハ旅客ヲモ搭乗セシムル計画ナリキ)而シテ通常葉書

四袋 小包四袋ノ輸送ヲ實施セリ

飛行郵便ニ托セントスルモノハ中國郵便局ニ至リ普通ノ葉

書又ハ切手ヲ求メ別ニ葉書ハ十五仙切手ハ三十仙ノ航

空切手ヲ買求メテ輸送ヲ依頼ス局ハ之ヲ自動車ニテ

飛行場ニ運搬シ飛行機ニ搭載ス目的地ニ到着スレハ

直ニ自動車ニテ郵便局ニ廻送シ(北京—南苑間ハ米國

製自動車一名ニテ之ニ宛テ約三十分ヲ要シタリ)此所ヨリ普

通ノ郵便配達ニヨリ配達セラル

五、第一回ノ狀況

飛行時間 北京—濟南間 二時五十五分

操縦者 英國人ハインシン 支那人曹明志

三ノ

同業者

ワッツ (ホイテール新聞)

ホイフィン (米國聯通)

梁志和 (全國報界聯合會)

符之流 (群報)

古野伊之助 (日本新聞記者)

ホルルト (航空署顧問英人)

黄鴻謙 (航空署總查科長)

航空署係人 英人一、支那人一、

八、第二回ノ狀況

飛行所要時間

二時三十五分

其他不明

5、航空驛

北京 南苑飛行場

濟南 商埠地ノ西役店西端

6、飛行機保管ノ要領

英國式ノ孫用シ格納庫ヲ急造セリ其要領鐵筋ニ天幕ヲ用ヒシモノ一、(縱約三十五米横約四十米)及半永久

以操縦者

的ノモノ六アリヘ内ニハ縦約三十米、横約二十五米、ニハ縦約二十米、横約十五米ニシテ何レモ練習用飛行機ヲ格納シアリ他、ニハ構造不明ノモノハ鐵筋ニシテ外圍ハ煉瓦ヲ以テシ屋根ハ亜鉛鍍ヲ用ヒアリ格納庫以外ノ建物ハ航空練習所（即學校）ト飛行機修理工場アリ工場ハ一部破損ノ修理工場ニシテ當時ハ旧式飛行機三台及自動車ニヲ加修シツツアリ。

十年十一月從業員練習中ノ者ハ合計四十五名ニシテ之等ハ約二箇年半ニテ卒業トシ此期間ニ於テ必ス空中ニ於テ必ス空中ニ於ケル實施飛行五十時間ヲ經過スルヲ要シ其修業成績良好ナル者ヲ選抜シ卒業者トナス當時支那人ハシテ單獨飛行シ得ル者約二十名アリ

北京濟南間飛行一回ノ所要經費ハ約一千弗ニシテ試驗飛行中ハ損失ノミニテ益ナキモ爾後上海迄ノ飛行ヲ決行スレハ相當ノ利益ヲ得

ル見込ナリシト云フ

右ノ郵便飛行ハ引續キ續行ノ豫定ナリシモ五
回實施セラレテ休止セリ表面ノ理由ハ降雨ノ為
濟南飛行場ノ設備不完全ニシテ泥濘トナリ著陸
不可能ト稱スルモ實際ハ經費不足ノ為ナリト

尚十年末ニハ支那人ノ操縦者卒業スルヲ以テ
之ヲ待テテ再々郵便飛行ヲ實施スル豫定ナリシモ
實施スルニ至ラザリキ

其二、北京遊覽飛行

大正十一年十一月平和休戦紀念飛行ヲ舉行シ
 其際空中ヨリ遊覽飛行ノ廣告宣傳ビラハヲ
 散布セリ其要旨左ノ如シサレト其實施ヲ見ス
 有耶無耶ニ終レリ

1. 京師飛行 毎週火木兩日午前九時半開始
 價格一人銀十五元

2. 長城飛行（八達嶺・南苑・十三陵間往復）毎週水
 曜日午前十時半開始一人銀三十元

3. 切符發賣所 北京飯店 通濟隆公司 南苑
 飛行場

其三、北京、天津間、郵便連絡飛行

大正十二年五月北京—天津間、郵便連絡飛行

ヲ實施セリ

一、統轄指導機關

北京交通部航空署（長潘矩楹）ノ監督ヲ受ク

營業主任 米人 吳士敏、オホスメン（京津米國運轉公司及米

國運通銀行經理主任）

天津航空站長 趙天豪

二、飛行機

英國製「ソニー」式一名「舒雁号」（八百馬力、八人乗、推

進機、二個ヲ有シ、客室ハ兩側硝子張ニシテ、八個ノ椅子、机

等ヲ設備シ、尾部ニ便所ヲ設ク）

三、操縦者 支那人二名（劉党克、胡百錫）

四、飛行場

北京、南苑

天津、特別第一區（旧独界）外ノ民有地（田圃ニテ凸凹アリ）

面積百七十餘畝

大型飛行機ノ著陸及廻轉飛行等ヲ為シ得ル如ク之
ヲ西南方ニ擴張スヘク計畫中ナリシモ實施スルニ至
ラス

土質堅固ナラスシテ第二回ノ著陸ハ際ニ両翼ヲ破損セ
ル為改修ヲ加ヘタリ

5. 郵便飛行ニ関スル規定ノ要旨

料 金 一人一人 二十弗

書 状(每五枚)十五仙

葉 書 一枚 十五仙

往復葉書一枚 十五仙

小 包(一吉瓦)六十仙 (重量十吉瓦迄)

取扱所 市内六郵局

飛行日時 毎週二回(月・金)午前十時午後二時

五月二十三日第一回飛行實施後概ネ一週一回乃至

二回實施シタルモ六月八日以後中止セリ其原因ハ

同日午後四時天津ヲ發シ北京ニ歸還ノ際楊村

三三

ニテ墜落シ操縦者輕傷(他ニ乗客ナシ)機体破
 壞シタル為郵便物ト共ニ列車ニテ北京ニ送ルコ
 トトナリ爾後多大ノ恐怖ヲ感シ為ニ一般乗客
 ノ便衆少クニテ收支相償ハサルト奉直一再戰
 ノ謠言甚シキ折柄トテ地方人心ノ安定ヲ破
 ル傾向アリシニヨル

托送郵便物ノ數ハ毎日天津各郵便局ヨリ北京
 方面ニ運送ヲ依頼サルルモノニテモ二千餘件ニ
 達セルモ乗客ハ割合ニ少ク平均一日ノ往復者
 約十名ニ過キス時トシテハ皆無ノコトアリ最
 初ハ一日一回ノ往復ナリシカ六月四日頃ヨリ二回ト
 シ第一回ハ午前七時北京發午前九時天津
 發第二回ハ午後三時北京發午後四時天津發

0632

變更ノ豫定ナリシモ實施ニ至ラザリキ

三四

其四、北京北戴河間遊覽飛行

十二年八月十日ヨリ北京北戴河間遊覽飛行ヲ
 開始スハク決定シ大要左記要旨ノ如ク發表シタ
 ルモ遂ニ實施スルニ至ラザリキ蓋シ八月十日ハ已
 ニ北戴河ニ於ケル外人避暑期ノ過半ヲ經過シタル
 時期ナルヲ以テ收支經濟上ノ關係ヲ顧慮シタルモ
 ノノ如シ

1. 飛行回数

每週一回往復
 北京ヨリ 金曜日 午後三時
 北戴河ヨリ 月曜日 午前八時

2. 料金

手紙 二十瓦送 一角五分
 葉書 一角五分
 往復葉書 三角
 印刷物 五十瓦送 一角五分
 小包 類一社六 角
 一社ヲ加フル毎ニ三角

人 片道四十元
往復七十元

本飛行ハ翌十三年夏再々計畫セラレ實施ヲ見ル

ニ至レリ

1. 飛行開始 八月一日

2. 飛行機ノ種類及操縦者

舒雁號(ウツキ式) 乗客九名、操縦者二名計十一人衆、
操縦者米人トイフ。同衆者支那人一名

3. 航空路飛行區間

北京南苑航空站—京奉線ヲ沿ヒテ北戴河赤土山北側
草地廣場間

4. 飛行回数時間

每週一回往復 北京ヨリ 金曜日午後三時
北戴河ヨリ 月曜日午前七時
航空時間 北京ヨリ北戴河 二時間トス

5. 料金

人 北京 往復八十元 天津 往復八十元
片道四十元 (北戴河附近上航)
空遊覽一人十五元

三五

6. 著陸場

手紙 普通料金ノ外ニ十五仙
葉書 普通料金ノ外ニ十五仙

著陸場ハ北戴河赤土山北側芝地ニ赤土山側ニ高サ約四米
長サ約二十米ノアソビラレノ風避アルノミ

右飛行ハ八月一日以降 同月八日迄ニ一回往復シタルノ
ミニシテ其後飛行ヲ中止セリ

其五、鄭州洛陽間郵便飛行

國民第三軍第四師長兼航空署長何遂ハ河南鄭州ヲ起點トシテ新疆伊犁ニ到ル航空線ヲ計畫中ナルカ其第一着手トシテ十四年五月一日ヨリ鄭州洛陽間ニ郵便飛行ヲ開始セリ
鄭州洛陽間郵便飛行ノ狀況
1. 發着地

鄭州、瀝海線修育場左側（東西七百米、南北五百米）
洛陽、西宮左側

2. 使用飛行機

英國維梅（ビーム式）一、（從前北京南苑ニ在リシモノト同（一）リ）

大型ニシテ翼長百三十呎、機高二十呎餘

汽用六、推進機二、搭乗十一人

英國維梅（小型）（二人又ビーム式）二

右三個ノアンペラレ作リノ格納庫内ニ收容ス

3. 飛行回数及時間

五月一日ヨリ起リ毎週火金両日

鄭州發午前五時 洛陽發午前五時

所要時間 約一時間(實際八十五分)

5. 料 金

人員 片道二元 往復三十五元

郵便 普通郵便料、外

信書 十五元以内(双封三) 十五仙

葉書 十五仙

往復葉書 三十仙

小包 一吉元以内(一吉每三) 六十仙

印刷物 五十瓦毎ニ 十五仙

6. 飛行監督

西北飛行隊長 葛世平

右ノ計畫ニヨリ五月一日鄭州ヨリ飛行シ外人多
數搭乘セリ

其六、天津上海間郵便飛行計画

天津上海間ノ郵便飛行ハ十年七月一日ヨリ試験的ニ實施スヘク決定セラレタリ其計画左ノ如シ

1、飛行停車場

天津飛行停車場ハ北倉ニ設定シ飛行機二十餘台ヲ收容シ得ル如クシ且試験飛行ノ設備ヲ完全ニス

2、使用飛行機

合計四十台、英國最新式ノモノ
其大半ハ五月初旬迄ニ英國ヨリ上海ニ到着シタルヲ以テ滬寧、津浦兩鉄道ニヨリ天津ニ輸送ス

3、飛行郵便切手

飛行機ニヨリ輸送スル郵便物ニ貼用スル切手ハ十五仙、三十仙、四十五仙ニシテ切手面ニハ漢英兩字ニテ飛行郵便ト記シ七月一日ヨリ各地郵便局ニテ發賣スルコトナレリ

4、航空警察教練所

航空署ハ各飛行停車場ノ混雑ヲ防制シ其地方ノ治安ヲ維持スル為航空警察教練所ヲ設ケ巡警五百名ヲ募集シテ之ヲ養成ヲ開始ス

右ノ飛行準備ハ一時活氣ヲ呈シタルモ經費其他ノ關係ニヨリ中止トナレリサレト英人カ支那ノ空中權獲得ニ懸々タル已ニ久シク十二年再ヒ京滬航空線ノ再現ヲ傳ヘラレシモ未タ實施ヲ見ス

其七 北京蘭州間航空線設置計畫(天津旬報九号)

潘航空署長ハ十年十一月頃駐京英國公使ノ勸告ニ依リ北京ト甘肅省蘭州間ニ航空線ヲ設置シ旅客及郵便物ノ輸送ヲ為スハノ國務院交通部等ト協議中ナリキ英公使カ右ノ如キ勸告ヲ為シタルハ英支飛機借款契約ヲ擴張シテ支那ニ飛行機ヲ賣込ニ以テ支那ノ航空事業ヲ掌握シ一面益々支那ヲシテ航空交通ヲ擴張セシメ以テ將來北京西藏及印度並川邊等トノ連絡ニ便セントスル目的ナリト云フ然ルニ十年三月頃京蘭航空借款ノ成立説アリ(十年三月三日旬報第七号)其真否明ナラサルモ當時ニ於ケル支那紙ノ所報大要左ノ如シ

航空署ハ北京蘭州間ノ航空ヲ行ヒ西北ノ交通ヲ便ナラシ
ムル計畫ヲ有スルモ經費ナクシテ其實現不可能ナルヨリ目下
英國ツイツカース會社ニ向ヒ三十万磅ノ借款交渉中ニシテ其
契約ノ内容左ノ如シト

- 1、會社ヨリ飛行機大ニ台小十台ヲ交付ス
- 2、飛行機運送ニ関スル損失ハ會社ハ賠償ノ責ヲ負ハス
- 3、本飛行機借款ハ溢餘公債ヲ以テ抵當トス
- 4、借款額三十万磅
- 5、用途 五万磅ヲ京蘭航空線建築費 十九万磅ヲ材料
購買費 六万磅ハ該會社ヨリ航空署ノ費用トシテ每
月五千磅宛交付シ一年ニテ終了

其八、西北航空線設置計畫

國民軍第三軍第四師長（兼航空署長）何遂ハ西北航空線ノ設置ヲ計畫シ葛西平ニ航空司令部ヲ特設セシメ銳意航空ノ發展ヲ計リ其第一着手トシテ十四年五月鄭州洛陽間ニ郵便飛行ヲ開始シ更ニ飛行路ヲ陝西ニ延長スハク葛隊長ヲ潼關ニ派シ尙航空學生四十名ヲ養成中ナリト

航空路設置豫定

鄭州—洛陽—陝州

陝州—西安—蘭州—伊犁

蘭州—包頭

西安—成都

航空線ノ延長ハ伊犁迄五千六百支里ヲ廿八時間ニテ連絡スル計畫ニシテ開始ノ曉ニハ伊犁ヨリ露

領ア¹ンジジヤン^レツ^ツ經テ歐洲ト連絡スルノミナラス從
 來五十餘日ヲ要シタル西北ノ地ト僅々二日ニテ連
 絡シ物資ノ輸送連絡、郵便等大ナル便益ヲ得
 ハシト称シアリ

一、計畫

其九、國際航空驛設置（二二一〇、二天津普通報一六三）

航空署ハ支那ノ國際航空驛カ未タ何等ノ設備
 ナク禁航區域ス未タ發表シアラサルカ故ニ國際
 航空條約ヲ批准スルニ先チ之ヲ解決スヘク談等
 備經費概數ヲ豫定シテ國務院ニ提出セリ之
 ニ據ルハ伊太利及日本ノ飛行機ノ支那ニ入り
 タル線路ヲ参照シテ南ハ廣東省廣州ヨリ
 北ハ奉天省安東ニ至リ沿海岸ハ福州上海青
 島天津北戴河ノ各地方ヲ經過シテ全線一航
 空驛七個處ヲ建設スルコトトシ其一切ノ購地建
 築等ニ要スル經費ヲ約七十五萬元ト見積レリ
 其詳細見積高ハ左ノ如シ

ノ、購地ニ関スル事項

イ、地積

航空條例第九十四條ノ規定ニ依リハ陸地飛行場

面積ハ九万方米ハ二百二十餘畝一ヲ最少限トスルモ自由

ニ昇降スルニハ三百畝ヲ要ス國有航空驛土地收

用施行細則第二十五條ニコレハ每畝ノ最高價格ヲ

八十元トスレハ一飛行場ニ要スル地積價格ハ二万四千

ナリ

ロ、墳墓移轉費

飛行場範圍内ニ於ケル墳墓ヲ每畝平

均二個處ト計算スレハ一飛行場地面三百畝ニ約六百

個處トス土地收用施行細則第二十五條ニコレハ墳墓一

個處十三元ナレハ合計七千二百元ヲ要ス

ハ、補償費

飛行場地面ニアル青苗樹木家畜等ノ爲ニ

テハ規則ニ照シテ補償費ヲ給ス其額約五千元

之、建築ニ関スル事項

イ、飛行機格納庫

二列本造每列廣サ八十呎 深サ十四呎四

万六千元 若シ鋼質ヲ用フレハ一列ニテ約十四万円ヲ要ス

ロ、飛行場

每畝ノ工賃五元トシ每場約五百畝トスレハ二千

五百元ヲ要ス

八、油庫一、廣サ十三呎深サ十六呎一千元

六、測候所一、一千元

水、修械所一、廣サ三十呎深サ五丁呎三千元

八、辦公室一、廣サ五十呎深サ六十呎五千元

3、無線電信台及測候所儀器ニ関スル事項

イ、無線電信台建築費二萬元、機材購入費六萬元

但シ飛行場附近ニ若シ無線電信台アレハ之ヲ利用シ

テ經費ヲ省ク測候所内ニハ一受信機ヲ附設ス其

機材購入及据付等ノ費用ハ毎處約五百元

ロ、測候所機品 購入費約一千元

毎月航空驛購地建築合計九万六千二百元

(若シ鋼賃格納庫トスレハ十五万二千元)

二、制定

支那政府ハ十一年六月巴里ニ開催セラレタル國際航空
聯合會ニ代表ヲ派遣參與セシメ航空修約ニ調

印スル所アリタルカ最近閣議ノ結果前航空署長
 潘矩楹ノ建議ニ基キ之ヲ批准スルニ決シ禁航區
 域ノ發布ト同時ニ上海天津北戴河安東廣
 東福建ノ七個所ニ國際航空昇著陸場ヲ設
 置スルコトナレリ

此建設費合計七十萬元ヲ要シ政府ハ明年早
 々工事ニ着手スヘク既ニ委員ヲ派シテ測量
 セシメツツアリ

因ニ潘矩楹建議ノ要領左ノ如シ

巴里媾和會議ニ於テハ各國領空權保障ノ見地ヨリ航空條約
 ノ締結ヲ見我國モ亦顧余權ニヨリ調印セラレタリ本年六月
 本署ヨリ該聯合會議ニ派遣シタル航空委員秦國庸ノ電
 報ニヨレハ現ニ該條約ニ批准シタルモノハ日本ヲモ加ヘテ十四
 個國達セリ支那モ之ヲ批准スルヤ否ヤ速ニ決答サレタシト
 申達シ来レルニ依リ本署ハ各部署ノ代表會議ヲ開催シ

詳細討議セリ凡ソ積弱ノ國カ列強ト條約ヲ締結スル
 ニ當リ最モ留意スヘキハ其條約ニヨリテ平等ノ待遇ヲ得
 シコトニ努ムルコト是ナリ然ルニ支那ノ外交ハ從來一トシテ
 人後ニ落テサルハ無シ而シテ今此航空條約ヲ利用セハ各國ト
 同等ノ權利ヲ享有スヘク宜シク速ニ批准サルヘクモナリ然レト
 モ之ニハ外國飛行機ノ支那ニ航來セシ場合ヲ考慮シ特定ノ
 航路及經過地点ヲ豫メ決定シ置カサルヘカラス
 航空路及發着場配置ニ就テハ一昨年伊太利飛行家ノ航來
 アリ昨年又日本飛行機ノ飛來アリ本署ハ其航空路ヲ參
 考トシテ國際飛行路ヲ豫定セルカ之ニ依レハ南ハ廣州北ハ
 安東中部沿海地方ハ福州上海青島天津北戴河ノ
 各地ヲ連接スルモノナリ

其十、日本海軍飛行機ノ北京訪問

日本海軍飛行機ハ北京訪問ヲナスヘク十四年五月二十五日横須賀出發大村ヲ經テ二十六日夕平壤ニ到着二十七日安東縣ヨリ支那國境内ニ入り遼東半島ヲ横断シ北京ヘ向テ途次豪雨ニ遇ク錦州ニ着陸シ天候ノ恢復ヲ待チ二十九日出發京奉線ニ沿ヒテ飛行シ同日北京南苑ニ到着支那官憲ノ熱誠ナル歡迎ヲ受ク六月一日南苑ヲ發シ前經路ヲ日本ニ帰還セリ

其十一 露國飛行機ノ北京訪問

支那成シ得レハ日本ヲモ訪問スヘク十四年六月十日
歐露ヲ出發セシ露國飛行機六機ハ先ツ外蒙庫
倫ニ入り七月十三日北京南苑飛行場ニ到着セリ

1. 支那境内航空路

庫倫一烏得一張家口一北京南苑

2. 北京到着飛行機 四機

(J.L.JYRELLE)式 金屬製單葉 四人乘(駆逐機ニ屬シ)二機
(DHDEHALLAND)式複葉 二人乘(普通商用機)一機

3. 支那境内飛行ノ状況

七月九日午前庫倫發 砂漠上ヲ飛行シ暴風雨ニ會シ一
機ハ機体ニ故障ヲ生シ烏得一去ルニ百米ノ地点ニ不時着
陸シ他ハ烏得一到着翌日午前八時五機ハ烏得一發シ二
機ハ張北縣東門外ノ張家口北方百二十支里ニ他ノ三機ハ同縣
廟灘(張家口北方九十支里)ニ着陸シ而北督辦署察哈爾

都統署ノ歡迎ヲ受ク十三日共ニ出奔北京ニ飛来ス但シ
一機ハ離陸ニ際シ發動機ニ故障ヲ生シ飛行不能ナレリ

第九. 航空制度

其一. 航空學校條例 (五年十月十二日)

第一章 總綱

第一條 航空學校ハ陸海軍航空人材ヲ養成シ並航空機製

造學術ヲ研究スル所トス

第二條 航空學校ハ參謀本部ニ隸屬ス

第三條 航空學校ニ駕駛學員班ヲ常設ス其教育綱領ハ附表第

一ニ準シテ施行シ並工廠ヲ附設シ廠内ニ技工ヲ設ケ工作事宜

ニ任ス

第四條 航空學校ニ左記各員ヲ設ケ

校長 教育長 副官 兵學教官 專門教習

普通教習 修輯員 學長 廠長 廠副 技士

技工班長 軍需 軍醫 書記及其他雇員

各職員ノ階級及員數ハ附表第三ニ詳ナリ

各職員ノ俸給ハ附表第三ニ詳ナリ

第五條 學員ノ在校修學期限ヲ一年卒業ト定メ尋常高等

二期ニ分テ教授ス但シ其他ノ關係ニヨリ時期ヲ延長或ハ短

縮スルモ可ナリ

四四

第六條 航空學校ノ辦事細則及一切ノ行フハ十事宜ハ均シク校長條例ニ按照シテ詳細擬定シ總長ニ呈請シテ核准ノ上施行ス

第七條 本條例ハ參謀本部ヲ經テ文總統ニ呈請シ核准ノ後校長切實ニ遵行シ若シ修正ヲ行フハ十處アレハ每一學期後ニ校長ヨリ理由ヲ聲叙シ總長ニ呈請シテ校辨ス

第二章 職員

第八條 校長ハ參謀本部ニ直隸シ全校事務ヲ管理ス

第九條 教育長ハ校長ノ命ヲ承ケ全校ノ教育事務ヲ管理シ一切ノ功課ヲ整訂シ並學術進歩ノ責ニ任ス

第十條 校副官ハ校長ノ命ヲ受ケ機要ニ經費ヲ管理シ校内一切ノ庶務ヲ管理ス

第十一條 各教習ハ教育長ノ命ヲ受ケ教育綱領ニ按照シ課程ヲ編纂シ學術ヲ教授シ校規ヲ維持シ並成績ヲ考驗ニ隨時登記シテ教育長ニ彙呈シ校長ノ聘呈ニ以テ登任ス

第十二條 學長ハ教育長ノ命ヲ承ケ學員ノ軍紀風紀ヲ管理シ學員ノ品行學術ヲ查考シ並校副官ヲ輔同シ教育ニ關スル一切ノ庶務ヲ管理ス

第十三條 修輯員ハ教育長ノ命ヲ承ケ專ラ各種課程ノ校正ヲ

司リ管理ノ責ニ任ス

第十四條 廠長ハ校長ノ命ヲ承ケ教育長ニ商承シ工廠ノ工

作ヲ管理シ並技工ノ成績及廠内経費ヲ考査スルノ責ニ任ス

第十五條 廠副ハ廠長ノ命ヲ承ケ技工ヲ教授シ及一切事宜ヲ實

施ス

第十六條 技工班長ハ廠長廠副ノ命ヲ承ケ技工ノ工作ヲ督率

シ廠規ヲ維持シ並技工ノ勤惰ヲ考査シ長官ニ呈報該辦

スルノ責アリ

第十七條 軍需ハ校長ノ命ヲ承ケ副官ニ商承シ專ラ款項

ノ出納款目ノ清點及承造報銷事宜ヲ司ル

第十八條 軍醫ハ校長ノ命ヲ承ケ專ラ治療及衛生事宜ヲ

司ル

第十九條 書記ハ校長ノ命ヲ承ケ文牘書類ヲ管理シ並録

事ヲ督飭シテ淨書スルノ責アリ

第二十條 稽査ハ校長ノ命ヲ承ケ副官ヲ補助シ全校内務ヲ稽査ス

第三章 學丁員技工ノ額數及資格

第二十一條 航空學校學員定額ヲ五十名工廠ノ鐵木技工

四五

定額ヲ八十名トス但シ航空ノ情况ニヨリ之ヲ増減スルコト

ヲ得

第二十二條 航空學校學員ハ陸海軍各隊員及各軍隊艦隊ヨ

リ曾テ陸海軍學校ヲ卒業シ年齡二十歳以上三十歳以下

ニ在リ兵學新學具ニ根基アリ志向堅定體略俊異視力精

明肺量宏大ニシテ試験ニ合格シタル者ヲ選抜シテ之ニ充ツ

第二十三條 鐵木技工ハ陸海軍各兵工廠或ハ他種工廠内ヨリ

粗文字ニ通シ略科學ヲ解シ能ク他種機噐ヲ製造シ及機噐上

ノ本質品ヲ配置スルモノヲ選抜シテ之ニ充ツ

第四章 校規

第二十四條 航空學校人員ハ均シク本規則及各種臨時校令ヲ

遵守シ違フコトアルヲ得ズ

第二十五條 航空學校人員ハ均シク校長ヨリ隨時考査ニ滿一

学期毎ニ勤務情ヲ參謀本部ニ呈報スルニ任セ勝ルルコト

能ハス及職務ヲ擴張スル莫ハ參謀本部ニ呈請シ覆テ

辨理スルニ

第二十六條 校長 教育長ヲ除キ其餘ノ職員ハ均シク輪番ヨ直シ

校内ニ住宿シ一切事務ヲ辨理スヘシ權ニ職守ヲ離ルルコトヲ

得不例暇ノ時ハ難亦此ニ照シテ辨理ス

第二十七條 航空學員ハ均シク輪番日直ニ校定日直規則ヲ

恪守シ一切事務ヲ辨理スヘシ

第二十八條 航空學校各職員ハ例暇ヲ除ク外故ナリ請暇スル

コトヲ得ス病或ハ事ニ因リ請暇スルトキハ一週間以内ニ在
リテハ校長ニ校定ヲ請ヘハ可ナルモ一週間以上ニ在リテハ參

謀本部ノ核定ヲ請フヘシ

第二十九條 航空學校學員技工ハ例暇ヲ除ク外故ナリ請

暇スルコトヲ得ス確ニ特別事故ニ因リテ請暇スルトキハ
詳情ヲ校長ニ具呈シ校長ハ校定シテ暇期ヲ酌給シ月

ヲ按シテ參謀本部ニ彙呈スヘシ

第三十條 凡ソ一月期滿後ハ校長ヨリ前月ノ各職員學員技工

等ノ請暇表ヲ參謀本部ニ呈送スヘシ

第三十一條 學員左記各項ノ一ニ違犯シタル者ハ直ニ退スヘシ

一、學術久缺シ卒業ノ望トキ者

二、軍紀ヲ紊亂シ屢ニ戒ムルモ悛メサル者

三、品行端トラス本分ヲ失フ者

四、久シク病ミテ課ヲ曠クシ勞苦ニ耐ヘサル者

五、試驗ニ落第シタル者

以上各項ハ臨時校長ヨリ教育長教習廠長学長班長等ヲ招集シテ會議決定ス但シ一四五各項ニ因リ点退スル者ハ學費ノ返納ヲ免シ原領書籍軍服等ノミヲ納メシム
 二、三兩項ニ因リ点退スル者ハ原領書籍軍服等ヲ返納スルヲ除ク外在校學費及所領手当ヲ追約セシム
 第三十三條 常暇ハ日曜日ヲ除ク外放假期日左ノ如シ

- 一、國慶日 二日
- 二、春夏秋冬節日 各一日
- 三、年暇 七日（元旦前後各三日）
- 四、天氣炎熱或ハ隆冬ノ際学科ヲ教授シ或ハ飛行ヲ練習スル能ハサル時ハ酌量シテ内堂或ハ飛行ヲ停止ス但シ停課ハ一週間以上ナルトキハ參謀本部ニ呈シ覆核辨理スハシ

第五章 待遇

第三十三條 學員入校後ハ有ニテ原職ノ俸給ハ仍常ニ照シテ支給シ其原職ハ直屬長官ヨリ員ヲ派シテ代理或ハ署理セシム

第三十四條 學員入校後不職推升ノ時ニ遇ヘハ仍常ニ照シテ推升ス但シ暫ク就職セシメス

第三十五條 學員及技工等ノ校内ニ於テ用フヘキ書籍文具及

機噐材料等シテ校内ノ備給ニ帰ス

第三十六條 學員及技工等校内ニ於ケル伙食軍裝ハ均シク校内ノ備給ニ帰ス

第三十七條 凡ソ甄別ヲ經テ校ニ留マル學員ハ均シク校ヨリ手當ヲ配給ス

第三十八條 技工ハ概テ三等九級ニ分テ月按シテ給料ヲ照給ス附表第五ニ詳ナリ

第三十九條 凡ソ學員職務内ニ於テ飛行危險ニシテ身故ヲ致シ或ハ重傷ヲ受ケタルトキハ卒業學員待遇條例ニ載スル所ノ撫恤法ニ照シテ辨理ス

第四十條 學員卒業及技工待遇辨法ハ別ニ規定ス

第六章 課程

第四十一條 航空學校學員ハ能ク飛行機ヲ駕駛シ並能ク飛行機上ニ在リテ兵器ヲ使用スルヲ主トシ鐵木技工ハ能ク工作ヲ完具行スルヲ以テ主トス

第四十二條 航空學校學員ノ招取ハ入学期約一箇月前ニ於テ學術兩科課程豫定表ヲ編訂シ參謀本部ニ呈シ校定ノ上施行ス

第四十三條 一学期満ツル毎ニ校長ヨリ全学期教育實施統計

第四十三條 一学期満ツル毎ニ校長ヨリ全学期教育實施統計

表ヲ及毎週間内ニ前週間日課實施統計表ヲ夫々參

謀本部ニ呈送備查スヘシ

第四十四條 凡ソ飛行ニ関スル教練ハ毎日之ヲ行ノ若シ天氣

或ハ機器ノ關係ニ因リ實施シ難キトキハ教育長ヨリ改メテ学科教授或ハ工廠實習ニ改ムルレ可ナリ

第七章 試験

第四十五條 學員ノ試験ハ入学試験甄別試験尋常卒業

試験 高等卒業業試験ノ四種ニ分ツ

第四十六條 學員募集期ニ達スレハ豫メ參謀本部ヨリ定額ニ

按照シテ(第三章第二十二條ニ詳ナリ)陸海軍部ニ通牒シ各

軍事機関ニ通知シテ合格軍官ヲ調集シ該員ノ志願者

軍醫ノ診断書ヲ取具シテ部ニ送シ試験ニ合格シタル者ハ其

入校修業ヲ准ス

第四十七條 凡ソ取録ヲ終タル修業學員入校満二箇月後甄別

試験ヲ奉行シ校長ヨリ期ヲ定メ教育長教習ヲ督同シテ

試験シ以テ法留ヲ定ム

第四十八條 學員入校満六箇月後校長ヨリ尋常卒業試験期日

ヲ酌定シ並ニ下記試験規定ヲ按シ試験規則ヲ詳擬シ參

謀本部ニ豫メ呈請シ會同シテ學術兩科ヲ試験ス

學術試験ハ教授課目ト航空トノ關係ノ重輕ヲ按シ点

數ノ倍数ヲ規定スルコトヲ得

術科試験ハ飛行ニ重キヲ置キ其試験ハ場面統行ノ字飛行直線飛行ノ三種ニ規定ス

試験畢レハ校長ハ教育長及各教習等ヲ督同シテ學術兩科ノ成績点数ヲ評定シ品行点数ヲ參ヘテ成績表ヲ調製シ甲乙名次ニ區別シテ參謀本部ニ呈送シ校閱後大總統ニ轉呈シテ期ヲ定ム員ヲ派シ校ニ蒞ミテ監視シ尋常卒業證書ヲ頒發ス

第四十九條 凡ソ尋常卒業學員校ニ留マリ高等ヲ繼續練習シタル者ハ滿六箇月後高等卒業試験ヲ奉行ス飛行試験辦法ヲ除外餘ハ均シク尋常卒業試験手續ヲ按シテ辦理ス

飛行試験ニ關スル規定ハ高度飛行直線飛行三角形ノ長途飛行空中偵察及兵器使用ノ各種トス

第八章 經費

第五十條 學校ノ經費ハ經常臨時ノ兩門ニ分ツ凡ソ俸給予

當給料馬糧被服材料燃料油及一切消耗雜費等ハ均

シテ經常支出ニ第四表ニ詳ナリ凡ソ校廠修建器械購

備飛行機製造圖書購買費等ハ均シク臨時支出トシ所

要數目ノ毎年豫算ニ規定スハシ

第五十一條 前條經常臨時支出ハ校長ヨリ毎月章ヲ按シテ

參謀本部ニ發給シテ呈請ス

第五十二條 各種經費ハ毎年冬季以前ニ次年度用費數目豫

算ヲ總長ニ呈請シ核准ノ上辦理スヘシ

第五十三條 各種用費ハ學校ヨリ月ヲ按シテ支出計算書ヲ造

送シ年末毎ニ全年收支各種總冊ヲ造送スヘシ

第五十四條 員司ノ俸給ハ一、二、三等ニ分テ兩年ヲ崗スル毎ニ校

長ヨリ其成績ノ優異ナル者ヲ校ニ參謀本部ニ呈請シテ

一等ノ松升シ以テ第一等ニ至リテ止ム

第五十五條 各軍事機關ヨリ調充スル教職各員ハ仍原俸ヲ

領スルヲ除ク外別ニ學校ヨリ手當ヲ酌加ス

第五十六條 校長以下各員司ノ俸給手當ノ支給ハ月末ヲ以テ期

トシ軍需ヨリ定數ニ按照シテ簿冊ニ記シ司事ヲ派シ

テ分途送交シ記名捺印ヲ以テ據ト為ス弁シ畢レハ軍

需ニ返送シ副官ニ轉送シテ察閱ス

第五十七條 學員及技士ノ俸給給料ハ軍需ヨリ實數ニ查照シ

テ學長ニ交シ班長ハ名ヲ按シテ分弁ス均シク記名捺印ヲ

以テ據ト為ス唯差弁及夫役等ハ軍需ヨリ實數ニ查照シ

テ校副官ニ交シ點名弁故ス

第五十八條 凡ソ工廠ニ用フヘキ材料費用ハ先ツ校長廠長ヲ
 督同シテ詳細核定シタル後經手人ヨリ先ツ廠長ニ送りテ
 校對ニ校長ニ轉呈シテ察核ノ上辦理スヘシ
 第五十九條 本條例ハ批准ソ奉シタル日ヨリ施行ス

附表第一

航空學校駕駛學員班教育科目表

學	科	術	科
航空學	飛行實踐學		
航空學理	飛行機ノ保存ト修理法		
機器學理	發動機ノ安却保存及修理法		
氣象學	空中兵器使用法(機内銃、拳銃、空)		
無線電學	炸彈拋擲法		
尋常電學	無線電使用法		
航空戰術	航空地圖用法		
航空ノ歴史及其進步	羅針盤使用及方向認定法		
航站ノ組織法	砲兵射擊監視		
飛行機隊ノ組織法	軍隊演習監視		
戰術學	艦隊演習監視		
基本戰術	偵察法		
圖上戰術	報告法		
兵棋	空中寫真法		
兵要地理			
炸毀工事學			
兵器學			
地形學			
圖畫學			
軍制學			
海軍軍事學			
外國語學			

附

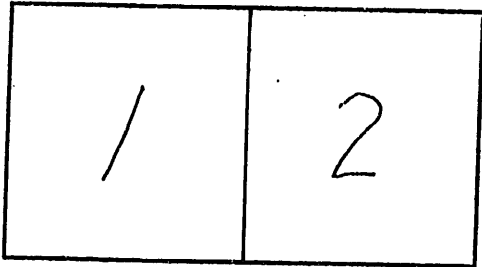

附表第二

航空學校人員系統表

附記	校長			少將或 上校
	教育長			上校或 中校
	庶務處	醫務處	本處	區別
	廠長 副廠長 (一) (二)	正修輯 學長 (二) (三)	兵學教官 專門教習 (二) (四)	副官 (一)
	技士 (二)	副修輯 (一)	一等軍醫 一等書記 (一) (一)	少校上尉及 同級文佐官
	廠司事 技工班長 (一) (一)	寫真員 一等錄事 (一) (一)	二等軍醫 二等書記 (一) (一)	中少尉及 同級文佐官
	二等錄事 技目 (一) (一)	繪圖員 繪圖生 (一) (一)	校司事 航站司事 (二) (四)	少尉及 同級文佐官
	司庫 (一)	印刷員 印刷夫 (一) (三)	二等錄事 司藥士 (一) (一)	准尉上官
		廠丁 護兵 (六) (四)	中下士	
		看護員 航站 夫役 (二) (一) (四)	上等兵 二等兵 及雜役	

五二

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7 年 8 月 8 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

附表第三

航空學校編制薪餉豫定表

職守	年別	員數	每月薪金	共計月薪	每月薪金	共計年薪金
校長	一年一〇〇	一	二六〇	二六〇	三一二〇	三一二〇
副官	一年一〇〇	一	一三〇	一三〇	一五六〇	一五六〇
教育長	一年一〇〇	一	一三〇	一三〇	一五六〇	一五六〇
廠長	三年一三〇	一	一五〇	一五〇	一八〇〇	一八〇〇
專門教習	五年一五〇	一	一八〇	一八〇	二一六〇	二一六〇
兵學教習	一百乃至二百	四	一八〇	七二〇	二一六〇	八六四〇
普通教習	一百乃至二百	二	一二五	二五〇	一五〇〇	三〇〇〇
學長	三年一〇〇	二	一八〇	三六〇	九六〇	一九二〇
西醫	三年一〇〇	二	一八〇	三六〇	九六〇	一九二〇
一等軍醫	一年六〇	一	七〇	七〇	八四〇	八四〇
正診科	三年七〇	一	七〇	七〇	八四〇	八四〇
廠副	一年五〇	一	六〇	六〇	七二〇	七二〇
一等書記	三年六〇	一	五〇	五〇	六〇〇	六〇〇
查	五年七〇	一	五〇	五〇	六〇〇	六〇〇
技工班長	一年三〇	一	三〇	三〇	三八〇	三八〇
外國技士	一年三〇	一	三〇	三〇	三八〇	三八〇
二等軍醫	一年三〇	一	三〇	三〇	三八〇	三八〇
二等書記	三年四〇	一	四〇	四〇	四八〇	四八〇
副修輯	五年四〇	一	四〇	四〇	四八〇	四八〇
司事	一年三〇	三	一〇〇	三〇〇	三六〇	一〇八〇
航站司事	三年三〇	四	一〇〇	四〇〇	四八〇	一四四〇
繪圖員	五年四〇	一	三〇	三〇	四二〇	四二〇
繪圖生	一年一八〇	七	一四〇	九八〇	一六八〇	一六八〇
醫院管理	三年二〇	一	二〇	二〇	二四〇	二四〇
寫真員	三年二〇	一	二〇	二〇	二四〇	二四〇
學員	一年一〇〇	五	五〇	二五〇	六〇〇	六〇〇
技工	一年一〇〇	八	一〇〇	八〇〇	九六〇	九六〇
井目	一年一〇〇	一	一〇〇	一〇〇	一四四〇	一四四〇
司藥	一年一〇〇	一	一〇〇	一〇〇	一四四〇	一四四〇
印刷目	一年一〇〇	一	一〇〇	一〇〇	一四四〇	一四四〇
印刷夫	一年一〇〇	三	一〇〇	三〇〇	四三二〇	四三二〇
差弁	一年一〇〇	四	一〇〇	四〇〇	四八〇	四八〇
看護兵	一年一〇〇	二	一〇〇	二〇〇	二一六〇	二一六〇
號兵	一年一〇〇	二	一〇〇	二〇〇	二一六〇	二一六〇
護兵	一年一〇〇	六	一〇〇	六〇〇	七二〇	七二〇
雜役	一年一〇〇	三	一〇〇	三〇〇	三六〇	三六〇
航站廠丁	一年一〇〇	六	一〇〇	六〇〇	七二〇	七二〇
航站夫役	一年一〇〇	四	一〇〇	四〇〇	四八〇	四八〇

記	附	總計	航站夫役	航站廠丁	雜役	護兵	號兵	看護兵	司庫	差弁	印刷夫	印刷目	司藥	弁目	技工	學員	繪圖生	寫真員	醫院管理	録事	繪圖員	航站司事	司事	副修輯	二等書記	二等軍醫	二等軍醫	外國技士	技工班長	警查	一等書記	廠副	正修輯	一等軍醫	西醫	學長	普通教習	兵學教習	專門教習	
一、凡ノ服務二年未滿ノ者ハ初給俸給ニ照シテ計算ス	二、凡ノ服務滿二年ノ者ハ均シク二級俸給ニ照シテ計算ス	二、三、九	四	六	三、二	六	二	二	二	四	三	一	一	一	八、〇	五、〇	一	一	一	七	一	四	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二	二	四
一、技工ノ俸給給料ハ平均計算ニ依リ其等級辦法ハ附表第五ニ詳ナリ		二、八、二、六	六	七	六	七	八	八	九	九	一、二	一、六	一、二	一、二	二、四	一、〇	一、八	二、〇	二、〇	二、〇	三、五	三、〇	三、五	四、〇	四、〇	四、〇	三、六	三、五	五、〇	五、〇	六、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	二、〇	一、八	一、二、五	一、八	一、八
		七、〇、六、二	二、四	四、二	一、九、二	四、二	一、六	一、六	一、八	三、六	三、六	一、六	一、二	一、二	一、九、二	五、〇	一、八	二、〇	二、〇	一、四	三、五	二、二	一、〇、五	四、〇	四、〇	四、〇	三、二	七、〇	五、〇	五、〇	六、〇	七、〇	七、〇	七、〇	二、〇	一、六	二、五	二、五	七、二	
		三、三、一、九、六	七、二	八、四	七、二	八、四	九、六	九、六	一、〇、八	一、〇、八	一、四、四	一、九、二	一、四、四	一、四、四	二、八、八	一、二	一、六	一、四	一、四	一、四	四、二	三、六	四、二	四、八	四、八	四、八	三、八、四	四、二	六、〇	六、〇	七、二	八、四	八、四	八、四	二、四	九、六	一、五	一、五	二、一、六	
		八、五、〇、九、六	二、八、八	五、〇、四	二、三、〇、四	五、〇、四	一、九、二	一、九、二	二、一、六	四、三、二	四、三、二	一、九、二	一、四、四	一、四、四	二、三、〇、四	六、〇	二、〇	二、〇	一、六、八	一、四	四、二	一、四、四	一、二、六	四、八	四、八	四、八	三、八、四	八、四	六、〇	七、二	八、四	八、四	八、四	二、四	一、九、二	三、〇	三、〇	八、六		

五二

附表第四

航空学校經常費豫定表

種類	經費		備考
	每月經費	全年經費	
飛行演習費	二〇〇	二、四〇〇	
馬乾	六四	七六八	
醫藥	一二〇	一、四四〇	
郵電	二〇	二四〇	
學員技工服裝		五、二〇〇	共百三十人每人四十元
弁兵夫役服裝		一、二八〇	共六十四人每人二十元
工廠材料	二〇〇	二、四〇〇	
文具紙張	一二〇	一、四四〇	
印刷材料	八〇	九六〇	
學員技工伙食	七八〇	九、三六〇	駕駛學員五十人技工八十六人 共計百三十八人伙食每月每人六元
茶水	三五	四二〇	
薪炭	一五〇	一、八〇〇	
油燭	五〇	六〇〇	
機油	一〇〇	一、二〇〇	
工程	一〇〇	一、二〇〇	
學校雜費	一〇〇	一、二〇〇	
写真材料	三〇	三六〇	
航站辦公費	六〇	七二〇	四處
旅費	一〇〇	一、二〇〇	
總計		六六、五八八	

附表第五

航空學校技工薪餉等級一覽表

等	級	月支薪餉數
一等	一級	三二
一等	二級	三〇
一等	三級	二八
二等	一級	二四
二等	二級	二二
二等	三級	二〇
三等	一級	一六
三等	二級	一四
三等	三級	一二

附行ノ凡ノ技工ノ進等進級ハ校定細則ニ查照シ校令ヲ以テ之

其二、航空工廠條例 (十二年一月二十二日公布)

第一條 航空工廠ハ航空署ニ直隸シ一切ノ航空器械材料ノ修

造保管ヲ掌管シ並航空専門技術ノ人材ヲ養成ス

第二條 航空工廠ニ左記各股ヲ置ク

一、總務股 文牘庶務會計醫務及他股ニ屬セラルル事項ヲ

掌ル

二、工務股 航空機械ノ材料ノ修理裝配及製造鉄木工作

各廠處ノ事項ヲ掌ル

三、保管股 航空機械材料ノ存貯保管收發事項ヲ掌ル

第三條 航空工廠ハ左ノ職員ヲ置ク

廠長 一人

主任 三人

技術員 四人

工務員 八人

辦事員 十二人

醫官 一人

第四條 廠長ハ署長ノ命ヲ承ケテ全廠ノ事務ヲ掌理ス

第五條 主任ハ廠長ノ命ヲ承ケテ各股事務ヲ分掌ス

五條

第六條 技術員工務員ハ長官ノ命ヲ承ケテ技術上ノ事務ヲ掌理ス

第七條 辦事員ハ長官ノ命ヲ承ケテ文牘庶務會計稽查

及材料ノ收發等ノ事務ヲ分掌ス

第八條 醫官ハ長官ノ命ヲ承ケテ一切ノ醫業及衛生事務ヲ掌理ス

第九條 航空工廠ハ事務上ノ助理ノ為ニ書記司事ヲ助授

スルコトヲ得

其員數ハ事務ノ繁劇ヲ視テ隨時呈請核定

ス但シ多クトモ二十八人ヲ逾ムルコトヲ得ス

第十條 航空工廠ノ技工數ハ廠務ノ情況ヲ視テ隨時呈請核定ス

第十一條 航空工廠ハ運搬及工作助理ノ為ニ在工ヲ採用スルコトヲ得

第十二條 航空工廠ノ各種規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 本條例ハ呈准ノ日より施行ス

第十四條

航空工廠ノ各種規則ハ別ニ之ヲ定ム

本條例ハ呈准ノ日より施行ス

其三、航空署飛行人員ニ飛行免許狀

及勝任證書授與暫行規則、

第一條 凡ソ飛行人員ニ駕駛執照（飛行免許狀）及勝任

證書ヲ授与スルニ均シク本規則ニ依リテ行フ

第二條 凡ソ能ク單獨ニ某種飛行機ヲ操縦シ並左記各種

ノ試験ヲ經テ合格セルモノニハ某種飛行機操縦執照ヲ給

予スルコトヲ得但シ未夕航空卒業證書ヲ得サル者ハ此例ニアラス

一、飛行スルコト十回以上ニ至リ起落均シク安穩ナルモノ

二、飛行時間合計五時間以上ニアルモノ

飛行免許狀ハ附圖甲ノ如シ（附圖ハ原文ニ附シテアラス）

第三條 凡ソ能ク單獨ニ某種飛行機ヲ操縦シ飛行免許狀ヲ

得タル後復左記各種ノ試験ヲ經テ及第セル者ニハ某種

飛行機勝任證書ヲ給予スルコトヲ得

一、遠航飛行ノ距離三百公里以外（或ハ京津、保各距離

間ノ往復飛行）ニ於テ飛行スルコト十五回以上ニ在リテ、兩

處ノ起落均シク安穩ナルモノ

二、航空保安規則ノ規定ニ照ラシテ試験ニ及第セル者

勝任證書附圖乙ノ如シ(同上)

第四條 勝任證書ハ授与、日ヨリ起リ一年期內ニ在リテ之ヲ適用シ期過ノル翌日航空署ニ呈送シテ註消シ續試ノ

及第ヲ俟テ更ニ續授与ヲ為ス

勝任證書ノ有効期滿ツルモ該管長官ノ考核ヲ經成績優

良ニシテ確ニ能ノ繼續シテ任ニ勝ユル者ト認ムレハ試験ヲ

免シ航空署ニ申請シテ續イテ勝任證書ヲ授与スルコト

ヲ得

第五條 凡ソ勝任證書ヲ領有スル人莫ハ永遠ニ領スル所ノ證

書ヲ携帶シ以テ隨時ノ検査ニ備フ、ハシ並航空ニ関スル所

ノ一切ノ法令ヲ遵守スハシ

第六條 勝任證書ハ唯運輸航空線ニ適用スルモ別種航空

機、別項職務或ハ同種航空機ノ別項職務ニ適用ス

第七條 飛行操縦免許狀及勝任證書ハ均シク他人ニ轉借シ

或ハ添註塗改スルコトヲ得ス

第八條 飛行操縦免許狀及勝任證書遺失ノ場合ニハ證書

ヲ領スル人ヨリ航空署ニ取調ヘ授與スルコトヲ申請シ並遺

失ノ緣由ヲ報シ廢ト為スコトヲ聲明スハシ

第九條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

其四 京漢航空線管理局籌備處暫

行簡章

十一年十二月三十日公布セラレタル京漢航空線管理局籌備

處暫行簡章左ノ如シ

第一條 京漢航空線管理局籌備處ハ航空署ニ直隸シ

專ラ京漢航空線ノ一切事宜ヲ掌ル

第二條 京漢航空線管理局籌備處ニ左記各股ヲ設ケ京漢

航空線管理局編制專章第四條乃至第六條ニ列スル事項ヲ分

掌ス

總務股 航務股 工務股

第三條 京漢航空線管理局籌備處ニ左ノ職員ヲ置ク

處長一人 主任三人 辦事員十人

第四條 處長ハ航空署長ノ命ヲ承ケテ本處ノ一切事務ヲ管理シ

所屬職員ヲ監督ス

第五條 主任ハ處長ノ命ヲ承ケテ本股事務ヲ掌理ス

第六條 辦事員ハ長官ノ命ヲ承ケテ各項事務ヲ分管ス

第七條 京漢航空線管理局籌備處ハ各項進行事項ヲ討論スル

為評議會ヲ設立スルコトヲ得其規則ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 京漢航空線管理局籌備處ハ各航空站事宜ヲ執行
 スル為署員ヲ請派シテ辦理スルコトヲ得
 第九條 京漢航空線管理局籌備處ハ事務上、助理、為催
 員ヲ酌用スルコトヲ得其數多クトモ十二人ヲ逾ユルコトヲ得ス
 第十條 京漢航空線管理局籌備處辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム
 第十一條 本簡章ハ公布ノ日ヨリ施行ス

其五、國有航空線管理局編制通則

(十年五月十九日公布)

第一條 國有航空線ニ管理局ヲ置キ航空署ニ直隸ス

各局ノ名称及其線路ハ各該局ニ於テ專章ヲ編制シテ之ヲ定ム

第二條 管理局ハ全線ノ運輸、修築、營業、會計及所屬航空驛備用ノ飛行場ヲ掌理ス

航空ノ延長或ハ枝線ノ増設ハ該管理局之ヲ兼理ス

第三條 管理局ニ左記各課ヲ置キ第二條ノ事項ヲ分掌ス

總務課 航務課 工務課 會計課

前項各課ハ各該局ノ情況ニ依リ酌量シテ併設シ或ハ該局

其他ノ職員ヲ以テ之ヲ兼理セシムルコトヲ得

第四條 管理局ニ左記職員ヲ置キ其員額ハ各該局ニ於テ專

章ヲ編成シテ之ヲ定ム

局長 課長 課員 醫務員 其他雇員

第五條 管理局所轄ノ航空駅ハ備用ノ飛行場ヲ除ク外設備

ノ繁簡ニ依リ三等ニ分チ左記職員ヲ置クコトヲ得其員

額ハ附表ヲ以テ之ヲ定ム

駅長 副駅長 飛行員 技士 電務員 測候員

其他雇員

第六條 局長ハ航空署ヨリ派充シ長官ノ命ヲ承ケテ全線ノ事務及各航空駅備用ノ飛行場ヲ管理シ並所屬各職員ヲ指揮監督セシム

第七條 課長、駅長、副駅長、飛行員ハ航空署ヨリ派充シ上官ノ命ヲ承ケテ事務ヲ分掌セシム

第八條 課員、技士、醫務員、電務員、測候員等ハ局長ヨリ呈請委派シテ事務ヲ分任セシム

第九條 各種雇員ハ局長ヨリ委派シテ事務ヲ分掌セシム但シ航空署ニ呈請シテ核准スルヲ要ス

第十條 管理局所轄各航空駅ノ飛行機及航空具ノ數ハ航空署ヨリ訂定シ該局長ニ責成シテ管理セシム

第十一條 各職員ノ俸給等級章程ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 本通則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

附表

航空驛等級員額表

職務等級	航空驛等級員額表									
	一等	二等	三等	一等	二等	三等	一等	二等	三等	一等
驛長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
副驛長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
技士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
電務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
測候員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
技工長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
技工	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
司事	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
司書	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
司庫	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
夫役	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
飛行場ニ技工ニ名夫役三名ヲ設ク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

五九

其六、京滬航空線管理局編制章程

(十年五月十九日公布)

第一條 京滬航空線管理局ハ航空署ニ直隸シ北京ヨリ上海

ニ空中航路及其支線ヲ管轄ス

第二條 京滬航空線管理局ハ國有航空線管理局通則第二

條ニ記スル事項ヲ掌理シ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人

課長 一人

課員 多クトモ十人ヲ超ユルコトヲ得ス

醫務員 多クトモ四人ヲ超ユルコトヲ得ス

雇員 多クトモ十二人ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 京滬航空線管理局ハ國有航空線管理局編制通則

第三條ニ依リ左記各課ヲ設ク

總務課 航務課 工務課

第四條 總務課ハ左ノ事務ヲ掌管ス

一、文牘ノ撰擬 関防典守事項

二、員司ノ進退考績事項

三、取場警衛及醫務事項

四、豫算法算及統計調製事項

五、款項調拵收支及帳簿事項

六、客貨票、替換事項

七、印刷及其他各課ニ屬セサル事項

第五條 航務課ハ左ノ事務ヲ掌管ス

一、營業運輸及客貨招徠事項

二、電報電話測候事項

三、航空機調度事項

四、客貨票、証書核計事項

五、各駅ノ業務監督事項

第六條 工務課ハ左ノ事務ヲ掌管ス

一、航空機ノ裝配・審檢・修理・補充事項

二、材料ノ收弁保管事項

三、附屬機関ノ工務監督事項

工務課ハ航空機及機件ノ修理配裝事務ノ為ニ濟南、南

京、上海ニ修機所ヲ設クルコトヲ得

第七條 京滬航空線管理局所轄ノ航空各駅ハ本駅一切ノ事項

ヲ掌ル備用飛行場ヲ除ク外等ヲ列スルコトハ左ノ如シ

北京 一等

濟南 二等

天津 二等

徐州 三等

六

南京 一等
 上海 一等
 第八條 京滬航空線管理局辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム
 第九條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

其七 航站警察教練隊ノ暫行編制

(十年五月十日公布)

第一條 航站警察教練隊ニ航空管理講習所ヲ附設シ定額

ヲ百六十名トシ必要ナル學術ヲ授ク卒業後ハ本省南苑

清河及京滬線各駅ニ分弁服務セシム

第二條 航站警察教練隊ニ左ノ員額ヲ置ク

總隊長 一人 教官 若干人

隊長 四人 副隊長 四人

司事 二人 書記 三人

第三條 總隊長ハ所長ノ命ヲ承ケ本隊一切ノ事務ヲ管理ス

第四條 教官ハ課程教授ヲ專司ス

第五條 隊長ハ長官ノ命ヲ承ケテ教練ヲ專司シ並隊務ヲ整

理シ副隊長之ヲ補助ス

第六條 司事書記ハ文件ノ收奔及一切ノ庶務ノ淨寫ヲ管理ス

第七條 航站警察教練ノ課程規則及管理規則ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 本編制ハ公布ノ日ヨリ施行ス

其八 航空管理講習所簡章

十年五月十日公布

第一條 本所ハ航空管理人ヲ備備スルヲ以テ宗旨ト為ス

第二條 本所ノ事務ハ總テ所長ニシテ總裁シ左ノ職員ヲ設ク

所長 一人 技務主任 一人

教官 若干人 事務員 二人

書記 三人

以上ノ各員ハ書記ヲ除ク外均シク署員兼充シ別ニ俸給セス

第三條 本所ハ三箇月ヲ以テ卒業期限ト為ス

第四條 本所ノ學員定額ヲ三十名トシ左記ノ人員ハ署長ノ特

許シ経テ均シク入所肄業スルコトヲ得

一、学校教練所業人員

二、本所職員

三、其他ノ志願人員

第五條 學員ノ卒業試験合格者ハ航空署ノリ卒業證書ヲ發給ス

第六條 卒業成績最優ナル者ハ本署及各管理局ニ酌派シ夫々

服務セシム

第七條 本所ニ傍聴席ヲ設ケ署員ノ職務重要ニシテ入所講習ス

ルコト能ハサル者ハ臨時入所聴講スルコトヲ得

第八條 本所ノ課程及辦事細則ハ別ニ之ヲ訂ス

0683

第九條 本簡章ハ公布ノ日ヨリ施行ス

六三

其九 航空警察編制章程 (二十一年八月二十一日公布)

第一章 總則

第一條 航空署ハ本署及各附屬機関ヲ警衛スル為航空警察ヲ設置スルコトヲ得

第二條 航空警察ハ航空署ニ直隸ス但シ各附屬機関ニ派遣セラレテ服務スル警察ハ各該機関長官之ヲ直接指揮管理スルコトヲ得

第三條 航空署及各附屬機関ニ設ケル一隊教及人員ハ事務繁簡ヲ視テ之ヲ分配ス

第二章 編制

第四條 航空警察ノ職員長警ノ名称左ノ如シ

一 勤務督察長

二 隊長

三 副隊長

四 班長

五 書記

六 警察

航空警察隊ノ編制ハ附表第一ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 勤務督察長、副隊長ハ航空署ヨリ派充シ書記ハ隊長ヨリ航空署ニ呈准シテ後之ヲ派充ス

第三章 職務権限

第六條 勤務督察長ハ航空署長ノ命ヲ承ケテ各隊ノ勤務ヲ督察ス

第七條 隊長ハ長官ノ命ヲ承ケテ本隊一切ノ事務ヲ管轄ス
第八條 副隊長ハ長官ノ命ヲ承ケテ本隊一切ノ事務ヲ代理ス

但シ分遣ノ場合ニハ隊長ノ職務ヲ執行スルコトヲ得

第九條 班長ハ長官ノ命ヲ承ケテ警察ヲ指揮或ハ命令シ警察上ノ一切事務ヲ實行ス

第十條 書記ハ長官ノ命ヲ承ケテ簿書事務ヲ辦理ス

第四章 俸給服制

第十一條 航空警察職員長警ノ俸給公費ハ附表第二ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 職員長警ノ服制ハ内務部頒行ノ警察服制ヲ准用ス

但シ航空服制ノ附章及臂章ヲ加級シ以テ區別ヲ示ス
服制ノ等級ハ附表第三ニ依リ之ヲ定ム

第五章 附則

第十三條 各附屬機関ノ警備察務ニ関スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

附表第一

航空警察隊編制表

職別	人員		隊及四班合計
	隊員	班員	
隊長	一		一
副隊長	一		一
班長		一	一
書記	一		一
一等警察		二	二
二等警察		三	三
三等警察		四	四
炊事夫	四		四
合計	七	一〇	一七

備考 前記長警等、人員ハ一隊ノ数トス

附表第二

航空警察俸給表

職別	俸給	公費
隊長	六〇	一〇
副隊長	四〇	
班長	一三	
書記	一六	
一等警察	一〇	
二等警察	九	
三等警察	八	
炊事夫	六	

備考
 一、勤務督察長ハ署員兼充ニ別ニ俸給ヲ給セス故ニ本表ニ記入セス
 二、副隊長單獨ニ分駐スル場合ハ毎員ニ公費十元ヲ加フ

附表第三

航空警察服制等級表

職別	服制等級
隊長	警察服制第六條第三款第一級制服
副隊長	警察服制第七條第一款第一級制服
班長	警察服制第七條第二款第二級制服
書記	警察服制第七條第二款第二級制服
一、二、三等警察	警察服制第八條第三款第三級制服

其十 航空署航站測候所簡章

(一十年十月五日公布)

第一條 航空署ハ氣象ノ狀況觀測及氣象ノ消息傳遞ニ爲各

航站ノ距離及氣候ノ關係ヲ酌量シテ測候所ヲ各航站ニ設ク

ルコトヲ得

第二條 測候所ヲ某航站ニ設クルトキハ某航站測候所ト名ス

第三條 測候所ハ航空署ニ隸屬シ並各航站站長ノ指揮ヲ受ク

第四條 每所ニ正副測候員一人ヲ置ク

第五條 測候員ハ航空署ニ試験ノ上採用セル氣象練習生ヲ中

央觀象台ニ於テ練習セシメ證書ヲ受領セル人員中ニ就キテ選

派ス

第六條 正測候員ハ觀測及報告事項ヲ掌理ス

第七條 所内一切ノ庶務及淨書事件ハ正測候員兼辦任ス

第八條 副測候員ハ所内一切ノ事務ヲ佐理ス

第九條 每所ニ左記ノ各機械ヲ置ク

氣壓表 最精時計表

最高溫度表 最低溫度表

湿度表 雨量計

風向計 風力表

測雲儀 測透明度版

T690

湿度氣壓日記表
但シ應用上ノ緩急ニ因リ酌量増減スルコトヲ得
第十條 本簡章ハ公布ノ日ヨリ施行ス

其十一、日本飛行機來支ニ関スル臨時辦法
(十四年五月)

- 一、今四日平飛行機、來支ハ駐支日本公使ヨリ期ニ先ケ正式ニ通告シ支那政府ノ特許ヲ經テ後飛行入境シ得ルモノトス
- 二、此種學術練習飛行機ハ既ニ日本公使ヨリ宣用トナサス又他用トナササルコトヲ聲明シタルモノトス但支那境内各地昇降地点ニ在リテハ支那政府派員ノ検査ヲ受クハシ
- 三、日本公使ハ左記事項(既ニ規定ノ各項ヲ除ク)ヲ調査ノ上送付スヘシ
 - 甲、飛行目的(既ニ學術練習飛行トセリ)
 - 乙、入境及出境(入境地点ハ既ニ安東ト定ム)
 - 丙、飛行線路(既ニ朝鮮ヨリ安東、錦州、山海關ヲ經テ北京南苑ニ至ルコトニ決セリ)
 - 丁、出發及到着並支那内地ニ在リテ停留スル各期日
 - 戊、飛行員及其他航務人員ノ人数及姓名
 - 己、飛行機ノ型、數、標識、發動機ノ種類及馬力

其十二、露國飛行機中國國境通過臨時

辦法 (十四年七月三日)

一、此回露國飛行機、來支ハ先ツ駐支露國大使ヨリ中國政府ニ正式通告シ其許可ヲ受ケ入境スルコトヲ行ヘ、並政府派遣員ノ検査ヲ受クヘシ

二、露國大使ハ左列事項(己ニ規定ノ各項ヲ除ク外)ヲ記入送付ニ審査ヲ受クヘシ

甲、飛行目的(己ニ試験飛行ト決定セリ)

乙、詳細ナル飛行線路及中國國內ニテノ停留時日

丙、出發及中國各地到着時日

丁、飛行士及其他航務人員ノ人数及姓名

戊、飛行機ノ型、數、標識、發動機、種類及馬力

三、露國飛行機ヲ中國國內ニ於ケル線路ハ中國政府之ヲ檢定シ該飛行機ハ該指定線ヲ飛行シ他處ヲ飛行スルコトヲ得ス

又指定線以外ノ土地ヲ自由ニ昇降スルコトヲ得ス、該線路ノ

西側ハ二十哩トス

四、此回ノ露國飛行機、來支ハ中央政府ハ黑龍江省、滿洲

里ヲ以テ入境地ト指定シハ出境地同シ一滿洲里ヨリ鐵道線
 路ヲ沿ヒ長春ヲ經尚欽道線路ニ沿ヒ北京ニ到ルヘシ後再々
 上海ニ赴クハシ滿洲里長春上海等ノ指定ニ於テ勝手ニ臨
 時飛行機昇降場設定スルコトヲ許可ス然レトモ右ハ今回
 ノミ提供スルモノナリ北京ニ於テハ南苑航空學校飛行場ヲ昇
 降場トス但シ北京到着ノ際北京城上空ヲ飛行スル場合ハ先
 ツ中國政府ニ通知許可ヲ受クヘシ上海到着ノ時ハ吳淞砲
 台ハ軍事上ノ關係アレハ該砲台ノ周圍五哩ノ上空ヲ飛行ス
 ルヲ禁止ス

五、禁制品馬具器具ヲ携帶シ無線電信機ヲ備ヘ並貨物ヲ
 輸送スルコトヲ得ス

六、人家稠密ノ地方ハ人及生命財產ニ危險ヲ及ホス虞アレハ
 一千呎以下ヲ飛行スルコトヲ得ス又天空ヨリ物品散布スルヲ
 得ス

七、此回露國飛行機ハ中國國内飛行ノ時其携帶ノ記明書及
 日記ハ必ス検査ノ為備ヘ置クヘシ又空中一切ノ規則ヲ遵守スヘシ

八、以上ノ辦法ハ此回露國飛行機入境ノミニ適用スル一時的ノ臨時
 辦法ニシテ中國ト示ク批准セル航空條約ト關係ナシ

第十、外國勢力

航空界ト外國關係

元來英國カ支那政府ニ對シ航空ノ鼓吹ヲ為セル當初ノ目的ハ歐洲戰後廢品トナル自國製ノ飛行機ヲ支那政府ニ賣付ケ且漸次自國ノ勢力ヲ支那空中界ニ扶殖スルニアリタリ尚伊佛兩國モ亦之ニ參加ノ希望アルモ未タ具體的ニハ進捗シアラス航空署カ英高ビツカース會社ヨリ購入セル飛行機ハ數回ニ分送シ現在ハ全部到着ニアリ然ルニ駐支英國公使ヨリ再三其代金支拂ヲ請求スルモ支那政府ハ未タ支拂ハサルニ依リ遂ニ英公使ハ支那政府ニ對シ航空署ヲ英支共同商業航空署ニ改ムヘク要求セルモ支那政府ハ主權ニ障礙アルヲ

理由トシ拒絶セリ而シテ英公使ハ其共同飛行ノ目的ヲ達シ能ハスト認ムルヤ直ニ強硬態度ニ出テ英國ヨリ購入セル飛行機ノ全價格ノ即時支拂ヲ要求セシヲ以テ支那政府ハ航空署トシカ善後策ニ就キ協議中第二次奉直戦開始セラレ直軍敗戦ス役執政トナリシ後モ未タ支拂ヲ為ス能ハス從來主トシテ英國ヨリ供給ヲ受ケタル航空資源モ近時殆ント杜絶ノ状況ニアリ然ルニ十四年五月下旬佛國ヨリ飛行機材料八箱(十一機分)北京航空署ニ到着セリ支那ハ今後再び航空資源ヲ佛國ヨリ仰カントスルニ非サルナキカ

附録

各飛行場所在地ノ沿革

其一、南苑航空學校

同校ハ民國二年參謀本部ニヨリ創設セラレタ
 ルモノナルカ其後航空署組織セラレテ募韓氏
 同署長トナルヤ同校ハ改メテ航空教練所トシテ
 航空署ノ管轄トナリ爾來六箇年間ヲ經過セリ
 然ルニ航空署長潘矩楹ハ同所ノ規模甚小ニシ
 テ到底新時代ニ順應セサルモノトナシ航空教
 練所ヲ再ヒ航空學校ニ復活セリ

其二、清河鎮飛機廠

英支飛行機借款ニ因ル英國人技師ト豫テ南苑
 航空署ニ傭聘セラレアル佛國人技師トハ各其技

術ト自國飛行機ノ優劣トヲ論争シ動モスレハ
 互ニ職工或ハ學生等ヲ擁シテ衝突スル虞アリシ
 為駐支英國公使ハ談技師等ノ此種行動ヲ
 以テ英支飛行機借款ヲ妨碍スルモノナリトナシ
 時ノ航空署長丁錦ヲ説得シテ航空事業ノ發
 展上南苑航空分署ヲ清河鎮ニ建設スルノ必
 要アル旨ヲ主張セシメ併セテ談建設費三百万
 元ノ附帶借款ヲ丁錦ト秘密ニ締結シ以テ英佛
 技師ノ衝突ヲ避ケルコトニ努メ一面英支飛行
 機借款ヲ擴張シ自國製飛行機ト自國人技師ト
 ニ依リテ支那ノ制空權ヲ掌握スヘク企テタリ支那
 モ亦素ヨリ航空事業ノ向上ニ腐心シ居レル折柄
 ナレハ直ニ丁錦ノ主張ヲ容レ九年八月一日清河

鎮元陸軍豫備學堂ニ航空分署ヲ設立シ其事業ヲ開始スルニ至レリ

其三、保定飛行隊（目下無シ其主力ハ洛陽ニ移駐ス）保定飛行隊ハ十一年奉直戰ノ當時南苑ヨリ四台ヲ當地ニ備附ケタルヲ創始トシ其効果良好ナリシヲ以テ曹錕ハ軍事上大ニ必要ナルモノトシテ戰後飛行隊ヲ設立スルコトニ決シ直隸陸軍飛行隊ト命名シ英米式ノ飛行機ヲ輸入シ專ラ訓練ニ努メタルカ曹錕大總統トナリテ後ハ該飛行隊ヲ北京航空司令部ノ直轄ト為シ編成ヲ改正セントシツツアリ